六、各宮殿下ノ御發著御通過ノ日時等關係方面ヘ通報方ニ關スルコト

七、市接伴係トノ連絡ニ關スルコト

以上の諸項中、事前に準備すべき事務は十一月五日を以て完了せり。而して一乃至三項の申告に對し、交付したる入場證及認諾書數左の如し。

入場證ヲ交付シタル者

資格	市内	市外	計
宮中席次第六階以上ノ者	五六	三	五九
奏任官、同待遇者	五三	六	五九
市長、助役	二	二	四
市會正副議長	二		二
各種褒章拜受者	三		三
商工會議所正副會頭	二		二
町村長、助役		一三	一三
縣、市會議員	三三		三三
縣農會正副會長		一	一
縣、郡醫師會長		一	一
判任官二等以上同待遇者	二七	一	二八
赤十字社特別社員以上ノ者	五六	五五	一一一
濟生會二百圓以上寄附者			
前各號ノ者ノ夫人	八七	一一	九八
赤十字社篤志看護婦人會支會長、支會副長及幹事	一		一
愛國婦人會支部長支部副長幹事同會三等有功章附加章以上佩用者	九〇	八	九八
帝國在鄉軍人會支部又ハ分會代表者		九	九
大日本武德會二等及三等有功章佩用者	一	二	三
計	四一四	一一二	五二六

認諾證ヲ交付シタル團體

團體名	代表者氏名	人員
前橋市城南女子青年團	牧辰雄	七八
縣立盲啞學校	倉林佐市	三〇
私立昌賢學堂	鈴木泰三	二〇
帝國在鄉軍人會前橋市聯合分會	渡邊洸	一二〇
私立共愛女學校	周再賜	八〇
私立前橋裁縫女學校	鈴木金五	三〇
群馬縣女子師範學校	樋渡熊雄	四〇
縣立前橋中學校	松下雅雄	七三六
縣立前橋高等女學校	鈴木勇次郎	三〇〇
私立平方裁縫女學校	平方金七	五〇
縣立前橋商業學校	田中駒治	四六〇
前橋市桃井尋常小學校	羽鳥耕作	一、四〇七
前橋市西部青年團	羽鳥耕作	一〇
市立桃井青年訓練所	羽鳥耕作	三〇
前橋市女子青年團	羽鳥耕作	二〇
私立鈴木裁縫學校	鈴木シゲ	五〇
市立前橋工業學校	塚越萬平	二三〇
私立明治裁縫學校	鈴木ゐま	二〇
計		三、七一一

2. 奉送迎の狀況

閑院參謀總長宮殿下には、大演習御用務の爲、十一月六日午後三時五十三分著列車にて、前橋驛御下車、本町・曲輪町通を經て群馬會館に入らせられて後、伊香保町へ御成の趣、十一月二日縣兵務部長より通牒ありたるを以て、當日有資格者は驛構内に、在鄉軍人・青年團等の各種團體は驛前廣場に、公私立各學校職員生徒兒童は驛前通兩側歩道に堵列、奉迎申上げたるを始めとし、翌七日午後二時日本赤十字社支部病院に、越えて九日午後三時四十六分、群馬會館御成に際し、夫れぞれの御沿道に於て奉迎申上げたり。其の他の皇族各宮殿下に對し奉りては、十一月十四日午後四時三十分より、市立久留万高等小學校内に御開催の、閑院參謀總長宮殿下御招宴に御成の砌、同校前通に於て奉送迎申上げたり。以上に於ける奉送迎狀況左の如し。

皇族御名	御日程	奉送迎場所	奉送迎狀況 有資格者數	奉送迎狀況 團體別	奉送迎狀況 人員
閑院宮載仁親王殿下	十一月六日 前橋驛御著群馬會館ヘ御成ノ砌	前橋驛構内及驛前通	二七〇	公私立學校職員生徒兒童 在鄉軍人分會員 男女青年團員 青年訓練所職員生徒 赤十字社社員	七、三三九 一二〇 九〇 七二 一四〇
閑院宮載仁親王殿下	十一月七日 日本赤十字社群馬支部病院ヘ御成後伊香保町ヘ御發ノ砌	紅雲町前代田通驛前通中川町新町通赤十字社群馬支部病院前岩神町通	七二	公私立學校職員生徒兒童 在鄉軍人分會員 男女青年團員 青年訓練所職員生徒 赤十字社社員 消防組員	一四、二七二 一二〇 七〇 四六 五〇 二四
閑院宮載仁親王殿下	十一月九日 群馬會館ヘ御成ノ砌	曲輪町通 竪町通		公私立學校職員生徒兒童	六、五四四
閑院宮載仁親王殿下 閑院宮春仁王殿下 閑院宮恒憲王殿下 賀陽宮邦憲王殿下 秩父宮雍仁親王殿下 李王垠殿下 朝香宮鳩彦王殿下 梨本宮守正王殿下 伏見宮博恭王殿下 李王鍵公殿下 竹田宮恒憲王殿下	十一月十四日 閑院參謀總長宮殿下御招宴ニ御成ノ砌	前橋市久留万高等小學校前通		市立小學校職員兒童	一、二九二
計			三四二		三〇、一八〇

第五節　皇族各宮殿下御動靜

皇族各宮殿下、本市御滯留中の御動靜は、左記の通と拜聞す。

秩父宮雍仁親王殿下

十一月十三日、宮殿下には大演習を終へさせられて御來橋、午後五時十三分御宿舍に入らせらる。

十一月十四日、午前八時三十五分御宿舍御發、觀兵式場、賜饌場に御成ありて午後二時二十分御歸舍、同三時十分より約四十五分間に渉り、殿下には御宿舍二階に於て、市内小學校兒童の旗行列を御覽あらせられ、萬歳奉唱に對し御會釋を賜はりたり。午後四時、大本營竝に閑院宮殿下御宿舍に御成の後、久留万高等小學校に於ける參謀總長宮殿下の御招宴に御成の後、自動車にて御歸京遊ばされたり。

閑院宮載仁親王殿下

十一月六日、宮殿下には午後二時三十一分佐野驛御發車御來縣、同三時五十三分前橋驛御著車、群馬會館に御成、大本營御視察の上、御宿舍伊香保ホテルに向はせらる。

十一月七日、伊香保ホテル御發、歩兵第十五聯隊神流川野外統監部御視察の後、芝根小學校に御著、午後二時日本赤十字社群馬支部病院に御成、午後二時四十分御宿舍伊香保ホテルに向はせらる。

十一月八日、午前八時御宿舍御發、乘附練兵場、觀音山野外統監部、山名野外統監部御視察、富岡中學校御著、貫前神社御參拜の後、午後一時三十分御宿舍伊香保ホテルに向はせらる。

十一月九日、御宿舍伊香保ホテル御發、午後三時四十六分御來橋御宿舍群馬會館に入らせらる。
十一月十日、午後零時五十五分御宿舍御發、統監部に御成の後、午後三時　陛下奉迎のため前橋驛に御成、同三時四十三分大本營御著、同五時七分御宿舍に入らせられ、同八時四十分御宿舍御發、大本營に御成、同九時二分御歸舍遊ばさる。
十一月十一日、午前五時御宿舍御發、大演習に御參加、午後二時十分御歸舍、同七時五十一分御宿舍御發、大本營に御成、同八時九分御歸舍遊ばさる。
十一月十二日、午前九時十分御宿舍御發、大本營に成らせられたる後、大演習に御參加、午後三時四十七分御歸舍、同八時五十一分御宿舍御發、大本營に成らせられ、同九時十六分御歸舍遊ばさる。
十一月十三日、午前六時十六分御宿舍御發、大演習に御參加、御講評場に御成の上、午後四時二十一分御歸舍、同六時十九分御宿舍御發、大本營に御成、同八時三十三分御歸舍遊ばさる。
十一月十四日、午前八時十五分御宿舍御發、觀兵式場、賜饌場に成らせられ、午後二時十三分一旦御歸舍、同四時四十五分御招宴場久留万高等小學校に御成、同五時四十三分御歸舍遊ばさる。
十一月十五日、午前九時五分御宿舍御發、自動車にて御歸京遊ばされたり。

賀陽宮恒憲王殿下

十一月十二日、殿下には午後六時四十五分演習地より御來橋、御宿舍に入らせらる。
十一月十三日、午前三時御宿舍御發、演習地に向はせられ、午後四時五分御宿舍に入らせらる。
十一月十四日、午前八時五十分御宿舍御發、觀兵式場、賜饌場に御成、午後二時五分一旦御歸舍の後、參謀總長宮殿下の御招宴場久留万高等小學校に御成、同五時三十分御宿舍に入らせられ、午後七時十分御宿舍御發、自動車にて御歸京遊ばされたり。

閑院宮春仁王殿下

十一月十三日、殿下には大演習を終へさせられ、午後五時三十分御來橋御宿舍に入らせらる。
十一月十四日、午前八時四十五分御宿舍御發、觀兵式場、賜饌場に御成、午後二時十二分御歸舍、午後三時五分より同四十五分まで市内小學校兒童の奉迎旗行列に御答禮遊ばされ、同四時三十五分參謀總長宮殿下の御招宴場、久留万高等小學校に向はせられ、同五時四十五分御歸舍遊ばさる。
十一月十五日、午前七時三十分御宿舍御發、赤城山に御登山、午後零時五分御歸舍、同一時十五分御出發、自動車にて御歸京の途に就かせられたり。

李王垠殿下

十一月十三日、殿下には大演習を終へさせられ、午後四時三十四分御來橋、御宿舍に入らせらる。
十一月十四日、午前八時四十二分御宿舍御發、觀兵式場、賜饌場に御成、午後三時御歸舍、市内小學校生徒の旗行列に御答禮遊ばされ、同四時四十五分參謀總長宮殿下の御招宴場、久留万高等小學校に御成、同五時四十分御歸舍遊ばさる。
十一月十五日、午前八時十分御宿舍御發、自動車にて高崎驛に向はせられ、御歸京の途に就かせられたり。

尙、御來縣の皇族殿下御十一方に對し、江原市長は、其の御宿舍に伺候して御機嫌を奉伺し、左記記念品を獻上せり。

接伴

一、卓子掛（絹織物加工）　壹枚
一、寫眞額縁付（參　枚）　壹組
一、前橋市統計書　壹冊
一、前橋市勢要覽　壹部
一、前橋市鳥瞰圖　壹部
一、前橋市名勝繪葉書　壹部

第三章　貴賓

第一節　宿舍主の心得

十月二十六日、縣主催の下に臨江閣別館に於て宿舍主會議を開催し、夫れぞれ協議する所ありしが、當日縣市接伴係より示したる「陪觀貴賓宿舍主心得」、竝縣より示されたる、「皇族供奉員貴賓及統監部員ノ宿舍主衛生上ノ心得」は左の如し。

1. 陪觀貴賓宿舍主心得

一、宿泊者ノ待遇ニ付テハ虛飾ト體裁ヲ避ケ浪費ヲ慎ミ誠意ヲ披瀝シテ懇切叮嚀ヲ旨トシ不便ト不快ノ念ヲ與ヘサル樣注意セラレタキコト

二、宿舍主ハ軍旗御發著ノ際ハ敬虔ノ念ヲ以テ送迎シ安置ノ間ハ常ニ敬意ヲ表シ苟モ軍旗ノ尊嚴ヲ冒瀆セサルコト

三、家族竝使用人ノ健康狀態ニ注意シ接遇上不都合ナキ樣心掛ケラレタキコト

四、宿舍ノ內外ハ常ニ清潔ヲ保持シ特ニ盜難、火災ニ注意セラレタキコト

五、宿舍ノ門前ニハ縣ニテ調製配付スヘキ宿泊者ノ官職氏名ヲ（縱一尺五寸、橫五寸縱書）掲ケラレタキコト

六、玄關ニハ名刺受ヲ備ヘ呼鈴ノ設備アルモノハ之ヲ完全ニセラレタキコト倘可成脫靴ニ便センカ爲椅子等ノ備付アレハ一層結構トス

七、玄關又ハ廊下等ニハ上草履トシテスリッパ或ハ麻裏ヲ用意セラレタキコト

八、應接室ナキ向ハ出來得レハ適當ナル室ヲ利用シ卓子等ヲ用意シテ應接ニ便セラレタキコト

九、座敷ニハ可成硯箱、小刀、卷紙、用箋、封筒、電報賴信紙、紙屑籠、手拭掛、鏡、ブラシ等ヲ備ヘラレタキコト倘洋服掛、衣籠等ノ備付アレハ一層便トス

一〇、座敷ニ電話、呼鈴等アルモノハ之ヲ完全ニシ其ノ設備ナキモノハ便宜卓上呼鈴ヲ用意セラレタキコト

一一、湯茶等ハ給仕人ヲ待タス自由ニ辨セラルル樣用意セラレタキコト

一二、ラヂオノ架設アル向ハ出來得レハ客室近クニ置カレタキコト

一三、料理ハ衞生ヲ重シ豫メ食事ノ時間ヲ問合セ其ノ時刻ニ遲レサル樣留意シ倘辨當ハ演習地ヘ携行ノ必要アルヲ以テ前夜中ニ問合セ置キ時刻迄ニ用意セラレタキコト

一四、牛乳ノ要否ハ豫メ問合セ置キ差支ナキ樣注意セラレタキコト

一五、食器類ハ叮嚀ニ洗滌シ清潔ト衞生等ニ注意セラレタキコト

一六、給仕人ハ服裝ヲ清潔ニシ用向ハ總テ敏活ニ處理セラレタキコト

一七、洗面所ニハ洗面器、石鹼、コップ、手拭等ヲ用意セラレタキコト

一八、浴場ニハ手拭、石鹼、洗面器等ヲ備ヘ置カレタク倘豫メ入浴ノ時刻ヲ聞キ其ノ時刻迄ニ準備シ案內セラレタキコト

一九、宿泊人員ニ應シ清潔ナル丹前、浴衣及簡單ナル帶等ヲ用意シ置カレタキコト

二〇、衣服ハ叮嚀ニ取片付ケ洋服ノ塵除、靴ノ手入等ニ意ヲ用ヒ翌日ノ行動ニ差支ナキ樣取計ラハレタキコト

二一、二人以上宿泊ノ場合ハ寢具丹前、浴衣等混同セサル樣整理シ置カレタキコト

二二、寢具ニハ白布ヲ掛ケ丹前、浴衣、座布團等ト共ニ時々日光ニ曝サレタキコト

二三、寢室ニハ飲用煮沸水、懷中電燈若ハ手燭、マツチ、煙草盆等ヲ用意セラレタキコト

二四、就寢時刻後ハ靜肅ヲ旨トシ安眠ヲ妨ケサル樣注意セラレタキコト

二五、適當ナル場所ニ痰壺ヲ配置セラレタキコト

二六、便所ハ特ニ清潔ニシ防臭劑又ハ石灰ヲ撒布シチリ紙ヲ用意セラレタキコト倘夜間點燈ノ設備ヲ得ハ一層便ナリ

二七、手洗器又ハ手洗タンクニハ常ニ清水ヲ滿ヘ置カレタキコト

二八、購讀中ノ新聞ハ可成敏速ニ閲覽ニ提供セラレタキコト

二九、停電等ノ場合ヲ顧慮シ豫メ室內ニ點燈ノ準備ヲ爲シ置カレタキコト

三〇、物品調達ノ依賴ヲ受ケタルトキハ速ニ精良ナル品ヲ調達シ其ノ時々計算ヲ明ニシ金錢ノ授受ヲ明確ニセラレタキコト

三一、宿泊者ノ外出ニ付テハ行先及歸舍時刻等ヲ聞置キ不在中訪問客アリタルトキハ其ノ姓名及用向ヲ別ニ配付スル用紙ニ記錄シ歸舍ノ際ハ速ニ之ヲ閲覽ニ供セラレタキコト

三二、宿泊者ヨリノ用件又ハ不在中ノ訪問其ノ他必要ト認ムル事項ハ直ニ縣市接待係ヘ電話其ノ他ノ方法ヲ以テ交渉又ハ報告ヲ爲シ倘

時々縣市係員宿舍ヲ訪問スルヲ以テ充分聯絡ヲ圖ラレタキコト

三三、宿泊者宿泊地引上ノ日時ヲ豫メ聞合セ置キ縣市係員等ニ聯絡ヲ圖リ遺憾ナキ樣注意セラレタキコト

三四、宿泊者ニ於テ荷物發送ノ依頼ヲ受ケタル時ハ必ス荷札二枚宛ヲ完全ニ取付ケ置ク樣注意セラレタキコト

三五、旅籠料ハ軍部ニ於テ宿泊者ノ階級ニ應シ左表ノ通定メラレ食飼料及宿舍料ハ缺食或ハ宿泊セサルトキハ之ヲ支拂ハレサルモノニ付計算上過誤ナキ樣注意セラレタキコト尚引上ノ際混雜等ノ爲旅籠料又ハ依頼ヲ受ケ購入セル物品代金ノ支拂ヲ失念セル向ニ對シテハ其ノ儘ニ放棄セス遠慮ナク之ヲ本人ニ申出テ必ス受領セラレタキコト

定額

區分	朝食	晝食	夕食	宿舍料	計
將官 親勅任官	一、三〇円	一、〇〇円	一、三〇円	一、三〇円	四、九〇円
佐尉官 准士官 奏任官	一、〇〇	、八〇	一、〇〇	、九〇	三、七〇
判任文官 下士官 雇員	、七〇	、六〇	、七〇	、六四	二、六四
兵 傭人（日給二円以下）	、五五	、五〇	、五五	、四五	二、〇五

以上ハ心得ノ大要ニシテ其ノ標準ヲ示シタルニ過キス之カ取捨選擇ハ宿舍主ノ隨意トスル所ニシテ其ノ設備等ニ於テモ決シテ强制スルモノニアラス、要ハ各自在來ノ家具調度ヲ以テ接待シ得ル範圍ニ於テ御留意ヲ希フ次第ナリ

昭和九年十月

群馬縣接待係
前橋市接伴係
高崎市接伴係

2. 皇族供奉員貴賓及統監部員ノ宿舍主衞生上ノ心得

一　邸宅ノ内外ハ常ニ掃除ヲ怠ラス清潔ヲ保ツコト

二　室内ハ時々掃除シ且戸障子ヲ開放シ採光換氣ヲ計ルコト

三　柱敷居及襖障子ノ引手等ハ清拭シ清潔ヲ保ツコト

四　寢具敷物等ハ清潔ナルモノヲ用ヒ御投宿前良ク日光ニ曝シタル上使用スルコト

五　寢具其ノ他飲食物器具等ハ本年六月以降法定傳染病ノ發生シタル家又ハ肺結核癩等ノ傳染性疾患者アリタル家ヨリ借入レサル樣注意スルコト

六　寢具ハナルヘク清潔ナル白布ヲ以テ被包シタルモノヲ用ヒ特ニ燃掛枕掛敷布等ハ清潔ノ白布ヲ以テ毎日清潔ナルモノト取換フルコト

七　傳染性疾患者病原體保有者ハ勿論一切ノ病者ヲシテ飲食物ノ取扱調理又ハ給仕等ヲ爲サシメサルコト

八　庖厨ノ作業ニ從事スル者及給仕人ハ之ヲ一定シ置クコト

九　調理人ハ清潔ナル衣類ヲ著用シ作業ノ際ハ白キ胸掛ヲ用ユルコト

一〇、飲食物ノ調理取扱及給仕ヲ爲ス者ハ必ス供膳ノ前石鹼及湯ヲ用ヒテ良ク手ヲ洗滌シ且含嗽スルコト

一一、飲食物用器具ニハ凡テ適當ナル覆蓋ヲ爲シ塵埃昆蟲類ノ附著ヲ防クコト

一二、飲食物ノ調理場ハ採光換氣ヲ充分ニシ常ニ清潔ヲ保チ蠅其ノ他昆蟲ヲ驅除スルコト

一三、宿舍外ノ調理場等ヨリ飲食物ヲ運搬スル場合ハ清潔ナル運搬器ヲ用ヒ覆蓋ヲ完全ニシ更ニ白布ヲ以テ覆ヒ塵埃、昆蟲類ノ附著セサル樣注意スルコト

一四、飲食物ノ調理ニヨリ生スル廢物ハ凡テ覆蓋アル一定ノ容器ニ收集シ一日一回以上他ニ搬出シテ停滯セシメサルコト

一五、銅、青銅製ノ器具ハ使用前充分ニ磨キ固有ノ光澤トナシタル後使用シ且之等ノ器具ヲ以テ調理シタル飲食物ハ直ニ瀨戸物其他ノ器具ニ移スコト

一六、飲食物ノ調理器ニシテ琺瑯ノ剝離シタルモノ又ハ銅青銅製等ノ器具ニシテ錆化シタルモノハ使用セサルコト

一七、飲食物器具其ノ他直接口ニスヘキ器具ハ清水ニテ良ク洗滌シタル上熱湯ヲ灌クコト

一八、飲料水及洗滌水（盃洗ノ水等）ハ一旦煮沸シタル後放冷シタルモノヲ用ユルコト

一九、飲食物ハ新鮮ナルモノヲ選ヒ且貯藏ニ注意シ腐敗シ易キモノ及前日調理シタルモノ若ハ不熟ノ果物濁濁セル「ビール」「サイダー」等ハ一切用ヒサルコト

二〇、風呂場、浴槽、水槽等ハ使用前良ク掃除シタル後熱曹達液ニテ擦拭シ其後ハ使用毎ニ淨水ニテ洗滌スルコト

二一、風呂場、洗面所ニハ清潔ニシテ新鮮ナル多量ノ清水ヲ備ヘ且洗面及含嗽ノ用ニ供スル水ハ煮沸水トスルコト

二二、室内廊下等ニハ目觸リトナラサル適當ノ場所ニ清潔ナル唾壺ヲ備ヘ毎日掃除ヲ爲スコト

二三、厠圊ハ專用トシテ充分清潔ニシ特別ノ裝置ヲ有スルモノノ外御投宿前之ヲ汲ミ取リ同時ニ石灰ノ類ヲ撒布シ鋸屑籾殼等ヲ投入シテ乾燥セシメ置キ毎日一回以上掃除シ屎尿ノ充滿セサル樣夜間汲ミ取リ搬出スルコト

二四、便所ニハナルヘク流水裝置ノ手洗器ヲ設備シクロール石灰ヲ以テ消毒シタル清水ヲ湛ヘ置クコト

二五、下水其ノ他ノ汚物溜等ハ停滯又ハ充溢セシメサル樣注意シ清潔ヲ保ツコト

昭和九年九月

群馬縣

第二節　驛前送迎及宿舍訪問

1. 驛前の送迎

陪觀貴賓の宿舍は、其の大部分を本市に割當せられたり、依て之が接遇の爲、十一月九日より前橋驛前出張所に、

陸軍特別大演習竝地方行幸　群馬縣接待係　前橋市接伴係　出張所

の立札を掲げ、各係員は其の部署に就き、貴賓來橋の時刻は各種の連絡に依り、的確に之を豫知することに努め、到著時刻及官職氏名を本部竝宿舍主に豫告し、到著の際は其の都度之を迎へて受付簿に記入し、卽刻宿舍主竝本部に通報すると共に、配車の準備をなせり。卽ち親補職以上に對する自動車は、參謀本部に於て專用車を提供し、豫め統監部に車輛の申込を爲したる貴賓に對しては、統監部に於て配車を爲し、其の他の貴賓に對する車輛は、概ね縣に於て供給したるも、統監部列車の發著時等、縣の配車にて不足を生じたる場合は、市に於て補充配車し、宿舍と驛前間とを係員同乘案內せしめ、又前橋驛出發に際しても、係員之が見送りを爲し、同月十八日を以て、出張所の事務を閉鎖せり。尙、前橋市聯合靑年團員七人は、縣市の委囑に應じ、毎日宿舍案內として自動車に同乘し、或は荷物運搬に從事する等、出張所の事務を援助されたり。

2. 宿舍訪問

本市に御宿泊の貴賓は、親任官三十一、勅任官百五、衆議院議員三、奏任官其の他百六十四、合計三百三人にして、是等貴賓の滯在中各宿舍を訪問する爲、市內を六區に分ちて係員に分擔せしめ、各宿舍毎に訪問錄を作製し、貴賓の動靜、用事の有無竝其の處理方等を記載し、係長に報告せしめたり。尙、訪問時刻は止むを得ざる場合の外は、成るべく貴賓の迷惑とならざる時刻を選び、特に食事時刻は之を避け、夜間は九時を限りとせり。

又、右訪問の外、滯在中の各大臣に對しては江原市長、親補職以上に對しては堀委員長、其の他に對しては伊能係長及係員其の宿舍を訪問し、夫れぞれ慰問の挨拶を述べ、前橋市勢要覽、前橋市鳥瞰圖、前橋市名勝繪葉書、前橋市街地圖、各一部を贈呈せり。

第三節　貴賓宿舍

貴賓宿舍表及其の要圖左の如し。

統監部宿舍一覽表

宿泊者	要圖番號	町名	宿舍主氏名	電話番號
內閣總理大臣海軍大將 岡田啓介 祕書官 大久保利隆 同 福田耕 同 迫水久常 囑託陸軍步兵大佐 松尾傳藏 內閣屬 小澤幸忠 警部補 山中久信 囑託 鈴木武	一七二	榎町九	料亭(樂) 高田ラク	三五三 一、七〇一
內大臣伯爵牧野伸顯	一五八ノ二	本町一一	旅館(白井屋) 兼松春雄	一〇二

内務秘書官	後藤文夫	一六一	紺屋町六一
内務書記官	橋本清之助		料理店（松綠）河合まげ
陸軍大臣	林銑十郎	一八三	紺屋町二六
陸軍次官	橋本虎之助		料亭（富久屋）淺野清太郎
陸軍中將	有末精三		
陸軍歩兵少佐	増田繁雄		
陸軍歩兵大尉	一		
陸軍憲兵准士官	一		
運輸文書官	二		
海軍大臣	大角岑生	七六	神明町三八
海軍大將	志岐常雄		醫師 北川光雄
海軍少佐	一		
海軍屬員	一		
運輸巡査部長	一		
鐵道書記官	内田信也	一七一	榎町一二
鐵道秘書官	高橋邦夫		料理店（福井）關口三千代
鐵道屬	二		
宮内大臣	湯淺倉平	一五八、一	本町一一
農林大臣	山崎達之輔	一八二	榎町六
陸軍歩兵少佐	村田孝生		料理店（新松）河合フジ
侍從長	鈴木貫太郎	五八、一	本町一一
侍從武官長	本庄繁		旅籠館（白井屋）松春雄
海軍大將			
陸軍大將			
檢事長	林頼三郎	四二	曲輪町三一
書記總長	本田庄藏		醫師 六本木久雄
陸軍大將	内田小二郎	七八	神明町一一
陸軍砲兵大尉	神山森六郎		銀行員 原鷹丸
樞密顧問官	河合操	七五	神明町六
陸軍大將	淺野陸奥夫		醫師 江交次
陸軍航空兵大尉			
陸軍大將	大高井橋成次元	一〇五	岩神町一、一五七
陸軍歩兵大尉			吳服商（小松屋）佐藤重太郎

樞密顧問官	鈴木貫太郎	二〇一	新町七七
陸軍歩兵大將	岩田義清		地主 江原よね
陸軍歩兵大尉	廣瀨信六	二〇	
陸軍大將	奈良武次	二〇〇	新町八二
陸軍砲兵大尉	大迫勝		公使 江原桂三郎
陸軍大將	井上幾太郎	三一	堀川町二
陸軍航空兵少佐	長谷川正雄		豫備海軍軍醫少將 醫師 新井慶三郎
海軍大將	加藤寛治	七一	北曲輪町一七
海軍參議官	中匡一		官吏 金澤正雄
運輸轉手	輔		
陸軍大將	鈴木孝雄	八〇	竪町二一
陸軍砲兵大尉	島内螺雄		陶器商 荒井仙吉
陸軍大將	岸本鹿太郎	七九	北曲輪町五四
陸軍歩兵大尉	間瀨平		醫師 田中久
陸軍參議官	渡邊錠太郎	一一〇	岩神町七八二
陸軍大將	山口重德		退役陸軍歩兵中佐 安藤正義
陸軍航空兵大尉			
運輸轉手			
軍事參議官	荒木貞夫	一五七	本町一二
陸軍大將	矢崎節三		料理店（岡源）小林ちづ
陸軍歩兵少佐			
陸軍騎兵大尉	松木直亮	六五	北曲輪町五〇
聯合艦隊司令長官	赤木喜代治		醫師 太原均
海軍大將	末田信正	六八	北曲輪町三八
運輸轉手	中菊松		會社電役 江原三郎
陸軍大將	林仙之	五七	北曲輪町四一
陸軍砲兵大尉	長谷川宇一		醫師 松山信六
朝鮮軍司令官	植田謙吉	八三	竪町三七
陸軍中將	住田美夫		絲商 須藤安平
陸軍騎兵大尉			

臺灣軍司令官 陸軍中將	伯爵 寺內壽一	二二三	才川町四八六	醫師 小池元三郎
參謀次長 陸軍砲兵大尉	飛松伸三			七七
陸軍中將	杉山元	一五三	桑町三一	旅館(住吉屋) 宮內音英
第九師團長 陸軍騎兵中將	男爵 山田豐造	一三七	小柳町三六	織物製造業 今井庄平
第十師團長 陸軍步兵大尉	中將 建川美次	九八	向町九四	製絲業 岡部傳平
東京控訴院長 書記長	男爵 田川治廣	七〇	北曲輪町一四	官吏 石田伊太郎
海軍中將	中野直枝	一七九	萱町一五	醫師 高平儀一
陸軍中將	松井庫之助	四一	南曲輪町二二	會社重役 荒井長重
陸軍中將	吉江石之助	二〇	堀川町六	銀行重役 岡崎秀雄
陸軍中將 陸軍步兵大尉	神頭勝彌 町田敬二	三八	南曲輪町一	材木商 栗原彌平治
陸軍中將	芝生佐市郎	九六	神明町六六	官吏 上島清二
陸軍輜重兵大尉	今坂新也	六六	北曲輪町六四	醫師 關口林五郎
陸軍中將	鳴瀧紫磨	二〇三	百軒町四四三	無職 江原寬次
陸軍中將	天野邦太郎	九三	神明町六一	無職 平松三雄
陸軍中將	今坂新也	六六	北曲輪町六四	醫師 關口林五郎
陸軍中將	柴山重一	八四	神明町三三	醫師 山田貫一

陸軍中將 陸軍步兵大尉	上野原村太郎茂	二三二	國領町五三	會社員 岡田銹象
陸軍中將	渡邊金造	七八	神明町一四	無職 內田豐
陸軍中將	山本清次	一四七	竪町五八	地主 木原五郎
陸軍中將	齋藤恒	一二〇	曲輪町一	自動車運輸業 大塚鹿藏
陸軍中將	汾陽光二	八四	國領町一〇一	醫師 岸坤二
陸軍中將	大村有隣	五九	曲輪町一〇六	會社員 齋藤縫
陸軍中將 陸軍航空兵大尉	厚東山篤太郎 龜計衞	七二	竪町五	菓子商 太田正一
陸軍中將 陸軍少將	四王天延孝 小野天卯太郎		石川町一〇	官吏 星子政雄
陸軍中將	勝野正魚	一〇二	向町七三	會社重役 木村次雄
陸軍技術本部長 陸軍砲兵大尉 運輸部長	岸本綾夫 山口一正	二八	本町八三	生絲商 金井浦治
陸軍中將	森吉連 永義尊	一〇〇	向町八三	會社員 金子武次
陸軍中將 陸軍步兵大尉	鎌田彌彥 遠藤悅	五八	北曲輪町七四	辯護士 醫田三十郎
陸軍中將	安田鄉輔	八一	竪町二五	呉服商(釜屋) 阿久澤覺次郎
陸軍運輸部本部長 陸軍步兵少將	三村宅光 井泉一治	一二四	琴平町一四	土木建築請負業 小野里龜澄
陸軍中將 陸軍航空兵大尉	吉田岡村豐 高輔	一八四	本町二二	生絲商 高橋駒次郎

陸軍築城部本部長 陸軍中將 陸軍工兵大尉 運轉手	高橋眞八 布施廣治	一九三	芳町六二	建築請負業 小林武四郎
陸軍中將	石井英橋	一四二	立川町四一	荒物商 設樂友好
輜重兵監 陸軍中將 運轉手	井上達三	一八六	本町三二	生絲商 下田末吉
第三師團司令部附 陸軍中將 陸軍砲兵少佐	稻垣孝照 西澤勇雄	一一一	岩神町二四三	公東 鳥海喜久多
第十六師團司令部附 陸軍中將 陸軍步兵少佐	澁谷伊之彦 岡田博二	一七七	萱町三五	醫師 豐田宗作
陸軍中將	武田秀一	一〇一	向町八二	材木商 金子一郎
陸軍中將	中村濱作	九七	神明町四二	無職 田原倚
陸軍航空本部長 陸軍中將 陸軍航空兵大尉	堀米滿丈慶藏夫			
陸軍造兵廠長官 陸軍中將 陸軍砲兵少佐 運轉手	植村窪東 桓彦	一四六	竪町五三	海產物商 泉德之丞
工機學校長 海軍中將 海軍機關中佐	小野三郎 根本德金	一七八	萱町四五四	醫師 山下理作
海軍中將	藤吉皎	一七六	萱町三六	醫師 岡田濟美
陸軍次官 陸軍中將 陸軍步兵少佐 秘書官	橋本虎之助 小松光彦	一八三	紺屋町二六	料理店（富久屋） 淺野清太郎

第七師團司令附部 陸軍中將 陸軍步兵少佐	大遠塚藤堅之助	一六二	桑町乙ノ六	藥種商 鈴木愛三
下志津陸軍飛行學校長 陸軍中將 陸軍航空兵少佐 運轉手	大江亮一 今西六郎	二一二	榮町五五	生絲商 海津忠作
憲兵司令官 陸軍中將 陸軍憲兵少佐 陸軍憲兵大尉	田代皖一郎 長濱彰 小笠原義一	六〇	北曲輪町四六	無職 野中かの
陸軍省人事局長 陸軍中將 陸軍步兵大尉 運轉手	松浦淳六郎 池田呢一	一八一	榎町三五	貸家業 小林周造
陸軍中將	山崎定義	一四八	竪町六一	メリヤス商 高桑甚三郎
陸軍造兵廠東京工廠長 陸軍中將 陸軍砲兵大尉 運轉手	高橋貞夫 立薗榮一	六九	北曲輪町三八	舞護士 關口志行
陸軍技術本部第一部長 陸軍中將 運轉手	中島三郎	一六四	桑町五	小間物商 關口三司
海軍中將	深水貞吉	二〇八	一毛町二六七	建築請負業 小林三次郎
陸軍主計總監	藤田順	七七	神明町一一	生絲商 阿部善太郎
陸軍中將	和田龜治	二二四	才川町四五九	製絲業 石原伊三郎
陸軍省醫務局長 陸軍軍醫總監 陸軍一等軍醫	小泉親彥 北島規矩郎	一四五	諏訪町六八	貸家業 新井丑五郎

陸軍獸醫學校長 陸軍獸醫總監 陸軍三等獸醫正 運輸轉手	新美館太 松尾義一	一九一	萱町六二	醫師 長澤博
陸軍中將 陸軍歩兵大尉	河田四十一 松村重夫	二〇二	百軒町四四九	醫師 阪井昭雄
陸軍少將	加藤豊三郎	六一	北曲輪町七八	仲介業 森文之助
陸軍少將	山田軍太郎	一三三	小柳町一一	生絲商 櫻井豊吉
陸軍少將	中川節	二一五	清王寺町五三二	製絲業 奈良金太郎
陸軍少將 陸軍少將	奥田爲三郎 羽入焦郎	七四	竪町一四	旅舘(東鄕館) 鶴敬太郎
陸軍少將	守永彌惣次	一四九	横山町一八	茶商 田口清之助
陸軍少將	古賀義勇	一九	堀川町一一	會社重役 清水由五郎
陸軍少將 陸軍少將	渡部地春吉 湯地春吉	三三	堀川町三九	辯護士 大澤愛次郎
陸軍少將	本城嘉守	四八	紅雲町二七八	會社員 本間國文
陸軍少將	栗原重平	一三九	榮町三	生絲商 河野要治
海軍少將	江口金馬	一四二	立川町二一	醫師 矢部莊造
陸軍少將	淺井光三郎	一五九	本町一五	會社重役 竹内清次郎
陸軍少將	星埜文一郎	二一〇	諏訪町六二	製絲業 田村作太郎
陸軍少將	三木宗太郎	一六〇	紺屋町四〇	質屋業 小泉次郎
陸軍少將	倉島富次郎	一四三	諏訪町九	材木商 丸山嘉一

陸軍少將	三浦眞	三	田中町一一三	自動車運輸業 繁山作太郎
陸軍少將	安井正吾	一三四	小柳町二一	建築請負業 中澤順作
陸軍少將	前田吉平	一六三	桑町六	玩具商 今井豊次郎
陸軍少將	伊藤政之助	一八九	芳町一二〇	醫師 中島了介
陸軍少將	角田政之助	五四	南曲輪町八九	退役歩兵大尉 高山藤四郎
陸軍少將	原田宗一郎	一五〇	桑町五五	茶商 田中吉藏
陸軍少將	高木茂	二〇七	一毛町四一六	醫師 山下義夫
陸軍戶山學校長 陸軍少將 陸軍歩兵大尉	深澤友彦 高柳淺四郎	一二九	細ヶ澤町三〇	繭絲商 阿部文雄
陸軍技術本部第三部長 陸軍少將 運輸轉手	林清 堤茂 馬場清二郎	二二〇	清王寺町三三二	醫師 高柳郁三
陸軍少將	茂木謙之助	一三五	小柳町三〇	醫師 小松陸三郎
陸軍少將	高山輝義	一九八	芳町九四	牛乳販賣業 久保村喜次
陸軍少將	中川金藏	一九九	天川原八一二	川魚問屋 元川嘉市
陸軍少將	岡本忠雄	一九七	芳町二八	酒類販賣業 大竹宗吾

陸軍技術本部總務部長少將	弘岡好忠	一二	田中町四八	銀行員 鈴木金五
陸軍省兵器局長少將 陸軍砲兵大尉 運轉手	工學博士 多田禮吉 佐藤裕雄	二二	田中町五九	石油、石炭販賣業 角張重介
陸軍省軍務局長 陸軍少將 陸軍步兵大尉 運轉手	田鐵山 永松下勇三	一五八	本町一	旅館（岩六） 金子六平
陸軍步兵中佐	石丸甚藏	一五一	桑町五二	呉服商（小川屋） 荒木良三
陸地測量部長少將 陸軍工兵大尉 運轉手	鈴木長 廣瀨元一	一二七	細ヶ澤町四三	肥料商 北川伊三郎
陸軍航空本部總務部長少將	小笠原數夫	一六五	横山町二四	醫師 羽生田俊次
陸軍少將	澤木元雄	八二	神明町二一	會社員 江川鎧一
陸軍少將	横尾則義	一二三	岩神町五八	繭商 片野久太郎
陸軍少將	石井豐吉	四五	南曲輪町六一	建築請負業 小曾根甚八
陸軍少將	佐藤正	五	田中町九九	自動車販賣業 天野文夫
陸軍少將	西村辨	二〇九	一毛町二一七	製絲業 若井弓太郎
陸軍少將	辻權作	二一	堀川町三	醫師 田口節朗
陸軍主計監	矢上英太郎	二一一	諏訪町五七	製絲業 梅澤庫太郎
陸軍被服本廠長 陸軍主計監	奥田德三郎	二二二	才川町一〇一	生絲商 龜井義一
陸軍主計監	大津留重	一五	前代田一〇五	公吏 西村忠三郎
陸軍步兵大佐	町田滕五郎	一九四	本町四八	材木商 吉荒茂七
陸軍步兵大佐	小山永行	二二九	清王寺町三一四	無職 佐久間敏雄
海軍主計大佐	加納金三郎	六七	北曲輪町三三	銀行員 江原義雄
海軍大佐	阿部嘉輔	二一一	才川町一〇二	繭絲商 大林峯太郎
陸軍步兵大佐	根本博	一六九	榎町一七	料理店（新三村） 三村芳樹

陸軍少將	石川房三	一九五	芳町七三	材木商 菊池政司
陸軍少將	土居稻生	七	田中町八八	醫師 田口節朗
陸軍少將	西村辨	二〇九	一毛町二一七	製絲業 若井弓太郎
陸軍少將	辻權作	二一	堀川町三	來穀商 木戸金治
陸軍少將	矢上英太郎	二一一	諏訪町五七	製絲業 梅澤庫太郎
陸軍被服本廠長 陸軍主計監	奥田德三郎	二二二	才川町一〇一	生絲商 龜井義一
陸軍主計監	大津留重	一五	前代田一〇五	公吏 西村忠三郎
陸軍少將	小野卯太郎		石川町一〇ノ一	官吏 星子政雄
陸軍少將	小野幸吉	一〇七	岩神町八一	地主 横地桂作
陸軍少將	辻權作	二一	堀川町三	來穀商 木戸金治
陸軍砲工學校工兵科長少將	內田莊一	一三六	小柳町三五	材木商 平方貞雄
陸軍少將	中山健	一一四ノ一	萩町一五〇	公吏 堀康雄
東京憲兵隊長 ◎陸軍少將	持永淺治	一九六	片貝町七	織物製造業 勝山益太郎
所澤陸軍飛行學校長 陸軍少將	男爵 德川好敏		紅雲町二九	無職 下村善右衛門
陸軍航空兵大尉 運轉手	福田龜一治	四七		
陸軍少將	小野卯太郎		石川町一〇ノ一	官吏 星子政雄
陸軍少將	小野幸吉	一〇七	岩神町八一	地主 横地桂作
陸軍少將	辻權作	二一	堀川町三	來穀商 木戸金治
陸軍主計監	矢上英太郎	二一一	諏訪町五七	製絲業 梅澤庫太郎
陸軍砲工學校工兵科長少將	內田莊一	一三六	小柳町三五	材木商 平方貞雄
陸軍少將	中山健	一一四ノ一	萩町一五〇	公吏 堀康雄
東京憲兵隊長 ◎陸軍少將	持永淺治	一九六	片貝町七	織物製造業 勝山益太郎
所澤陸軍飛行學校長 陸軍少將	男爵 德川好敏		紅雲町二九	無職 下村善右衛門
陸軍航空兵大尉 運轉手	福田龜一治	四七		
陸軍三等主計正	吉良五市	八	田中町八〇	石炭商 本島昌三郎
陸軍砲工學校工兵科長少將	內田莊一	一三六	小柳町三五	材木商 平方貞雄
陸軍少將	中山健	一一四ノ一	萩町一五〇	公吏 堀康雄
東京憲兵隊長 ◎陸軍少將	持永淺治	一九六	片貝町七	織物製造業 勝山益太郎
所澤陸軍飛行學校長 陸軍少將	男爵 德川好敏		紅雲町二九	無職 下村善右衛門
陸軍航空兵大尉 運轉手	福田龜一治	四七		
陸軍少將	小野卯太郎		石川町一〇ノ一	官吏 星子政雄
陸軍少將	小野幸吉	一〇七	岩神町八一	地主 横地桂作
陸軍少將	辻權作	二一	堀川町三	來穀商 木戸金治
陸軍主計監	矢上英太郎	二一一	諏訪町五七	製絲業 梅澤庫太郎
陸軍被服本廠長 陸軍主計監	奥田德三郎	二二二	才川町一〇一	生絲商 龜井義一
陸軍主計監	大津留重	一五	前代田一〇五	公吏 西村忠三郎
陸軍步兵大佐	町田滕五郎	一九四	本町四八	材木商 吉荒茂七
陸軍步兵大佐	小山永行	二二九	清王寺町三一四	無職 佐久間敏雄
海軍主計大佐	加納金三郎	六七	北曲輪町三三	銀行員 江原義雄
海軍大佐	阿部嘉輔	二一一	才川町一〇二	繭絲商 大林峯太郎
陸軍步兵大佐	根本博	一六九	榎町一七	料理店（新三村） 三村芳樹

海軍大佐	鈴木義尾	九〇	神明町七六	無職加納清造
陸軍一等主計正	石川半三郎	一	天川原七〇八	穀商渡邊錦三郎
陸軍一等主計正（運轉手）	中山二一郎	二三	田中町八二	會社員辻野清
陸軍一等主計正	市川乙佑	六	田中町一二六	公吏伊東保之麿
陸軍一等藥劑正	中山雄次	五六	曲輪町一〇二	信用組合監事松村初三郎
陸軍一等主計正（運轉手）	岡本信三	四六	石川町三八	銀行員津久井端平
陸軍一等軍醫正	安藤快平	一四〇	榮町六	官吏鯛瀨國一
陸軍步兵大佐	山本松雄	一八	堀川町一一	官吏奈良武一
陸軍步兵中佐	白石朝幸	一一七	萩町一八四	官吏多胡覺朗
陸軍步兵中佐	藤堂高英	二二五	才川町六五	撚絲業井常治
海軍中佐	田中賴三	二一六	清王寺町七一	産業組合理事根岸武夫
陸軍砲兵中佐	間藤徹十郎	一六七	横山町四四	會社員岡田文吉
陸軍步兵大佐（黑田重德）	横山貞槌	一三	田中町一二	醫師中島周作
陸軍砲兵中佐	菅晴次	一一六	萩町二四二	公吏中元信太郎
陸軍步兵中佐	三浦忠次郎	一一二	岩神町二四一	無職新井友吉
海軍中佐	加來止男	一二二	萩町二九三	官吏久合田米三郎
陸軍航空兵中佐	新井三郎	二	田中町一一五	紡績原料商岸眞三郎

海軍中佐	有馬馨	一五三	桑町三一	旅館（住吉屋）內宮晉英
海軍中佐	保科善四郎	一一五	萩町一五八	會社員田中松太郎
陸軍憲兵中佐	袖岡靜太	一七五	萱町三八	材木商丸山德太郎
陸軍輜重兵少佐	大林爲策	六四	北曲輪町七三	會社員黑岩二郎
海軍少佐	池田廣光	九九	細ヶ澤町二	綿商平塚亥七郎
海軍少佐（海軍少佐久能修三）	三浦鑑一（運轉手）	一八五	本町二五	會社重役永井篤三郎
海軍少佐	末澤慶政	二一七	清王寺町一二六	教員山田武治
海軍少佐	長岡博吉	四三	紅雲町五九	官吏吉永貫一
海軍少佐	大竹嘉十郎	六三	北曲輪町七三	會社員中山寅造
海軍少佐	竹下宣豐	五一	南曲輪町五八	官吏島田春吉
陸軍砲兵少佐	佐藤雅雄	一五五	連雀町六九	書籍商大類吉松
陸軍三等主計正（中田待次郎）	石坂富美雄			
陸軍三等主計正	三好采女	一八〇	萱町二三	醫師古谷野宏
陸軍三等主計正	內田榮喜	一〇三	岩神町三二	會社員杉立猛
海軍中佐	武田勇	四九	紅雲町乙ノ二九六	縣立中學校長松下雅雄
陸軍砲兵大尉	佐伯憲治		石川町一一	官吏上田憲雄

陸軍歩兵中尉	齋藤良	八八	神明町七六	教員 奈良勝太郎	
陸軍歩兵中尉	白田昌太郎	二三〇	清王寺町二一〇	女子師範學校長 樋渡熊雄	
陸軍輜重兵中尉	近藤與吉	一七八	紅雲町五九	官吏 今井富次	一〇〇
陸軍歩兵中尉	赤尾定則		萩町二九七	官吏 玉木耕熙	五八〇
陸軍砲兵中尉	三木左右衛門	七一八	北曲輪町一七	官吏 中澤滿平	五七八
陸軍工兵中尉	志賀幹次郎	二〇五	百軒町一八九	公吏 内田鷹助	一、五五八
陸軍歩兵少尉	高橋直隆	二〇六	大塚町三四	教員 中野茂十郎	
陸軍歩兵少尉	工藤若佐	一一八	萩町二一一	公吏 田野入善隆	
陸軍歩兵少尉	西田芳松	一一三	萩町一二一	公吏 小井戸方三郎	
陸軍歩兵少尉	菅原裕	四	田中町九九	公吏 劍持亥重郎	
陸軍歩兵少尉	安孫子芳尾		萩町二四二	自宅	
陸軍三等主計	中元信太郎		清王寺町	群馬縣男子師範學校	自一、九〇一 至一、九一八
統監部		一五三	桑町三一	旅館（住吉屋） 宮内晉英	一、一〇七 一、九二四
同職員宿舍		一七四	萱町七	旅館 關角昭和留吉	一、四七一 一、九二二
同宿舍掛			萩町	前橋市 敷島小學校	一、九二〇 一、九二一
同車輛掛			萩町		一、九一九
同輸送掛		三五	本町一一三	旅館（住屋） 小野田ツネ	四五三

同電信隊宿舍		一〇	田中町七二	旅館（前橋館） 松本メ	三一〇
同電信隊無線監督班宿舍		九	田中町七二	旅館（越後屋） 木村榮太郎	九九五
		一二八	琴平町二〇	旅館（田中屋） 横田勝太郎	一、一五五
		一三〇	細ヶ澤町一六	旅館（島屋） 津久井柳吉	
陸軍省自動車班宿舍 陸軍輜重兵少佐	井上恂		琴平町二〇	無職 紀春雄	四八一
大本營衛兵宿舍			南曲輪町	前橋市 桃井尋常小學校	一、九二六
同	供奉憲兵宿舍 地方憲兵宿舍		紅雲町	前橋高等女學校	一、九二五 一、九二九
供奉將校以下宿舍		七四	竪町一四	旅館（東郷館） 關敬太郎	二二七
內閣恩給局長 陸軍歩兵中佐	樋貝詮三 大澤寅二	一七三	榎町三九	土木請負業 村井隆三	五四一
內閣書記官	稲田周一	一五八	本町一	旅館（岩六） 金子六平	五二
內務省警保局長 屬	唐澤俊樹 水野清一	六九 ノ二	北曲輪町九二	官吏 久保田晙（タオサ）	二一一
內務書記官	宮野省三			無職	
同	生悅住馬			羽生田仁作	
同	永野若求				
同	菅池太郎				
內務事務官	水慶忠松		曲輪町九三		二一〇
同	西村一亮				
內務屬	種藤誠雄				
同	安玉晉男				
同	兒吉一吉				

接伴

内務省内務技師	内野仙一	一五四	曲輪町一〇二	料理店（赤城亭本店）羽生田與作	二一〇〇八
防疫官	飯村保二三	九四	神明町五七	官吏 三樹樹三	二〇九
◎内務省神社局長	石田馨	八九	神明町七六	製絲業 石鍋仙太郎	五七三
會計檢査院第二部第一課長 陸軍一等主計	廣瀨正一		神明町一七	銀行員 世良德治	
運輸手	東福清次郎	六七	萩町九三	官吏 山口富次郎	一、五七一
海軍參與官	窪井義道	七〇	北曲輪町一四	自宅	二四二
東京控訴院檢事長	光行次郎		北曲輪町甲一三	自宅	二四三
前橋地方裁判所長	石細井伊太郎	一八五	本町二九	料理店（新中川）かよ	三五二
前橋地方裁判所檢事正	南部金夫			群馬縣廳	二〇六 二〇七 四二〇 四三三
書記	藤井忠己	一六八	横山町二九	料理店（新玉）山村彦太郎	一〇九
埼玉縣知事	飯沼一省	一〇四	岩神町九〇	産業組合理事 杉山寅雄	四六五
外	七十九名				
群馬縣知事	金澤正雄	九五	神明町四二	文具商 牧村芳平	一、八六九
外	七十六名				
栃木縣知事	萱場軍藏	二一四	榮町二五	無職 齋藤義太郎	五六六
外	十八名				
千住製絨所事務官	海老澤柳英	四四	石川町二八	退役海軍大佐 青木國太郎	
日本赤十字社理事 海軍少將	伯爵佐野常羽	四三	石川町二三	豫備海軍大佐 江原收治	
日本赤十字社參事 陸軍砲兵少佐	海江田信秀				
舊前橋藩主	伯爵松平直富				
陸軍教授	武田寧信				
陸軍教授	神吉三郎				

圖要全宮市橋前 年九和昭 習演大別特

昭和九年 特別大演習 前橋市宿舎要圖

陸軍教授	岡野馨	二三〇	清王寺町三八	豫備陸軍歩兵大佐 渡邊洸	
栃木縣町村長會副會長	長谷川調七		堀川町六五ノ二	東京電燈株式會社前橋支店 内	一三〇
衆議院議員	池田敬八		神明町五九	久井忠雄	
衆議院議員	林田操		細ヶ澤町五	日本人造繊維株式會社 川野酉之助	一四四
衆議院議員	清水留三郎	四〇	曲輪町一四	無職 清水利三郎	二三三
僧	佐藤陸平 岩橋三溪	七四	竪町一四	旅館（東鄕館） 敬太郎	二二七
	增子懷永	五〇	南曲輪町七二	官吏 大出善五郎	
宮内省職員宿舍		一五八ノ一	本町一一	旅館（白井屋） 松春雄	一〇二
鐵道省職員宿舍		一八七	本町四三	旅館（油屋） 東野ブン	二二九
		一七四	萱町七	旅館（昭和館） 角留吉	四一七
		一五八	本町一	旅館（岩子） 金六平	五二
			紺屋町九	料理店（魚藤） 佐藤運治	八〇九
遞信省職員宿舍		一四一	榮町七	旅館（旭館） 小澤ハツ	一四九
日本放送協會 放送部職員宿舍		一五三	桑町三一	旅館（住吉屋） 宮内音英	一〇七 一、九二四
日本放送協會 技術部職員宿舍		七四	竪町一四	旅館（東鄕館） 敬太郎	二二七

備考 ◎印アルモノハ地方行幸ノ爲來縣セル者ニシテ陪觀者ニアラス

接伴

第四章　外國武官及新聞記者

第一節　來橋の外國武官

來橋の外國武官・指導官・隨員・通譯・掛職員の員數及其の人名左の如し。

伊	蘇	英	土	佛	米	中華	獨	波	滿洲	指導官	隨員	通譯	掛職員	計
二	四	一	一	二	四	三	一	一	二一	四	七	二	九	六二

外國武官人名　第一班

國別	兵種	官職	著任年月日	現官任官年月日	日本勳章	氏名
伊	工兵	大佐 大使館附陸空軍武官	昭和四、一一、一〇	昭和八、四、二一		エンリコ●フラテイーニ
蘇		大使館附武官	同七、四、九	同七、三、一		ジアン●リンク
英	工兵	大佐 大使館附武官	同七、六、一二	同七、五、二	勳四等旭日章	イー●エイ●エイチ●ゼイムス
土	參謀	少佐 大使館附武官	同八、二、二〇	同二、三、一一		ムスタフア●ルシユチユ●ベイ
佛	步兵	中佐 大使館附武官	同八、四、四	同七、一二、二五		シヤルル●エマニユエル●マスト
米	砲兵	少佐 大使館附武官	昭和八、一〇、四	昭和九、七、一		ウイリアム●シー●クレーン
中華		少將 公使館附武官	同九、三、一九	大正一四、三、一一		蕭叔宣
獨	砲兵	大佐 大使館附武官	同九、四、二一	昭和九、六、一		オイゲン●オツト
波	參謀	大尉 公使館附武官代理	同五、三、二九	同五、五、二八		アントニー●スロサルヂツク
佛	步兵	大佐 支那駐屯軍司令官		同六、六、二五		シヤルル●ルコー
蘇		大使館附武官　補佐官	昭和八、九、二二			ニコライ●ヴイシネウエツキー
米	步兵	大尉 大使館附武官補佐官	同七、一一、二八	大正九、七、一		ツルーマン●エム●マーチン
蘇	騎兵	騎兵幹部派遣將校	同九、二、一四			フエオドロフ
蘇	航空兵	航空兵幹部派遣將校	同九、二、一四			イワノフ
米	砲兵	大尉 外交官補	同六、一〇、二三	大正九、七、一		エムダブリユー●ベテイグルー
中華	步兵	大尉 公使館附助理員	同九、九、八	昭和六、三、一		嚴澤元
中華	砲兵	大尉 公使館附助理員	同九、九、八	同八、一一、一		胡屏章
米	通信兵	中尉 外交官補	同六、一〇、二三	大正一五、八、一六		ジエー●アール●シエーア
伊		少佐 大使館附武官				スカリーゼ

備考　伊國大使館附武官スカリーゼ少佐ハ著任直後陪觀ニ加ハリシモノナリ

外國武官人名　第二班（滿洲國）

職名	兵科	官名	現官任年月日	氏名
公使館附武官		少將	昭和七、四、一五	曹秉森
第二軍管區司令官		上將	同九、二、	吉興
軍政部次長兼中央陸軍訓練處長兼馬政局長		中將	同七、三、	王靜修
第一軍管區第一地區警備司令官兼混成第一旅長		中將	同七、二、	王殿忠
第四軍管區濱江地區警備司令官兼混成第十七旅長		中將	同八、四、	李文炳
第五軍管區司令部參謀長		中將	同九、九、	李盛唐
中央陸軍訓練處騎兵部長		少將	同八、一、	傅夢嚴
第一軍管區混成第六旅長		少將	同七、七、	蕭國萃
第三軍管區騎兵第五旅長		少將	同七、五、	馮廣友
第四軍管區混成第二十三旅長		少將	同七、	崔文林
第二軍管區騎兵第二旅長	騎兵	上校	同七、四、	尹保衡
第五軍管區第五教導隊教導騎兵第五團長	騎兵	上校	同七、六、	宋志銳
第三軍管區混成第十二旅步兵第十四團長	步兵	上校	同七、一〇、	胡文藻
第四軍管區混成第二十一旅騎兵第三十三團長	騎兵	上校	同八、五、	宮超
第一軍管區混成第四旅步兵第四團長	步兵	上校	同七、一一、	周良憲
第二軍管區混成第八旅步兵第十團長	步兵	上校	同七、二、	鄒鎰

興安省西警備司令部參謀長兼興安省西警備司令官代理 騎兵 上校 昭和八、一一、 烏古廷

第三軍管區混成第十五旅騎兵二十七團長 騎兵 上校 同九、九、 冷殿甲

新京被服支廠長 軍需 上校 同七、八、 趙榮陞

軍政部參謀司醫務課長 軍醫 上校 同九、九、 王漢相

憲兵訓練處學兵隊長 步兵 中校 同七、一〇、 常蔭東

滿洲國武官ノ指導官及隨員名

招待武官吉興上將以下五名ニ對スル

區分	職名	官等	氏名
指導官	軍政部最高顧問	陸軍少將	板垣征四郎
輔佐官	軍政部顧問	步兵少佐	芳賀豐次郎
隨行官	同顧問部勤務	騎兵上尉	深山文雄
隨從官	第五軍管區承德地區司令部參謀長	砲兵上校	李文
同	軍政部參謀司總務課副官段長	步兵中校	張學鑫
同	第一軍管區混成第一旅步兵第一團附	步兵中校	鄭希賢
同	第二軍管區混成第七旅步兵第九團第二營長	步兵中校	聞長仁
同	第四軍管區混成第十七旅司令部參謀	步兵少校	余錦華

見學武官傅夢巖少將一行ニ對スル

區分	職名	官等	氏名
指導官	軍政部顧問	歩兵少佐	金川耕作
指導官	軍政部顧問	歩兵大尉	北部邦雄
隨行員	第四軍管區顧問部附屬員		安中新
通譯	軍政部囑託		吉田忠一郎 外一名

外國武官掛職員名

區分	官等	氏名
長	砲兵中佐	酒井康
誘導將校	歩兵中佐	辰見榮一
同	歩兵少佐	石野芳男
同	歩兵少佐	山岡道武
同	歩兵少佐	今井武夫
庶務	歩兵大尉	大平秀雄
同	屬	樋口孝之助
同	雇員	加外田一包 名

第二節　招待會

外國武官一行は、十一月十四日午後三時、觀兵式場より來橋し、參謀總長宮殿下御招宴に參會する直前の、約一時間を利用し、本市招待會を勢多會館に於て開催せり。堀委員長より遠來の勞を犒ひ、吾前橋市を紹介する機會を得たるを喜ぶ旨の挨拶に次ぎ、誘導掛長酒井砲兵中佐の謝辭あり。茶菓を呈し、左の演藝を觀覽に供し、記念撮影の後散會したり。

尙、一行の宿舍は、伊香保町「伊香保ホテル」なり。

外國武官接待演藝番組

一、箏・三絃・尺八演奏

六段之調　八橋檢校作曲　箏　平調子　三絃　本調子

演奏者

箏低音　金谷武子　岡野美代子　金井泉　宮川あき子

箏高音　都丸恭子　太田千枝子　石川朝子　高橋ツネ子

三絃　坂田清　高橋初子　高橋善三郎　尾形主稅　永井熙

尺八

茶の湯音頭　箏　中空調子　三絃　六下リ調子

演奏者

箏　高橋初子

三絃　坂田清

尺八　高橋善三郎

茶ノ湯手前　清水恭美　久保田シゲ

接伴

箏　高橋初子

三絃　坂田清

尺八　高橋善三郎

二、劍武術

神刀流朗吟兵兒謠　大南洲作

吟者　山根正國

神刀流劍武術

イ、詠日本刀　源光國作

劍士　門井正三郎　松崎欽次　園部善太

詩吟　松崎賴邦

ロ、供奉途上之作　土方久元作

劍士　松崎欽次　門井正三郎　園部善太

接伴

詩吟　半澤頼勝

ハ、辭世　代隆盛　西寛齋作

劍士　松崎欽次　門井正三郎　園部善太

詩吟　山根正國

ニ、題備後三郎之圖　齋藤監物作

劍士　松崎頼邦

詩吟　山根正國

神刀流居合術（十五法ノ内二本）

劍士　山根正國

イ、天　地　一本

ロ、受　流　一本

神刀流長刀早業（神刀流別傳七法ノ内二本）

劍士　山根正國

イ、片手腕拔　一本

ロ、松　風　一本

三、曲藝

立物の曲

出演者

太夫　竹廼家小虎　後見　竹廼家ブル

囃子　成田家壽鶴外

不動明王利劍ノ取分

出演者

太夫　成田家達丸　竹廼家小虎

囃子　成田家壽鶴外

大皿出刃ノ遣分

出演者

太夫　竹廼家小虎

囃子　成田家壽鶴外

第三節　新聞記者

1. 事務の概要

新聞記者接伴に關しては、十月三日及同月八日の兩回、統監部新聞記者掛松井少佐來橋、本市係員參加、縣廳内に於て打合會を開催し諸般の協議を遂ぐ、越えて、十一月一日には縣市係員同行、豫定の宿舍主を訪問し、陪觀記者宿泊方に關し豫め諒解を求め、同月三日之が宿泊人員の割當を了せり。同月八日午前九時より、前橋驛前接伴係出張所に於て、受付及宿舍案内を開始し、晝夜交替して十日午前九時に及びたり。尚、受付と同時に前橋市勢要覽、前橋市街地圖、各一部を贈呈せり。先之、十一月六日より開設せられたる、前橋商工會議所樓上の新聞記者會場へは、本市係員二人、縣係員と共に連日出張、十八日撤去に至る迄執務せり。又本市關係通信材料の供給に關しては、其の正確と公平を期する爲、市に於て記事に調製し、所要數を美濃判紙に謄寫し、會場内社名箱に配分したり。

2. 懇談會及講演會

十一月九日午後八時より、關係各係員間の親和と聯絡とを密にする爲、市内本町料亭「岡源」に於て懇談會を開催す。會同者は統監部新聞班・群馬縣新聞係・庶務係・高等警察係・車輛係・接待係・栃木縣・埼玉縣・遞信局・高崎市・前橋市の各新聞係にして、談笑の間各自腹藏なき意見を交換し、十一時閉會せり。本市よりの出席者は、堀委員長・伊能接伴係長・阿久澤新聞係主任の三人なり。

十一月十日午前九時四十分より、統監部主催に係る講演會を、前橋商工會議所樓上に開會す、出席者は、統監部特務機關長及隨行二、統監部係員十二、群馬縣三十五、栃木縣一、埼玉縣二、前橋市四、高崎市二、東京遞信局二、放送局一の各關係係員及陪觀記者・通信員・寫眞班員等二百餘人にして、先づ特務機關長の挨拶に次ぎ、統監部・群馬縣・栃木縣・埼玉縣の各新聞係長・前橋市堀委員長・高崎市接伴係長・東京遞信局員等、次第の如く挨拶ありて後、統監部新聞記者掛松井少佐の講演及說明書類の配布あり、統監部より午餐の饗應を受け午後零時解散す。尚、當日の參會者に對し、本市より前橋市鳥瞰圖、前橋市名勝繪葉書を贈呈せり。

3. 招待會

十一月十一日午後六時より、臨江閣別館に、陪觀記者團二百二十八人、統監部員十三人、本市所在の新聞社長竝支局長及市政記者十一人、縣官十三人、合計二百六十五人を招請し、本市主催の招待會を開催せり。市より接伴として、市會議員三十六人、江原市長・堀委員長・各係長・係員十人出席、市長の挨拶に次ぎ、來賓を代表し篠原上毛新聞社長の謝辭ありて宴に移り、午後八時半閉會す。來賓に對しては、本市特產織物「スパンクレープ」を贈呈したり。

4. 宿舍及宿舍主に對する注意

陪觀新聞記者・通信員・寫眞撮影者の宿泊者數は百五十九人にして、其の宿舍一覽表及宿舍主に對する群馬縣新聞係作製の注意書左の如し。

新聞記者通信員竝寫眞撮影者宿舍一覽表

宿舍名	新聞其他社名	人員	宿舍名	新聞其他社名	人員
榎町一三 料理店業 武藏野 電話一一一	つはものの新聞 教育寫眞通信 日刊藝界通信	三 四 一	相生町七 旅館業 大昭館 電話一、二二五	陸軍省新聞記者倶樂部	一七
榮町四 料理店業 井田屋 電話六一四	松竹キネマ 名古屋新聞	五 二	榎町一八 料理店業 橘屋 電話一、三八〇	時事新報 大阪時事新報 日本キネマ	六 二 二
本町二七 旅館業 林小松屋 電話四四四九	國民新聞	六	横山町三〇 料理店業 喜樂 電話二五二	ハウストメトロトーンニュース フォックスムーヴイートン 獨逸ペオパハテル 國際探訪通信	三 三 一 一
横山町四六 料理店業 滿壽屋 電話八八八	新潟每日新聞 東洋點字新聞	三 二	相生町一〇 旅館業 曙館 電話一、六一五	新潟新聞 下野日日新聞 下野日報	三 一 二
榎町二四 料理店業 梅花 電話二〇五	帝國在鄕軍人會本部 日本國防新聞 愛國通信 英文日日新聞	二 一 一 一	本町六一 旅館業 關本屋 電話一、七一六	足利日報 下野新聞 中信每日新聞 東毛新聞 北越新報 大正活動撮影	一 二 一 一 一 二
榮町二 料理店業 ポンチ分店 電話一、二三〇	日本新聞 パラマウントニュース 亞細亞通信	一 三 一	本町三七 旅館業 釜辰 電話三〇四	讀賣新聞 新聞聯合通信	八 九
小柳町五 料理店業 第二靜源 電話一、四五二	夕刊大阪新聞 日本工業新聞 寺田清本店	二 一 二	立川町六〇 旅館業 成光館 電話一、五三九	日本電報通信 大阪電報通信 映畫商店	七 一 五
田中町五八 旅館業 敷島館 電話七〇八	東京朝日新聞 大阪朝日新聞 中外通信 每夕通信 帝國通信	一三 四 一 一 一	片貝町六八 旅館業 山崎屋 電話八三三呼	科學寫眞通信 太洋寫眞通信 內外寫眞通信	一 二 二
連雀町九 旅館業 吉野屋 電話一、七三一	報知新聞 米國ユニバーサルニュースリール ユニバーサルニュースリール 武藏每夕新聞 日刊工業新聞 日刊寫眞通信	五 二 三 一 一 二	計		一七 五四 一五九

陪觀記者宿舍主ニ對スル注意書

一、宿泊者ハ全國代表的報導機關ノ記者ナルヲ以テ之ニ接スルニハ努メテ懇切丁寧ヲ旨トシ苟モ群馬縣民トシテ不親切ノ誹ヲ招カサル樣注意スルコト

二、清潔ヲ旨トシ食器寢具等ハ清淨ナルモノヲ用ヒ殊ニ便所浴場洗面所等ハ清潔衛生ニ注意スルコト

三、用事ヲ命セラレタルトキハ迅速ニ之ヲ辨スルコト

四、宿泊者ハ夜間執務スルコト多キヲ以テ電球ハ明ルキモノヲ使用スルコト

五、各室ニハ少クトモ一ツノ机ヲ設備シ執務上便ナラシムルコト

六、朝ノ出發時刻ハ前夜宿泊者ヨリ指示アルヘキニ因リ其ノ時刻ニ遲ルルコトナキ樣特ニ注意スルコト

七、宿泊者ハ食事セサル場合多カルヘキヲ以テ豫メ之カ要否ヲ確メ置クコト

八、宿泊料其ノ他一切ノ費用ハ宿泊者ノ負擔ニシテ統監部縣市ニ於テハ之ニ一切關係セサルモノニ付承知セラレタシ

九、長距離電話ノ使用多カルヘキヲ以テ使用者通話先及通話數ヲ明確ニシ其ノ料金ノ請求洩レナキ樣注意スルコト

一〇、宿泊者ノ大部分ハ十一月九日ヨリ五泊位ノ豫定ナルモ其ノ後若干名ハ殘留スルコトアルヘシ

二、宿泊料ハ大體左ノ標準ニ依リ各宿泊者ト夫々協定セラレタシ

一泊　二圓乃至三圓五十錢（晝食料ハ含マス）

但シ缺食ノ場合ハ相當額ヲ控除ノコト

昭和九年十一月

群馬縣新聞係

第八篇　工　營

第一章　營繕・土木・水道

第一節　營　繕

一、奉迎門建設

陸軍特別大演習に際し畏くも聖駕を迎ふるの光榮に浴するに當り、市民の熱烈なる誠意を表する爲、前橋驛前廣場に奉迎門を建設せり。其の建設仕樣書竝圖面、別記の如し。

二、歡迎門建設

參謀總長宮殿下御招宴場たる久留万高等小學校南門際に、高さ八米四八四粍（四間六分）、通幅員七米二七二粍（四間）の歡迎門を建設したり。

三、市民奉迎所設置

曲輪町三一番ノ一空地間口七〇米（三八間五分）、奥行三米六三六（二間）、面積二五五平方米（七七坪）を借入し、杉丸太に紅白の布を卷付、柵を設けて一般市民の奉迎所となしたり。

四、臨江閣及同別館

臨江閣は、大本營竝行在所御駐輦中の非常御立退所に決定せられ、同別館は大演習關係諸行事に供用の關係上、修補の必要を感じ、左記の如く之が工事を施行したり。

1. 臨　江　閣

一、階上襖張替
一、玄關脇窓硝子障子新調
一、玄關前良戸新調
一、留守居室窓硝子新調
一、留守居室押入襖新調
一、留守居室木部灰洗
一、壁　塗　裝
一、疊替八十八疊
一、茶室疊替十二疊半

2. 臨　江　閣　別　館

一、洋室模樣替
一、洋室二階梁補強工事
一、階段下模樣替
一、携帶品預所設備
一、厨　房　建　設
一、南側緣先硝子障子新調四十二本

五、久留万高等小學校

本校は、參謀總長宮殿下及參謀本部總務部長の招宴場に充用せらるる關係上、校舍の内外に亙り、左記の如く修繕工事を施行したり。

一、柵　修　繕　延長四十七間三分　地上高サ一間一分　地下七分
一、駒　寄　修　繕　延長五十三間
一、南　校　舍　修　繕　階上　階下　天井　羽目　床修繕及灰洗　壁塗裝　中央昇降口修繕及霧除付替　渡板ノ間及大戸改造
一、東西便所修繕　灰洗竝壁塗裝
一、南　門　改　築　柱　鐵筋混凝土花崗岩人造洗出塗　門扉　煉鐵兩開建
一、便　所　模　樣　替　貴賓便所ニ充用ノ爲職員便所模樣替
一、藤　棚　修　繕　南門際間口八間奥行四間
一、運　動　場　砂　入　運動場全面ニ砂撒布七立坪

六、市　廳　舍

大演習に關聯し、市廳舍内外の修繕を施行したるが、其の工事左の如し。

一、第一課事務室　應接室　參事會室　議員控室　廊下　玄關ノ壁及天井塗裝

一、市廳舍正門　主柱高サ地上七尺四寸　袖垣高サ地上七尺　通幅二間　袖通幅四尺五寸　鐵筋混凝土ノ構造　木製扉ニ改築

一、土壘　延長三十四間七分　高サ三尺ノ改修　樹木玉イブキ五十二本新植

奉迎門建設仕様書

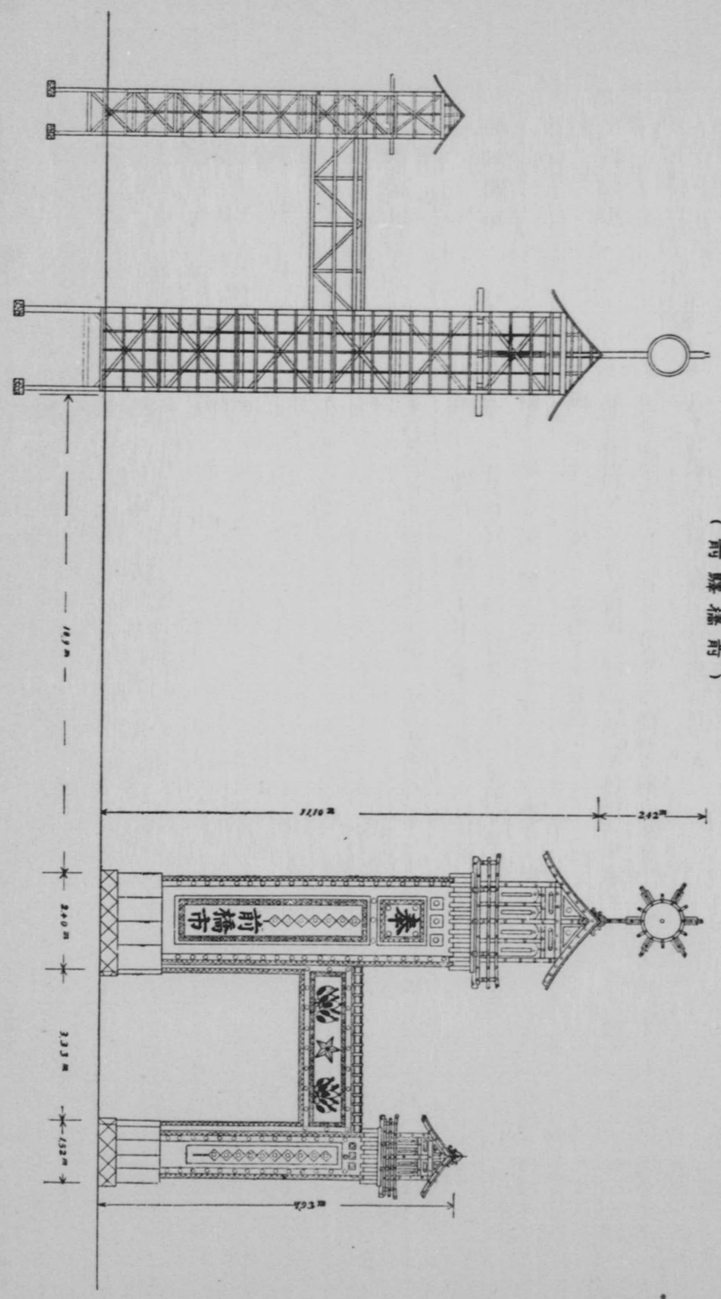
一、奉迎門　通幅員　十米九十七糎（六　間）　袖通幅員　三米三十三糎（一間八分三厘）

一、本　柱　下部大サ　方二米四十糎（一間三分二厘）　上部方　二　米（一間一分）

一、袖　柱　下部大サ　方一米五十二糎（八分三厘）　上部方　一米八糎（五分九厘）

一、柱高サ　本柱總高サ　十三米五十二糎（七間四分三厘）　袖柱總高サ　七米九十三糎（四間三分六厘）

構造大要	様式	和式塔型
	外部	腰花崗岩荒切石張付上部木骨漆喰塗及「ペイント」塗
	屋根形狀及葺材料	流レ破風造リ引渡二一二粍（七寸）勾配トシテ亞鉛引鐵板瓦棒葺銅青色「ペイント」塗 袖繋キ屋根青色瓦葺
基礎	地形其他	本柱下タ深サ二米（二間一分）掘下ケ袖柱下タ一米四十糎（七分七厘）掘下ケ栗石及目潰砂利ヲ以テ十分搗キ堅メ同周圍ハ搗堅メツツ埋戻シ平均ス



軸部構造		杉九糎(三寸)角一米八一八粍(六尺)毎ニ亂纏キ隅々抱キ合セ金物締メ胴繋キ短枘差シ金物締メ斜材杉大樌釘打チ間柱杉四五粍(一寸五分)角四五四粍(一尺五寸)間ニ配列釘打チ胴縁杉大樌木舞樌杉小樌釘打トス
屋根構造		桁其他杉一〇六粍(三寸五分)角枘差シ組合セ水平斜材其ノ他「ボールト」締メ屋上突出部支柱鐵「アングル」幅四九粍(二吋)ヲ松材ニテ覆ヒ「ボールト」締メトナシ圓形板金物締メトナシ兩面ヨリ鏡硝子板嵌込ミトス
補強構造		棟木上端ヨリ徑二糎ノ「ワイヤロップ」ヲ垂下シ地上ニ於テ松大角材十字形ニ緊結ナシ同上ニ石及砂利等ヲ以テ重量ヲ加ヘ(本柱下タ十二立米(二立坪)袖柱下タ六立米(一立坪)各々詰込ミ)風震災等ノ場合ニ備フ
外部仕上		周圍著色漆喰塗壁面突出部ハ木材著色「ペイント」塗各所電飾五燭光電球一千箇點火トス

第二節　土　木

本市の道路竝側溝等は、逐年漸次改良工事を施行し來りたるも、本年陸軍特別大演習に際しては、一層之を完備して聖駕を奉迎すると共に、行幸御道筋を豫想し著々之が準備を進め、大演習關係豫算の成立に依る土木事業と、農村振興土木事業とに依り、道路の擴張、改修及鋪裝、橋梁の改築等に專念し、大演習期日以前に之が完了を見たり。其の概要左記の如し。

土木事業として施行せしもの

工事區別	施行箇所	延長	幅員	面積	摘要
簡易鋪裝	堀川町自前橋郵便局角至前代田利根橋通間	四一九、六間	三、七一間	一、五六〇坪	
簡易鋪裝	堀川町東通自田町縣道至前代田堀川町境間	一六二、五	二、八九	四七一	
簡易鋪裝	向町通自細ヶ澤町縣道至向町相生橋間	四五一、二	三、八九	一、七五六	
簡易鋪裝	柳橋通自岩神町縣道至紅雲町利根橋通間	九四〇、〇	四、八〇	四、五一二	
簡易鋪裝	琴平町線自琴平町電車通至清王寺町ユニオン前間	一五六、三	四、五六	七一四	
簡易鋪裝	利根橋通自田中町至前代田久留万小學校縣道東角間	三五一、三	四、四九	一、五七九	
簡易鋪裝	利根橋通自前橋高等女學校正門至紅雲町國道九號線間	二七五、〇	三、二九	九〇七	
簡易鋪裝	敷島公園通自岩神町大渡橋通至公園內車道橋間	八九、〇	內法幅一尺二寸		混凝土レ型側溝
側溝新設	利根橋通田中町地內				
側溝改築	向町通向町地內	九一、五	內法幅一尺二寸	深一尺	混凝土側溝
道路擴張	横山町芳町線自榎町政淳寺前至榎町第一大和前間	二三、〇	五、〇		幅員一間三分擴張
道路改良	清王寺町群馬縣師範學校前通	二八三、三間	三、〇〇三、五三	九三五、六坪	
道路改良	前橋中學校北通自前代田縣道交叉點至前橋中學校前通交叉點間	六二四、五	四、九五	三、〇九一、二	
道路改良	天川原前橋中學校前通	二七四、三	四、五〇	一、二三七、〇	幅員一間五分擴張
路面鋪裝	久留万橋通自本町商工會議所前至清王寺町ユニオン前間	五五二、九	四、六四	二、五六五、四	
路面鋪裝	利根橋通自前代田久留万高等小學校東角至紅雲町前橋高等女學校正門間	二二〇、〇	四、四〇	九六八、〇	
路面鋪裝	武德殿前通	七二、七	一〇、一七六、三二	六四〇、九	
路面鋪裝	新町赤十字社支部病院前通	二九、三	六、〇五五、五〇	一七三、八	
路面鋪裝	曲輪町群馬會館前子供公園南通	四九、五	四、〇七	二〇一、四	

農村振興土木事業として施行したるもの

工事區別	施行箇所	延長	幅員	面積	摘要

演壇新設

前橋公園廣場は從來屢〻各種の式場に充用せしも、演壇の設備なき爲不便尠なからざりし事實と、特に大演習に際し諸行事の便益とを考慮し、間口四間、奥行二間五分、高さ六尺仕立、周圍石垣積、上部花崗岩、手擦付演壇を建設したり。

第三節　上水道

聖駕奉迎に際し衛生上の完璧を期し、且つ水源の整地及水道の普及を計る目的を以て、六月十五日水道委員會を開會し、給水裝置の無料施行竝之に伴ふ壹萬壹千五百餘圓の追加豫算を議したるが、爾來特別大演習に關聯して、執行したる事務の大要は、左記の如し。

六月十七日工費貳千百圓を以て水源整地工事を起し、八月五日竣工を告げ、次で喞筒・吸水井・濾過池・淨水池に投藥清掃を行ひたるが、十月一日より之が間接的關係を有する池水を乾涸せしめ、更に十月一日本縣警務部長より「水道設備監視警戒ニ關スル件」通牒ありたるを以て、十月四日より警備係一人助手二人をして、晝夜淨水場を監視警戒せしめたり。同月二十一日警察部長より「御料水ニ關スル件」照會ありたるに付、同月二十五日之が回答を發送せり。右通牒、照會、回答の全文別記の如し。

尙、右淨水場の監視警戒は十一月十八日に及びたるが、先之、十一月九日より本縣衛生課は巡査一人を派遣して、是亦淨水場の警戒に當らしめたり。

祕演第二七號

昭和九年十月一日

前橋市長殿

水道設備監視警戒ニ關スル件

警務部長

今秋ノ行幸竝ニ大演習ニ關シ貴市上水道水ヲ御料候補水トシテ其ノ筋ヘ成績報告中ニ有之候ニ就テハ其ノ裝置全般ニ亙リ特ニ之ヲ監視スルノ要アリト存候條監視吏員ヲ設置其ノ他ノ方法ヲ講シ爾今縱覽ヲ禁シ猥リニ構內ニ人畜ヲ出入セシメサルハ勿論嚴重監視警戒セラルル樣特ニ御配意相煩度此段及通牒候也

追テ水道關係吏員傭人及其ノ家族ニ對スル健康狀態ハ特ニ注意シ新ニ係員ヲ任命スル場合ハ特ニ人選シ其ノ性行及健康狀態ニ留意シ健康診斷豫防注射其ノ他ノ衛生施設ヲ完了セシムルト共ニ其ノ住所氏名年齡等速ニ報告セラレタシ

群馬縣警察部長

演祕衛第二七號ノ二

昭和九年十月二十一日

前橋市長殿

御料水ニ關スル件

標記ノ件ニ關シテハ本月一日附祕演第二十七號ヲ以テ通牒致置候處御料水トシテ御使用相成コトニ內定致シ候ニ就テハ今後一層關係者ノ衛生上ノ注意及施設ニ對スル監視警戒等萬遺漏ナキ樣御取計相成候樣致度

追テ直前及行幸期間中ニ於ケル監視警戒ニ就テハ當部ヨリ警官二名ヲ派遣スルノ見込ナルモ貴市ニ於ケル警戒計畫從事人名等承知致度候ニ付圖面添付至急御回報相煩度

水發第三八四號

昭和九年十月二十五日

前橋市長

群馬縣警察部長殿

御料水ニ關スル照會ノ件ニ付回答

十月二十一日付演祕衞第二七號ノ二ヲ以テ御照會相成候標記ノ件之カ警備計畫竝其ノ係員左記ノ通ニ候條淨水場平面圖相添へ此段及回答候也

記

警備計畫

一、左記係員ヲ置キ水源竝淨水場内ヲ間斷ナク巡回シ些ノ支障ナキ樣監視セシムルト共ニ適宜淨水場係員ノ家庭ヲ巡視シテ衞生上ノ注意ヲセシム

一、警備係　前橋市書記　中村登免八
　　助手　同　水栓番　加邊宗五郎
　　同　同　小林權太郎

一、淨水場平面圖　（省略）

水道の普及に關しては、大演習を機會に一般需用者に對し、無料を以て給水裝置を施工し、之が增加に努むる所ありたり。尙、大演習直接關係として、本縣及東京鐵道局等の委託に依り施工したる工事の大要は、左記の如し。

一、縣委託

六月二十三日の委託に依り、九月二十一日縣廳構内私設消火栓設置工事に著手、同月二十七日竣工、此の工費金五百四拾五圓七拾壹錢

八月四日の委託に依り、十月七日大木營御浴室廻り及假設建物内給水施設、其の他損料工事に著手、同月三十一日竣工此の工費金參百六拾七圓九拾壹錢

八月三十日大木營構内私設消火栓の附屬物を縣に讓渡す、此の料金貳百九拾七圓

十月十五日の委託に依り、同月二十二日御料品調進所内給水工事に著手、同日竣工、此の工費金參拾壹圓五拾四錢

十月二十日の委託に依り、同月二十一日假縣廳舍（元前橋中學校）構内、自動車洗場給水工事に著手、當日竣工、此の工費金四拾貳圓六拾七錢

十月二十日の委託に依り、十一月一日敷島尋常小學校庭内、自動車洗場給水工事に著手、當日竣工、此の工費金參拾參圓九拾參錢

二、東京鐵道局委託

八月十四日の委託に依り、十月二十三日前橋驛假廳舍内給水工事に著手、同日竣工、此の工費金拾五圓九拾六錢

十月四日の委託に依り、同月二十三日線路工手詰所内給水工事に著手、同日竣工、此の工費九圓七拾八錢

十月十一日の委託に依り、同月二十三日前橋驛構内御召列車洗滌用給水工事に著手、同月三十日竣工、此の工費金百拾壹圓六拾七錢

十月二十四日の委託に依り、同月三十日前橋驛構内自動車洗滌用給水工事に著手、當日竣工、此の工費金五拾壹圓九錢

三、其の他の委託

十月二十七日本縣警察部長の委託に依り、十一月五日曲輪町警察練習所内、天川原片倉製絲乾繭場内、城南尋常小學校内、中川尋常小學校内の四箇所に假設せられたる御警衛應接警察宿舍給水工事に著手、同月五日竣工、此の工費金五拾七圓八拾四錢

右の外十月十二日前橋土木出張所長の照會に係る、御道筋撒水の爲公設消火栓使用の件を承認せり。尚、御駐輦中御浴室廻り、假設建物内給水裝置調査等の爲、技師黑沼才一郎及職工駒勝太郎に對しては、御門鑑を下附せられたり。

第九篇　警備及衛生

第一章　警　備

第一節　事務の大要

陸軍特別大演習竝地方行幸警防に關しては本市消防組員を以て之に當らしめ、警察官と協調の下に諸般の計畫を樹立したるが、此の重大勤務の光榮に浴したる各組員は、只管恐懼感激し、警防期間中は特に異常なる關心を以て其の任に膺りたる結果、幸にして恙もなく空前の責務を果遂することを得たり。之が事務の大要左記の如し。

一、前例調査

三月六日より五日間、主務課長は消防組頭、警察官と共に、前年の大演習地たりし福井市に出張し、警防に關し詳細なる調査を遂げて歸廳せり。

二、協議打合

九月より例月三日を會議日と定め、前橋警察署管内消防組頭、本市消防組各部頭及關係係員は、前橋警察署に會合して大演習竝地方行幸警衛警防に關する諸事項につき、協議打合せを爲したる外、別に本市消防組に於ては前後五回に亙り役員協議會を開催して諸般の準備を進め、職務遂行上に萬全を期したり。

三、機械器具の整備

本市消防用設備の喞筒自動車七臺中昭和八年調製の一臺を除き、使用年數最も長き二臺は、車體塗粧部著しく變色或は剝落したるにつき、之が總塗替を施し「ニッケル」部は全部再鍍金を行ひ、爾餘の四臺も亦手入修繕塗粧を爲すと共に各機關竝喞筒部の內外に就て嚴密なる檢査試運轉を行ひ、一朝有事に際しては全能力を發揮し、遺憾なく其の大任を遂行し得らるる如く細心なる注意を拂ひたり。

四、警防詰所の整備

本市消防器具置場左記六箇所は警防詰所に充用の關係上、破損部は之を修補し、設備の提燈は全部の張替を行ひ、高張提燈用として各箇所每に臨時電燈二箇の取付を爲したる外、從來警備勤務連絡通報用としては警察署と第四部器具置場間に非常電話の存せしのみにして、其の他の器具置場には之が設備を缺如せしにつき、期間中は最も近距離の公衆電話に電鈴を取付け、警察署望樓には見張員を勤務せしむる關係上、第四部器具置場迄これ亦電鈴を取付け、以て火急に備へたり。尙、大本營・行在所外特別警防隊用としては曲輪町七十番地高村小文治方を充用し、詰所一箇所を增設せり。

各詰所所在地左の如し。

第一部	前橋市役所構內	第五部	新町二十五番地
第二部	向町七十五番地	第六部	城南尋常小學校構內
第三部	小柳町四十六番地	特別警防隊	曲輪町七十番地
第四部	前橋警察署構內		

五、組員服裝の新調

警防員は總て消防組員制規の服裝を爲すべく定められたるも、本市は旣に前年度に於て消防手全員の衣袴は甲種に改めたるを以て、今回更に役員全部に甲種の衣袴を新調し、黑卷脚絆、黑靴は之を全員に支給し、以て全く制規の服裝に統一したり。

六、水道消火栓の標示

警備上最も密接なる關係を有する水利に惠まれたる本市は、市內を縱橫に貫流する川水の外に水道消火栓六百餘箇の設備を有するも、實際の使用上組員が其の所在箇所を正確に記憶し置くことは、甚だ困難なる事實に鑑み、萬一の場合に處し卽時消火栓の所在を明瞭ならしむる爲、各地の狀況を調査研究の結果、標示板を作製し、其の所在を一層判明ならしむることに決定、大演習開始前迄に之が取付を終了したり、其の型狀は琺瑯製直徑九寸の圓板にして、兩面赤地に白文字を以て「消火栓」と表はしたる永久的標示板なり。

七、祈願祭

玉體御安泰　警防任務無事遂行祈願の爲、十月十七日本市消防組役員竝警察署長及係員は、國幣中社貫前神社・縣社八幡宮・縣社東照宮に參拜して祈念を凝し、御守護札を拜受して勤務中之を所持したり。尙、十一月三日前橋公園に於て執行せられたる市主催祈願祭に參列せり。大演習終了と共に前記各神社に御禮詣を果し、又前橋公園に於て執行せる市主催の報賽祭に參列せり。

八、火防宣傳竝檢査

第一回

群馬縣消防義會主催を以て十月十八日より三日間に亙り、縣下一齊の火防宣傳を實施するに當り、義會は曩に縣內より大演習に因める火防ポスター圖案及標語を懸賞募集したるが、右應募中優秀なるものを選定印刷して送付し來りたるを以て、本市に於ては消防組員を總動員し「ポスター」は衆目に觸るる要所に之を揭示し、標語は別に本市に於て

作製したる別記「火防宣傳ビラ」に刷込み、小學校兒童を通して其の家庭に配布し、市内毎戸に對しては嚴重なる檢査を施行し、火防觀念の普及徹底に努力したり。卽ち檢査員は別記檢査票に示されたる火災原因となるべき箇所に就き、詳細に其の良否を點檢の上、全部良好なる場合は「濟」と捺印し、一箇所にても不良なる時は「未濟」として處理し再檢査を行ふこととなせり。

各小學校に在りては、市長・消防組員・警察官・各係員立會の下に、兒童の避難訓練を實施したり。

第二回

大演習期日直前に於て實施するを效果多しと認め十一月五日之を施行せり。此の日午前中組員を二隊に分ち、一隊は前回火防檢査の際「未濟」として處理したるものにつき再檢査を行ひ、一隊は喞筒自動車六臺に警察自動車一臺を加へて之に分乘し、約三時間を費して市内全般に亙り「火防宣傳ビラ」を撒布し、以て警火思想の喚起に努めたり。尙午後は左記六箇所に於て各受持部内の消火器檢査を施行せり。

第一部	前橋公園	第四部	紺屋町群馬大同銀行倉庫前廣場
第二部	向町共同組製絲所構内	第五部	新町器具置場
第三部	小柳町器具置場	第六部	前代田代田神社境内

九、假縣廳舍警備

縣は八月上旬元前橋中學校を假廳舍として移轉したるも、防火設備不完全なる爲、特に警戒の必要ある實際に徵し、本市消防組に對し夜警勤務を懇請し來りたるを以て、組頭は警察署長と協議の上之を受諾し、八月二十一日より十一月七日に至るの間、一箇部一週間交代とし毎夜二人宛、ホース六本、管槍一本、消火栓鍵一箇を備へて、之が勤務に服したり。

火防宣傳ビラ

火防檢査票

警備及衛生

火防檢査票

前橋（警察署 消防組 市役所）

場所	良否	場所	良否
煙突		薪炭置場	
風呂場		火鉢・炬燵	
火消壺		灰捨場	
竈・コンロ		電氣其他	

濟又ハ未濟

十月　日

第　部

第二節　警防消防組員服務心得

陸軍特別大演習竝地方行幸期間中は、常時に比し一層縣民の自警精神を喚起し、火災盗難其の他の災害發生を未然に防止し、擧縣の靜謐を保持する爲、縣は十月一日訓令乙第六六五號を以て「陸軍特別大演習竝地方行幸地方警防消防組員服務心得」を公布し、次で同月三日演保第七四號を以て「陸軍特別大演習地方行幸前橋市特別警防隊員服務心得」を指示し、別に同月二十七日演保第一二〇號を以て「大本營行在所外特別警防隊員服務心得」を示され、本市消防組も亦「陸軍特別大演習竝地方行幸前橋市特別警防隊員服務心得內規」を制定したり。右全文左記の如し。

一、陸軍特別大演習竝地方行幸地方警防消防組員服務心得

◉訓令乙第六六五號（保）

警察署
消防組

陸軍特別大演習竝地方行幸地方警防消防組員服務心得左ノ通定ム

昭和九年十月一日　群馬縣知事　金澤正雄

陸軍特別大演習竝地方行幸地方
警防消防組員服務心得

第一條　陸軍特別大演習竝地方行幸期間中常時ニ比シ一層縣民ノ自警精神ヲ喚起シ火災盗難其ノ他ノ災害發生ヲ未然ニ防止シ擧縣靜謐ヲ保持スル爲消防組員ハ警察官ノ指揮ニ從ヒ警防員トシテ市町村及在鄕軍人分會竝青年團等ト連絡ヲ執リ本心得ニ依リテ防火其ノ他ノ警備警戒ニ從事スヘシ

第二條　地方警備期間ハ十一月八日ヨリ同月十八日迄トス

第三條　警防員ハ光榮アル任務ト重大ナル職責ヲ自覺シ至誠以テ其ノ任ニ當リ常ニ堅忍自重全力ヲ竭シテ其ノ目的達成ニ努ムヘシ

第四條　警防員ハ常ニ精神ヲ緊張シ嚴肅ナル紀律ノ下ニ耳目ヲ敏活ニシテ災害ノ豫防鎭壓ニ努ムヘシ

第五條　警防員勤務ニ服スルトキハ常ニ愼重ナル態度ヲ持シ苟モ縣民ノ反感ヲ招クカ如キコトナキ樣心掛クヘシ

第六條　消防組頭其ノ他ノ指揮者ハ警防員ニ對シ每朝必要ナル事項ヲ懇篤ニ訓示シ且服裝機械器具等ノ點檢ヲ行フヘシ

第七條　各消防組ハ各部每ニ警防詰所ヲ設ケ每日晝夜ヲ通シテ小頭一名消防手八名以上勤務ニ服スヘシ

但シ前橋消防組ノ警防勤務ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム第八條警防詰所ニハ左ノ設備ヲ爲スヘシ

縱六尺橫一尺ノ何詰所ト記載シタル看板ヲ掲示シ夜間ハ同一ノ標識アル高張提燈ヲ掲出スルコト

告知板

警防日誌

消防機械器具

受持區域內警防圖（水利、交通、諸官衙其ノ他重要箇所記入）

警防詰所附近ニ電話アル場所ハ速報其ノ他連絡ノ爲ノ借用ニ支障ナキ樣交涉シ置クコト

自轉車其ノ他必要ナル乘物

第九條　警防員ハ總テ消防組員制規ノ服裝ヲ爲スヘシ

第十條　警防員ハ晝夜其ノ受持區域內ヲ巡邏査察シ諸般ノ警備ニ任スヘシ

第十一條　警防員ハ自警奉仕ヲ旨トシ苟モ消防精神ニ悖ルカ如キ言動ナキハ勿論特ニ左ノ事項ニ注意スヘシ

一　火災豫防

常ニ火災ニ關スル注意心ノ喚起ニ努メ夜間ノ巡邏ニ當リテハ特ニ學校、劇場、工場、病院其ノ他火氣ヲ取扱フ場所ニ注意シ火災ノ未然防止ヲ期スルコト

二　盗難豫防

戸締ヲ勵行シテ盗難豫防ニ努メ擧動不審ノモノアルトキハ警察官吏ニ速報スル等適宜ノ措置ヲ講スルコト

但シ警察官吏ト齊シキ擧措ニ出ツルカ如キ越權ノ言動ハ嚴ニ愼ムコト

三　精神病者ノ視察

受持區域內ニ於ケル精神病者ノ動靜ニ注意シ監置室ヲ脫走シ又ハ未監置精神病者ニシテ監視ヲ離レ他ニ立廻ルカ如キコトナキヲ期スルコト

四　保安上重要ナル場所ノ警戒

保安上重要ト認メラルル火藥貯藏所、火藥消費所、發電所、變電所、石油大量貯藏所其ノ他危險ノ虞アル場所ハ特ニ管理者其ノ他ノ關係者ト連絡シ災害ノ未然防止ニ努ムルコト

五　御眞影奉安所警戒

御眞影奉安所ニ對シテハ學校當局ト協力シ特ニ嚴密ナル警戒ニ任シ時宜ニ應シテハ警備員ヲ配置スル等之カ警備ノ萬全ヲ期スルコト

六　交通整理

交通頻繁ナル道路其ノ他危險ナル場所ニ對シテハ事故防止ノ方途ヲ講シ時宜ニ應シテハ警防員ヲ配置シ交通ノ安否ト圓滑ヲ期スルコト

但シ大演習施行地域內及行幸御道筋ニ於ケル交通整理ニ關シテハ特ニ警察官吏ノ指揮アル場合ノ外出動スルニ及ハス

七　其ノ他

迷子、捨子等アリタル場合ハ警備詰所ニ收容シ住所、氏名、年齢、人相、著衣等ヲ公示シ一面警察官吏ニ速報スル等適切ナル方法ヲ講スルコト

八　前各號ノ外所轄警察署長ニ於テ必要ト認メ指示シタル事項

第十二條　警防員ハ左ノ事項ヲ聞知シタルトキハ警察官吏ニ速報スヘシ

一　出火アリタルトキ

二　精神病者其ノ他注意ヲ要スト認ムル者ニシテ大本營（行在所）所在地又ハ演習地地方ニ立廻ル虞アルトキ

三　御眞影奉安所ニ異狀アリト認メタルトキ

四　不穩ナル流言又ハ印刷物若ハ樂書アリタルトキ

五　殺人、强盜其ノ他重大ナル犯罪アリタルトキ

六　變死者アリタルトキ

七　墜落又ハ不時著陸ノ飛行機アリタルトキ

八　其ノ他必要アリト認メタルトキ

第十三條　警防員ハ火災其ノ他ノ變災ニ際シテハ特ニ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一　電話、傳令其ノ他便宜ノ方法ニ依リ警察署ニ速報スルト共ニ迅速ニ之カ鎭壓ノ方法ヲ講スルコト

二　「サイレン」警鐘ノ類ハ大本營（行在所）ヨリ八粁以内及行幸當日其ノ御道筋ヨリ八粁以内ニ於テハ之ヲ使用セサルコト

三　他町村ノ火災等ニハ應援區域ノ外特ニ所轄警察署ノ指揮ヲ俟テ出動スルコト

四　前項出動ノ場合ハ「サイレン」ヲ使用セス一定ノ標識ニ依リ非常進行ノ信號ト爲スコト

五　非番員ハ速ニ出動スルコト

第十四條　警防員ハ非番中ト雖何時ニテモ出動シ得ル樣準備シ置クヘシ

第十五條　警防員ハ特ニ健康保持ニ留意シ勤務ニ支障ヲ來スカ如キコトナキ樣心掛クヘシ

第十六條　本規定施行ノ爲必要ナル事項ハ所轄警察署長之ヲ定ム

演保第七四號

指　示

二、陸軍特別大演習竝地方行幸前橋市特別警防隊員服務心得

前橋警察署
前橋消防組

陸軍特別大演習竝地方行幸前橋市特別警防隊員服務心得左ノ通定ム

昭和九年十月三日

警務部長

陸軍特別大演習地方行幸前橋市特別
警防隊員服務心得

第一條　警防員ハ前橋消防組員ヲ以テ組織シ特別大演習地方行幸地方警防消防組員服務心得ヲ遵守スルノ外本心得ニ依リ勤務スヘシ

第二條　警防員ハ光榮アル任務ト職責ノ重大ナルヲ自覺シ至誠以テ其ノ任ニ當リ常ニ堅忍自重身命ヲ賭シテ之ニ膺ルノ覺悟ナカルヘカラス

第三條　前橋市特別警防隊ノ警防區域ハ前橋市竝ニ近郊接續地トシ警防期間ハ十一月八日ヨリ同月十八日迄トス

第四條　警防員ハ前橋警察署長及保安係特別警防中隊長ノ指揮命令ニ從フノ外警衛警備ニ服スル警察官吏ト連絡協調ヲ保持シ以テ任務遂行ニ努ムヘシ

第五條　警防員ハ專ラ大本營（行在所）附近ノ靜肅保持ヲ期スル爲主トシテ前橋市内ノ防火其他ノ警備警戒ニ任スルモノトス

第六條　警防員ノ勤務竝ニ配置ハ前橋警察署長ノ定ムル處ニヨル

第七條　勤務中ハ特ニ左ノ事項ニ注意スヘシ

一、制規ノ携帶品以外ノ物品ヲ携帶セサルコト

二、勤務中ハ勿論休憩中ト雖モ靜肅ヲ旨トスルコト

三、勤務上必要アル場合ノ外詰所外ヲ濫リニ徘徊セサルコト

四、消防活動ニ從事スルトキハ敏活靜肅ヲ旨トスルコト

五、消防用機械器具ハ不時使用ニ支障ナキ樣常ニ心掛クルコト

六、當該警察官吏ノ許可ヲ得スシテ大本營（行在所）又ハ皇族御宿舍竝ニ大臣其ノ他顯官ノ宿舍内ニ立入ラサルコト

第八條　火災其ノ他ノ變災ニ際シテハ「サイレン」及警鈴等ヲ使用セス適當ノ標識掲示ヲ以テ非常進行ノ信號トナスヘシ

第九條　本心得施行ノ爲必要ナル事項ハ前橋警察署長ノ定ムル所ニ依ル

三、大本營・行在所外特別警防隊員服務心得

陸軍特別大演習大本營・地方行幸行在所
外特別警防隊員服務心得

第一條　警防隊員ハ特別大演習地方行幸地方警防消防組員服務心得ヲ遵守スルノ外本心得ニ依リ勤務スヘシ

第二條　警防隊員ハ其ノ任務ノ光榮且重大ナルヲ自覺シ常ニ緊張ヲ失セス至誠以テ事ニ當リ奉公ノ誠ヲ致スヘシ

第三條　警防隊員ハ大本營及行在所ノ當該係員ヨリ通報アリタルトキハ直ニ出動シ大本營及行在所ノ警防ニ全力ヲ盡スヘシ

第四條　警防隊員ハ衞兵、憲兵及警衞警備ニ服スル警察官吏ト渾絡協調ヲ保持スヘシ

第五條　勤務中左ノ事項ヲ發見シタルトキハ速ニ部隊長ニ報告スヘシ

一、前橋市内ニ於ケル出火其ノ他ノ災害ヲ認知シタルトキ

一、大本營、行在所ニ異常アリト認メタルトキ

一、消防器具及水利竝ニ電話等ニ故障ヲ生シタルトキ

一、擧動不審者ヲ發見シタルトキ

一、其ノ他警衞上特ニ注意ヲ要スル事項

第六條　警防隊詰所ニハ左ノ機械器具竝ニ簿册ヲ備フヘシ

一、自動車ポンプ

一、消火栓ノ位置圖

一、勤務日誌

一、勤務表

第七條　大本營、行在所外特別警防隊ノ編成及要員左ノ如シ

隊長	分隊長	部	隊員 巡査	隊員 消防小頭	隊員 消防手	計
警部兼一	巡査部長一	甲	二	一	一〇	一三
		乙	二	一	一〇	一三

隊長ハ大本營行在所警衞中隊長兼任トシ巡査部長一巡査四ハ保安大隊ヨリ配置スルモノトス

第八條　分隊長ハ隊長ノ指揮ニ從ヒ隊員ヲ指揮監督ス

第九條　警防隊員ノ勤務配置ハ左記ニ依ルヘシ

一、午前七時交代ノ隔日勤務トス

但シ必要ニ依リ變更スルコトアルヘシ

二、大本營、行在所外特別警防期間ハ十一月九日ヨリ十一月十八日迄トス

三、勤務ハ見張、警邏、休憩ノ三種トシ別紙勤務表ニ依ルヘシ

見張ハ詰所内見張場ニ於テ外部ノ異常ニ留意シ警邏ハ大本營、行在所、附近ノ水利其ノ他ノ狀況ヲ査察シ休憩ハ必ス室内トス

休憩中ト雖靴、上衣ノ外脱裝セス何時ニテモ出動シ得ル樣準備シ置カルヘシ

第十條　勤務中ハ特ニ左ノ事項ニ注意スヘシ

一、制規ノ携帶品以外ノ物品ヲ携帶セサルコト

二、勤務中ハ勿論休憩中ト雖モ靜肅ヲ旨トシ苟モ喧騷ニ渉ルカ如キ言動アルヘカラス

三、大本營及道路ヲ覗見シ又ハ詰所外ヲ徘徊スヘカラス

四、勤務中ハ不謹慎ナル言動ヲ爲スヘカラス

五、消防作業ニ從事スルトキハ敏活靜肅ヲ旨トシ總テ部隊長ノ指揮ニ俟ツヘシ

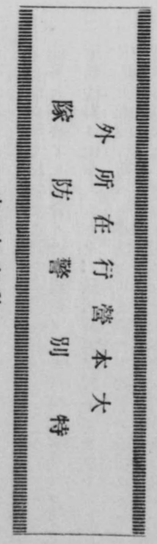
六、機械取扱者ハ之カ不時使用ニ遺漏ナキヲ期スヘシ

但シ試運轉ハ隊長ノ指揮ヲ受クルニ非サレハ之ヲ爲スヘカラス

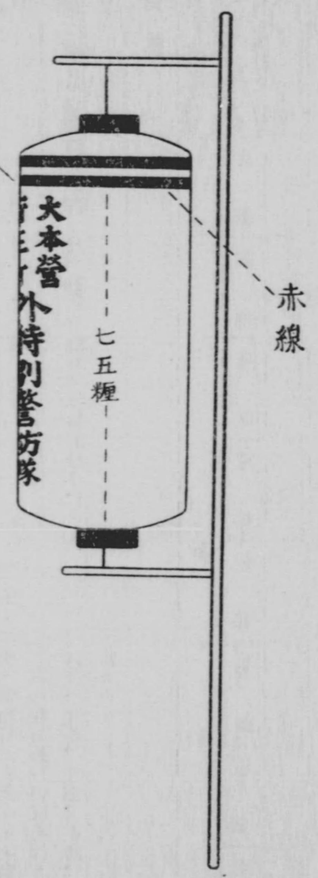
第十一條　警防隊員ハ非番ト雖モ何時ニテモ出動シ得ル樣準備シ置クヘシ

第十二條　警防隊員ハ別ニ定ムル腕章ヲ著用スヘシ

第十三條　警防隊員詰所ニハ別記樣式ノ看板及提燈ヲ掲出スヘシ



赤ハ官察警
青ハ員組防消　取緣



大本營
行在所　外特別警防隊

四、陸軍特別大演習竝地方行幸前橋市特別警防隊員服務心得内規

第一條　陸軍特別大演習竝地方行幸期間中ハ常時ニ比シ一層市民ノ自警精神ヲ喚起シ火災盜難其ノ他ノ災害發生ヲ未然ニ防止シ擧市靜謐ヲ保持スル爲メ警察官ノ指揮ニ從ヒ警防隊員トシテ在鄕軍人分會竝青年團等ト連絡ヲ執リ本内規ニ依リテ防火其ノ他ノ警備警戒ニ從事スヘシ

第二條　警防員ハ光榮アル任務ト重大ナル職責ヲ自覺シ至誠以テ其ノ任ニ當リ常ニ堅忍自重全力ヲ盡シテ其目的達成ニ努ムヘシ

第三條　警防員ハ常ニ精神ヲ緊張シ嚴肅ナル規律ノ下ニ耳目ヲ敏活ニシ災害ノ豫防鎭壓ニ努ムヘシ

第四條　警防員勤務ニ服スルトキハ常ニ愼重ナル態度ヲ持シ苟モ市民ノ反感ヲ招クカ如キ事ナキ樣心掛クヘシ

第五條　前橋市特別警防隊ハ前橋消防組員ヲ以テ組織シ前橋市内竝

ニ近郊接續地ヲ警防區域トス

第六條　警防期間ハ十一月八日ヨリ同月十八日迄トス

第七條　前橋市特別警防隊ヲ六ケ部制トシ各部器具置場ヲ詰所トス

第八條　警防員ハ制規ノ甲種服裝（黑靴、黑卷ゲートル）著裝トシ其ノ編成及要員左ノ如シ

隊長	副官	部	部隊長	隊員	計
組頭一	副組頭一	一部	部頭又ハ小頭一	消防手八	九
		二部	同一	同八	九
		三部	同一	同八	九
		四部	同一	同八	九
		五部	同一	同八	九
		六部	同一	同八	九

隊長竝副官ハ常備消防詰所ニ於テ勤務シ隊員ノ指揮監督ヲナスモノトス

（別紙）

午前午後別 / 勤務別 / 時刻	午前					午後				
一時	見張	巡邏	電話	望樓	休憩	見張	巡邏	電話	望樓	休憩
二時										
三時										
四時										
五時										
六時										
七時										
八時										
九時										
十時										
十一時										
十二時										

第九條　警防員ハ前橋警察署長竝隊長ノ指揮命令ニ從フノ外警衞警備ニ服スル警察官吏ト連絡協調ヲ保持シ以テ任務遂行ニ努ムヘシ

第十條　各部隊長ハ毎朝交代時ニ必要ナル事項ヲ勤務員ニ懇篤訓授シ且ツ服裝機械器具ノ點檢ヲ行フヘシ

第十一條　警防員ハ自警奉仕ヲ旨トシ苟モ消防精神ニ悖ルカ如キ言動無キハ勿論特ニ左ノ事項ニ注意スヘシ

一、火災豫防

二、盜難豫防

三、精神病者ノ視察

四、保安上必要ナル場所ノ警戒

五、御眞影奉安所警戒

六、交通整理

七、其他必要ト認ムル事項

第十二條　警防員ハ左記ニ依リ勤務スヘシ

一、午前八時出勤一晝夜交代トス

二、勤務ハ見張、巡邏、電話、望樓、休憩ノ五種トシ別紙勤務表ニ依ルヘシ

1. 見張

勤務者ハ一人ニテ詰所前ニ於テ立番トシ出火アリタルトキハ休憩員ト共ニ出動スヘシ

2. 巡邏

勤務者ハ二人一組ヲ以テ各部隊長ノ定メタル巡路ヲ警邏シ前條各號ニ注意スヘシ

3. 電話

電話勤務者ハ非常電話竝傳令係トシテ一人勤務トス

4. 望樓

二ケ部ヨリ一名宛二名ヲ以テ警察署望樓ニ勤務シ出火ヲ認メタルトキハ電鈴ヲ以テ第四部隊長ニ通報スヘシ

5. 休憩

休憩員ハ詰所内ニ在リテ待機シ出火アリタルトキハ見張員ト共ニ出動スヘシ

以上ハ何レモ一時間毎ニ輪番勤務トシ共ニ其ノ都度勤務表ニ捺印スヘシ

第十三條　各警防詰所ニハ左ノ設備ヲ爲スヘシ

一、何々詰所ト記載シタル看板夜間ハ高張提燈ヲ掲出スルコト
二、告示板
三、警防日誌（別表）
四、勤務表
五、消防機械器具
六、受持區域内圖
（水利、交通、諸官衙其ノ他重要箇所記入）
七、提燈
八、非常用電鈴

第十四條　勤務中ハ特ニ左ノ事項ニ注意スヘシ

一、制規ノ携帯品以外ニ物品ヲ携帯セサルコト
二、勤務中ハ勿論休憩中ト雖モ靜肅ヲ旨トスルコト
三、勤務上必要アル場合ノ外濫リニ詰所外ヲ徘徊セサルコト
四、消防活動ニ從事スルトキハ沈著敏活ヲ旨トスルコト
五、消防用機械器具ハ不時使用ニ支障ナキ樣心掛クルコト
六、機械器具等ニ故障等ヲ生シタル場合ニハ消防機械係ニ速報スルコト
七、當該警察官吏ノ許可ヲ得スシテ大本營（行在所）又ハ皇族御宿舎竝大臣其ノ他顯官ノ宿舎内ニ立チ入ラサルコト

第十五條　警防員左ノ事項ヲ聞知シタルトキハ部隊長ニ速報シ部隊長ハ警察署長竝ニ隊長ニ速報スヘシ

一、出火アリタルトキ
二、精神病者其ノ他注意ヲ要スト認メタル者ニシテ大本營（行在所）所在地又ハ演習地方ニ立廻ル虞アルトキ
三、御眞影奉安所ニ異常ヲ認メタルトキ
四、不穩ナル流言又ハ印刷物若クハ樂書アリタルトキ
五、殺人强盜其ノ他重要ナル犯罪アリタルトキ
六、變死者アリタルトキ
七、墜落又ハ不時著ノ飛行機アリタルトキ
八、暴動不逞者ヲ發見シタルトキ
九、其ノ他消防上特ニ注意ヲ要スル事項

第十六條　火災其ノ他變災ニ際シテハ（サイレン）及警鐘等ヲ使用セス一定ノ標識ニ依リ非常進行スヘシ

第十七條　警防員ハ特ニ健康保持ニ留意シ勤務ニ支障ヲ來スカ如キ事ナキ樣心掛クヘシ

別紙　勤務日誌

（表）

昭和九年十一月　日　警防日誌

曜日		天候		風向	
警察官		隊長副官		部隊長	

出場記事	
時刻	發　午　時　分　歸　午　時　分
事由	
場所	町　番地
記事	

	職別	氏名	印
詰所勤務員	頭		
	消防手		
	同		
	同		
	同		
	同		
	同		
補助員	同		
	同		
	同		
	同		
	同		
勤務員			

（裏）

昭和九年十一月　日　勤務表

時刻 / 勤務		一時	二時	三時	四時	五時	六時	七時	八時	九時	十時	十一時	十二時
午前	見張												
	巡邏												
	電話												
	望樓												
	休憩												
午後	見張												
	巡邏												
	電話												
	望樓												
	休憩												

第三節　警防隊員の活動

十一月八日警防開始以來同月十八日に至る十一日間に亙り、組員少數なる爲、全員殆ど不眠不休の連續勤務なりしにも拘らず、能く健康を保持して一員の事故者もなく、左記勤務編成表に依り無事豫定の任務を終了することを得たり。其の勤務別一覽表別記の如し。

出動事項としては、十一月十五日午前十一時頃、警察署望樓勤務員より紅雲町方面に怪煙認知の報に接し、常備及第四部喞筒自動車二臺をして現場に急行せしめたるに、右は前日軍隊宿營軍馬に使用したる藁の燒却に依るものと判明し、直に置場に引揚げたるが、本期間中の事故出場は實に此の一回のみなりき。尚、十一月十八日、御還幸の奉送御警衛終了後、特に許可を得て全組員は行在所前に整列し記念撮影を爲したり。又特別勤務解除と共に本縣知事より感謝狀を授與せられたり。

前橋市警防消防組員勤務編成表　（表中特別詰所トアルハ大本營行在所外、役ハ役員、消ハ消防手）

部別	勤務所別	八日 役	八日 消	九日 役	九日 消	十日 役	十日 消	十一日 役	十一日 消	十二日 役	十二日 消	十三日 役	十三日 消	十四日 役	十四日 消	十五日 役	十五日 消	十六日 役	十六日 消	十七日 役	十七日 消	十八日 役	十八日 消	計 役	計 消
第一部	補助員					一	一	一	一	一	一		二		二		二		二		二		二	一	一五
	特別詰所			一	八		二							一	六									二	一八
	器具置場	一	八	二	七	一	八	一	八	一	八	一	八	二	七	二	七	一	八	二	七	二	七	一六	八三
	非番	二	七			一	四	一	六	一	六	二	五			一	四	二	五	一	六	一	六	三	一五
第二部	補助員																								
	特別詰所																								
	器具置場	二	七	一	八	二	七	二	七	二	八	一	八	二	七	一	八	二	七	二	七	二	七	一	八
	非番	一	八	二	七	一	四	一	六	一	六	二	五	一	六	一	四	二	五	一	六	一	六	二	一五
第三部	補助員					一	一																		
	特別詰所							一	六																
	器具置場	一	七	二	八	一	八	二	七	二	七	二	七	二	七	二	七	二	七	二	七	二	七	一	八
	非番	二	七	一	八	一	六					一	四	二	五	二	五			一	四	一	六	二	一五
第四部	補助員							一	一	一	一														
	特別詰所			二	八	一	八																		
	器具置場	二	七	一	八	二	七	一	八	一	八	一	八	二	七	二	七	二	七	二	七	二	七	一	八
	非番	一	八	二	五	一	四	一	四	一	四	一	四	一	四	二	五	一	四	二	五	一	六	二	一五
第五部	補助員					二	二																		
	特別詰所																								
	器具置場	一	八	二	七	一	八	二	七	二	七	二	七	二	七	二	七	二	七	二	七	二	七	一	八
	非番	二	七	一	四	二	五	一	六	一	六	二	五	一	六	一	四	二	五	一	六	一	六	二	一五

第六部	一	二	三	五	六	合計
特別詰所					一	二
器具置場	二	七	一	八	六	一五
非番	一	八	二	七	二	八四
特別詰所勤務自動車						
	一	二	三	五	一	一五
	二	七	一	八	二	七二
	二	八	二	七		
	二	五	一	八	一	
	一	六	二	七		
	三	六	二	七		
	一	六	一	八		
	五	六	一	八	一	
	一	六	一	八	六	
	六				一	
	一	三	二	八	二	
	二	六	一	七		
	三	五	二	八	一	
	五	六	一	七		
	六			八	一	
	合計 一二〇一			一五八四	二一五	

備考　補助員トシテ組頭八十日副組頭八十一日其他ハ第四部詰所ニ勤務ノコト

第四節　警衛補助

陸軍特別大演習並地方行幸に際し、縣に於ては警衛部隊を組織し以て警衛の萬全を期されたるが、本市消防組全員は十月二十五日縣警察部長より之が補助員として囑託を受け、縣の示したる警衛補助員心得に依り各般の勤務に從事したり。

其の囑託狀樣式並心得及之が勤務表左記の如し。

（囑託狀樣式）

囑託狀

氏名

陸軍特別大演習並地方行幸御警衛補助員ヲ囑託ス

昭和九年十月二十五日

群馬縣警察部長從五位勳六等　久保田　畯

前橋市警防消防組員勤務別一覽表

前橋市警防消防組員勤務別一覽表

部及號別	職別	氏名	計 補助	計 特別	計 置場	計 非番	勤務日數
	組頭	片倉久登	一		五	五	六
	副組頭	原島與都藏	一		四	六	五
第一部	部頭	今井角次	一		六	四	七
第一部	小頭	小曾根美千夫	一	一	五	四	七
第一部	同	田村信吉	一	一	五	四	七
第一部	消防手	今成好助	一	二	六	二	九
第一部	同	市村繁正	一	二	五	三	八
第一部	同	太刀川字次郎	一	二	五	三	八
第一部	同	高橋熈之助	一	一	六	三	八
第一部	同	茅井梅藏	一	一	六	三	八
第一部	同	瀬下權作	一	一	六	三	八
第一部	同	宮田福太郎	一	一	六	三	八
第一部	同	丹波喜三郎	一	一	六	三	八
第一部	同	渡邊定利	一	一	六	三	八
第一部	同	細川保次	一	一	五	四	七
第一部	同	齋藤喜久壽	一	一	五	四	七
第一部	同	大崎辰一	一	一	六	三	八
第一部	同	石原力太郎	一	一	五	四	七
第一部	同	關口金吉	一	一	五	四	七
第一部	同	鈴木榮太郎	一	一	五	四	七
第二部	部頭	內藤竹次郎	一	一	六	三	八
第二部	小頭	平山宇市	一	一	五	四	七
第二部	同	清水幸吉	一		五	五	六
第二部	消防手	小川馬吉	一	一	六	三	八
第二部	同	賀川安太郎	一	一	五	四	七
第二部	同	川山清太郎	一	一	六	三	八
第二部	同	井上龜太郎	一	一	五	四	七
第二部	同	福田宇平治	一	一	五	四	七
第二部	同	中島光男	一	一	五	四	七
第二部	同	大谷政市	一	一	五	四	七
第二部	同	手島飛車次	一	一	七	二	九
第二部	同	牧森平	一	一	六	三	八
第二部	同	高井番藏	一	一	五	四	七
第二部	同	小林寅遣	一	一	五	四	七
第二部	同	原島孝	一	一	五	三	七
第二部	同	大海清作	一	一	六	三	八
第二部	同	三輪新八郎	一	一	七	二	九
第二部	同	鈴木津久茂	一	一	五	四	七
第三部	部頭	關龜太郎	一	一	五	四	七
第三部	小頭	田村喜平	一		六	四	七
第三部	同	相崎武平	一		六	四	七
第三部	消防手	寺澤清美	一	一	六	三	八
第三部	同	桑原勇次郎	一	二	五	三	八
第三部	同	小林仁作	一	二	五	三	八
第三部	同	新井陽太郎	一	一	六	三	八
第三部	同	中島倉吉	一	一	六	三	八
第三部	同	大澤龍太郎	一	一	六	三	八
第三部	同	大谷初平	一	一	六	三	八
第三部	同	和田守治	一	一	五	四	七
第三部	同	遠藤正平	一	二	五	三	八
第三部	同	日吉籍氏	一	一	五	四	七
第三部	同	鹿兒島淺吉	一		五	五	六
第三部	同	中村龍雄	一	一	六	三	八
第三部	同	野田範之	一	一	五	四	七
第三部	同	稲村常吉	一		五	五	六
第三部	同	田口藤次郎	一	一	六	三	八
第四部	部頭	降旗榮十	一		四	六	五
第四部	小頭	周東九平	一		五	五	六
第四部	同	駒井重郎	一		五	五	六
第四部	消防手	飯島千三郎	一	一	六	三	八
第四部	同	岩田幸八	一	二	六	二	九
第四部	同	三宅市太郎	一	一	五	四	七
第四部	同	根岸元吉	一	一	六	三	八
第四部	同	金井清次郎	一	一	四	五	六
第四部	同	平井常七	一	一	六	三	八
第四部	同	荒木梅吉	一	二	六	二	九
第四部	同	高野初太郎	一	二	六	二	九
第四部	同	關口新作	一	一	六	三	八
第四部	同	秋野光太郎	一	一	六	三	八
第四部	同	鯨井徳藏	一	一	六	三	八
第四部	同	根岸好二	一	一	五	四	七
第四部	同	賀川芳巳	一	二	六	二	九
第四部	同	土屋茂平	一	一	五	四	七
第四部	同	山崎昇太郎	一	二	六	二	九
第五部	部頭	後藤武雄	一		六	四	七
第五部	小頭	荻原富士太郎	一	一	五	四	七
第五部	同	荻原富太郎	一	一	四	五	六
第五部	消防手	石井林內	一	一	六	三	八
第五部	同	山田直次郎	一	一	五	四	七
第五部	同	北爪榮吉	一	一	五	四	七
第五部	同	岩上東九郎	一	一	五	四	七
第五部	同	笛木銀次郎	一	一	六	三	八
第五部	同	吉田光造	一	一	五	四	七
第五部	同	平山次男	一	三	五	二	九
第五部	同	野村森之助	一	一	七	二	九
第五部	同	品川彌七	一		六	四	七
第五部	同	柴山秀男	一	一	六	三	八
第五部	同	篠澤卯一	一	一	六	三	八
第五部	同	山田芳太郎	一	一	六	三	八
第五部	同	横澤癸一	一	一	六	三	八
第五部	同	小川新一	一	一	五	四	七
第五部	同	元川市之助	一	一	五	四	七
	部頭	大島巻太郎	一	一	五	四	七
	小頭	荒木邦司	一	一	五	四	七

部	役職	氏名	各部二回ヅ、（四部ヲ除ク） 110	110	594	376	814
第一部	[illegible]	[illegible]	一	二	五	三	八
第一部	同	太刀川宇次郎	一	二	五	三	八
第一部	同	高橋照之助	一	二	六	三	八
第一部	同	芳井梅藏	一	一	六	三	八
第一部	同	瀬下權作	一	一	六	三	八
第一部	同	宮田福太郎	一	一	六	三	八
第一部	同	丹波喜三郎	一	一	六	三	八
第一部	同	渡邉定利	一	一	六	三	八
第一部	同	細川保次	一	一	五	四	七
第一部	同	齋藤喜久喜	一	一	五	四	七
第一部	同	大崎辰一	一	一	六	三	八
第一部	同	石原力太郎	一	一	五	四	七
第一部	同	關口金吉	一	一	五	四	七
第一部	同	鈴木榮太郎	一	一	五	四	七
第二部	部頭	內藤竹次郎	一	一	六	三	八
第二部	小頭	平山宇市	一	一	五	四	七
第二部	同	清水幸吉	一		五	五	六
第二部	消防手	小川馬吉	一	一	六	三	八
第二部	同	賀川安太郎	一	一	五	四	七
第二部	同	川山清太郎	一	一	六	三	八
第二部	同	井上龜太郎	一	一	五	四	七
第二部	同	福田宇平治	一	一	五	四	七
第二部	同	中島光男	一	一	五	四	七
第二部	同	大谷政市	一	一	五	四	七
第二部	同	手島飛車次	一	一	七	二	九
第二部	同	牧森平	一	一	六	三	八
第二部	同	高井晋藏	一	一	五	四	七
第二部	同	小林實遣	一	一	五	四	七
第二部	同	原島孝	一	一	五	三	七
第二部	同	大海清作	一	一	六	三	八
第二部	同	三輪新八郎	一	一	七	二	九
第二部	同	鈴木津久茂	一	一	五	四	七
第三部	部頭	關龜太郎	一	一	五	四	七
第三部	小頭	田村喜平	一		六	四	七
第三部	同	相崎武平	一		六	四	七
第三部	消防手	寺澤清美	一	一	六	三	八
第三部	同	桑原勇次郎	一	二	五	三	八
第三部	同	小林仁作	一	二	五	三	八
第三部	同	新井陽太郎	一	一	六	三	八
第三部	同	中島倉吉	一	一	六	三	八
第三部	同	大淵龍太郎	一	一	六	三	八
第三部	同	大谷初平	一	一	六	三	八
第三部	同	和田守治	一	一	五	四	七
第三部	同	遠藤正平	一	二	五	三	八
第三部	同	日吉籍氏	一	一	五	四	七
第三部	同	鹿兒島淺吉	一		五	五	六
第三部	同	中村龍雄	一	一	六	三	八
第三部	同	野田範之	一	一	五	四	七
第三部	同	稲村常吉	一		五	五	六
第三部	同	田口藤次郎	一	一	六	三	八
第四部	部頭	降旗榮十	一		四	六	五
第四部	小頭	周東九平	一		五	五	六
第四部	同	駒井重郎	一		五	五	六
第四部	消防手	飯島千三郎	一	一	六	三	八
第四部	同	岩田幸八	一	二	六	二	九
第四部	同	三宅市太郎	一	一	五	四	七
第四部	同	根岸元吉	一	一	六	三	八
第四部	同	金井清次郎	一	一	四	五	六
第四部	同	平井常七	一	一	六	三	八
第四部	同	荒木梅吉	一	二	六	二	九
第四部	同	高野初太郎	一	二	六	二	九
第四部	同	關口新作	一	一	六	三	八
第四部	同	秋野光太郎	一	一	六	三	八
第四部	同	鯨井徳藏	一	一	六	三	八
第四部	同	根岸好二	一	一	五	四	七
第四部	同	賀川芳巳	一	二	六	二	九
第四部	同	土屋茂平	一	一	五	四	七
第四部	同	山崎昇太郎	一	二	六	二	九
第五部	部頭	後藤武雄	一		六	四	七
第五部	小頭	萩原富士太郎	一	一	五	四	七
第五部	同	萩原富太郎	一	一	四	五	六
第五部	消防手	石井林内	一	一	六	三	八
第五部	同	山田直次郎	一	一	五	四	七
第五部	同	北爪榮吉	一	一	五	四	七
第五部	同	岩上東九郎	一	一	五	四	七
第五部	同	笛木銀次郎	一	一	六	三	八
第五部	同	吉田光遣	一	一	五	四	七
第五部	同	平山次男	一	三	五	二	九
第五部	同	野村森之助	一	一	七	二	九
第五部	同	品川彌七	一		六	四	七
第五部	同	柴山秀男	一	一	六	三	八
第五部	同	篠澤卯一	一	一	六	三	八
第五部	同	山田芳太郎	一	一	六	三	八
第五部	同	横澤癸一	一	一	六	三	八
第五部	同	小川新一	一	一	五	四	七
第五部	同	元川市之助	一	一	五	四	七
第六部	部頭	大島巻太郎	一	一	五	四	七
第六部	小頭	荒木邦司	一	一	五	四	七
第六部	同	中島彌平	一		五	五	六
第六部	消防手	中村福太	一	一	五	四	七
第六部	同	根岸長五郎	一	一	五	四	七
第六部	同	本間松次郎	一	一	七	二	九
第六部	同	前田虎松	一	一	七	二	九
第六部	同	渡邉春次	一	一	六	三	八
第六部	同	平井龜次	一	一	六	三	八
第六部	同	小林貞二	一	一	六	三	八
第六部	同	大島孝三郎	一	一	三	六	五
第六部	同	小野田芳太郎	一	一	六	三	八
第六部	同	和田唯七	一	一	六	三	八
第六部	同	加藤主馬吉	一	一	七	二	九
第六部	同	高橋米次郎	一	一	六	三	八
第六部	同	村田喜老	一	一	五	四	七
第六部	同	佐藤松次郎	一	一	二	七	四
第六部	同	岸角次郎	一	一	七	二	九

陸軍特別大演習地方行幸警衛補助員心得

第一條　警衛補助員ハ警衛部隊ニ屬シ警察官ノ指揮ニ從ヒテ左ノ任務ニ服スルモノトス

一、鐵道沿線及御道筋警衛ノ補助

二、交通遮斷竝交通整理ノ補助

三、奉拜者整理ノ補助

四、幼者迷兒等救護事務ノ補助

五、其ノ他警察官ノ指示シタル任務

第二條　警衛補助員ハ光榮アル任務ト重大ナル職責トヲ自覺シ至誠以テ其ノ任務ノ遂行ヲ期スヘシ

第三條　警衛補助員ノ服裝及容姿ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一、總テ制服甲種又ハ乙種トシ黑短靴（編上ケ深護謨ヲ含ム）又ハ地下足袋ヲ著用シ帽子ハ顎紐ヲ用フルコト

二、降雨ノ際ハ雨具ヲ著用スルコトヲ得ルモ通御五分前ヨリ之ヲ脫スルコト

三、所定ノ腕章ヲ左腕ニ徽章ヲ左胸ニ佩用スルコト

四、頭髮、鬚髯ヲ手入シ携帶品等不體裁ニ涉ラサルコト

第四條　警衛補助員ノ佇立スル位置ハ左ニ依ルヘシ

一、御道筋ノ第一線配置ノ場合御通路ヨリ概十米以上離ルルコト

鐵道沿線警衛ノ場合亦同シ

二、前項以外ノ場所ニ於テハ所屬隊長ノ指示ニ依ルコト

第五條　御道筋竝鐵道沿線配置ニ就キタルトキノ方向委勢ハ左ニ依ルヘシ

一、方　向

イ、御道筋御警衛ノ場合、鹵簿ノ進行シ來ル方向ニ向ヒ奉拜者堵列線ニ對シ四十五度ノ角度ヲ以テ斜面シ　鹵簿通御後ニ至ル迄同一方向ヲ保持スルコト

但シ街角又ハ奉拜者密集セル場所其ノ他警衛上必要ナル場所ニ於テハ奉拜者ニ對シテ正面又ハ側面ノ方向ヲ執ルコト

ロ、鐵道沿線警衛ノ場合、御召列車ノ進行シ來ル方向ニ向ヒ奉拜者堵列線ニ向ヒテ側面ノ方向ヲ執リ御召列車（列車全部）通御後ハ奉拜者堵列線ニ著目シツツ右廻轉又ハ左廻轉スルモノトス

但シ沿線奉拜者密集セル場所其ノ他警衛上必要ナル場合ニ於テハ之ニ正面又ハ斜面シテ廻轉ヲ爲ササルコトヲ得

二、委　勢

兩足ヲ僅カニ開キ手ハ自然ニ垂レ視線ヲ奉拜者又ハ警戒スヘキ事物ニ注キ硬直セス常ニ機ニ臨ミ變ニ應シ得ルノ用意ヲ爲スヘシ

第六條　警衛補助員配置ニ就キタルトキハ敬禮ヲ行ハサルモノトス

第七條　警衛補助員ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一、獨斷越權ノ行動ハ嚴ニ之ヲ愼ミ總テ警察官ノ指揮ニ從フコト

二、常ニ和衷協同ヲ旨トシ憲兵、在鄉軍人、縣市町村、鐵道、遞信電氣關係者等ト共助ノ實ヲ擧ケ警衛上些ノ間隙ヲ生セシメサルコト

三、民衆ニ對シテハ親切丁寧ヲ旨トシ苟モ威權ヲ弄シ反感ヲ招ク

カ如キコトナキ樣注意スルコト

四、時間ヲ嚴守シ勤務ニ就キタルトキハ指定ノ位置ヲ守リ濫ニ御道筋等ニ立入ラサルコト

五、勤務中飲酒喫煙セサルハ勿論克ク攝生ヲ重ンシ疾病ノ爲メ勤務ヲ缺クカ如キコトナキ樣留意スルコト

六、警衞上又ハ軍ノ行動ニ關スル祕密ハ特ニ之ヲ嚴守シ警察官ニ報告スルノ外他ニ漏洩スヘカラサルハ勿論不用意ノ間ニ察知セラレサル樣留意スルコト

第八條　民衆中左記ノ者ヲ發見シタルトキハ速ニ警察官ニ申告スルト共ニ其ノ行動ヲ監視スヘシ

一、兇器、或器其ノ他危險ナル物ヲ携帶スル者

二、白痴、精神病者、泥酔者

三、地方ニ見慣レサル者、警察官ノ行動ヲ寛視スル者

四、其ノ他擧動不審ナル者

第九條　通御ニ際シ奉拜線ヲ突破シ危險物ヲ投ケ其ノ他不敬不穩ノ行動ニ出テムトスル者アリタルトキハ直チニ身ヲ以テ之ニ當リ抑止スヘシ

第十條　御道筋御沿線附近ニ出火其ノ他ノ事故アリタルトキト雖モ警察官ノ命ナクシテ濫ニ行動スヘカラス

第十一條　警衞補助員ハ指定日時場所ニ集合シ警衞部隊長ノ指揮ニ從ヒ勤務ニ服シ任務終了シタルトキハ所定ノ場所ニ集合シ命令ヲ俟ツテ解散スヘシ

第五節　交通竝航空制限

十一月五日群馬縣告示第五百六十六號を以て、陸軍特別大演習期間中は道路取締令第十八條の規定に基き、別記圖面に依る地域内一般自動車の交通竝道路上に、多衆人の停立することを禁止する旨公布あり。次で十一月九日本縣知事は、告示第五百八十二號を以て航空制限を公布したり。其の全文左記の如し。

⊙群馬縣告示第五百八十二號（保）

十一月十日御發輦群馬縣下へ行幸同十八日還幸アラセラルルニ付左ノ通航空ヲ制限ス

昭和九年十一月九日　群馬縣知事　金澤正雄

一　左記日時ニ於ケル鐵道線路ヨリ水平距離五粁以内ノ航空ヲ禁止ス但シ鐵道線路横斷ノ必要アルトキ其ノ他已ムヲ得サル事由アルトキハ御召列車御通過三十分前及三十分後ハ御召列車ニ對シ五粁以内ニ近接セサル限リ航空差支ナシ

記

(一)　十一月十日午後零時五十分ヨリ午後四時五分迄
上野前橋間（東北本線、高崎線、兩毛線及上越線）

(二)　十一月十一日午前五時五十二分ヨリ午前八時二分迄
前橋佐野間（兩毛線）

(三)　同午前十時三十分ヨリ午後一時五分迄
佐野前橋間（兩毛線）

(四)　同日天候等ニ依リ戰線御巡視御取止ノ場合午前九時五十分ヨリ午後零時二十五分迄
佐野前橋間（兩毛線）

(五)　十一月十二日午前十一時二十七分ヨリ午後一時迄
前橋神保原間（兩毛線、上越線及高崎線）

(六)　同午後二時三十五分ヨリ午後四時三分迄
新町前橋間（高崎線、上越線及兩毛線）

(七)　同日天候等ニ依リ戰線御巡視御取止ノ場合
同午後一時五十六分ヨリ午後三時二十四分迄
新町前橋間（高崎線、上越線及兩毛線）

(八)　十一月十三日高崎附近野外統監部ニ臨御ノ場合
イ、午前六時二十七分ヨリ午前七時四十二分迄
前橋高崎間（兩毛線及上越線）
ロ、午後三時二十六分又ハ午後三時一分ヨリ午後四時四十一分又ハ四時十六分迄
高崎前橋間（上越線及兩毛線）

(九)　同日八幡附近野外統監部ニ臨御ノ場合
イ、午前六時二十七分ヨリ午前八時二分迄
前橋高崎山名間（兩毛線、上越線及上信電鐵）
ロ、午前八時三十九分ヨリ午前九時五十五分迄
山名高崎間（上信電鐵）
ハ、午後三時二十六分又ハ午後三時一分ヨリ午後四時四十一分又ハ四時十六分迄
高崎前橋間（上越線及兩毛線）

(十)　十一月十四日午前八時三十七分ヨリ午前九時五十二分迄
前橋高崎間（兩毛線及上越線）

(十一)　同午後零時四十八分ヨリ午後二時三分迄
高崎前橋間（上越線及兩毛線）

(十二)　十一月十六日午前八時三十二分ヨリ午前十時十一分迄
前橋桐生間（兩毛線）

(十三)　同午前十時四十五分ヨリ午後零時五分迄
桐生足利間（兩毛線）

(十四)　同午後一時二十分ヨリ午後二時三十五分迄
足利太田間（東武鐵道）

(十五)　同午後二時三十八分ヨリ午後四時三十二分迄
太田前橋間（東武鐵道及兩毛線）

(十六)　十一月十七日午前九時三十二分ヨリ午前十一時四十三分迄
前橋上州一ノ宮間（兩毛線、上越線及上信電鐵）

(十七)　同午後零時十分ヨリ午後二時一分迄

上州一ノ宮高崎間（上信電鐵）

(八) 同午後二時五十七分ヨリ午後四時十二分迄
高崎前橋間（兩毛線及上越線）

(九) 十一月十八日午前八時三十八分ヨリ午前十一時二十分迄
前橋大宮間（兩毛線、上越線及高崎線）

二 左記區域上ノ航空ハ之ヲ禁止ス

(一) 十一月十日午後三時五分ヨリ十一月十八日午前九時三十八分迄大本營、行在所（群馬縣廳）、前橋市及其ノ周圍五粁以内ノ場所ノ上空

(二) 十一月十六日午前九時十一分ヨリ午前十一時四十五分迄
桐生市及其ノ周圍五粁以内ノ場所ノ上空

(三) 同午前十一時五分ヨリ午後二時二十分迄
足利市及其ノ周圍五粁以内ノ場所ノ上空

(四) 同午後一時三十五分ヨリ午後三時三十八分迄
太田町及其ノ周圍五粁以内ノ場所ノ上空

(五) 十一月十七日午前十時四十三分ヨリ午後一時十分迄
上州一ノ宮町及其ノ周圍五粁以内ノ場所ノ上空

(六) 同午後一時ヨリ午後三時五十七分迄
高崎市及其ノ周圍五粁以内ノ場所ノ上空

三 鹵簿（御徒歩、御自動車及御乘馬ノ場合ヲ含ム）野外統監部、御講評場、觀兵式場、賜饌場、御立替所、御立寄所及其ノ周圍五粁以内ノ上空ニ於ケル航空ヲ禁止ス

第六節　通行禁止竝横斷道路指定

十一月五日群馬縣告示第五百六十七號を以て、内務省令第四十五號道路取締令第十八條の規定に依り、陸軍特別大演習竝地方行幸期間中、特定地域内に於ける人車馬の通行を禁止し竝横斷道路を指定せられたるが、本市關係分は左記の如し。

記

區間	路線名	禁止日時	横斷道路
		十一月十日 電車（自午後二時五分至同四時）其ノ他人車馬（自午後二時三十分至同四時十五分）	

區間	路線名	禁止日時	横斷道路
前橋驛間	前橋停車場線	十一月十一日 電車（自午前四時四十五分至同六時三十五分）其ノ他人車馬（自午前五時十五分至同六時三十五分）	左記第一圖ノ通（點線ノ道路）
大本營（行在所）間	國道九號線	十一月十二日 電車（自午前十時二十分至同午後零時十三分）其ノ他人車馬（自午前十時五十分至同午後零時十三分）	
		十一月十三日 電車（自午前五時二十分至同七時十三分）其ノ他人車馬（自午前五時五十分至同六時十三分）	
		十一月十四日 電車（自午前七時三十分至同九時二十三分）其ノ他人車馬（自午前八時二十三分至同九時二十三分）	
		十一月十六日 電車（自午前七時二十分至同九時十五分）其ノ他人車馬（自午前七時五十五分至同九時十七分）	
		十一月十一日 電車（自午前十一時三十分至同午後零時五十五分）其ノ他人車馬（自午前十一時五十五分至同午後零時五十五分）	
		十一月十三日 電車（自午後二時十六分至同四時三十四分）其ノ他人車馬（自午後二時四十六分至同四時三十四分）	
		十一月十四日 電車（自午後零時三十分至同二時十六分）其ノ他人車馬（自午後一時十六分至同二時十六分）	
		十一月十六日 電車（自午後二時三十二分至同四時十五分）其ノ他人車馬（自午後三時二分至同四時二十五分）	

行在所	國道九號線
前橋中學校	縣道前橋玉村線
群馬縣師範學校	縣道前橋總社線
行在所	同黑保根前橋線
行在所	國道九號線
群馬縣種畜場	縣道黑保根前橋線
	前橋總社線
	市道

十一月十七日

電車（自午前八時二十分　至同十時十二分）

其ノ他人車馬（自午後二時十二分　至同三時五十七分）

十一月十八日

電車（自午前七時三十分　至同九時十三分）

其ノ他人車馬（自午前八時　至同九時十三分）

十一月十五日

（自午前七時四十分　至同十時四十五分）

（自午前十時八分　至同十一時三十分）

前橋市街地（自午後零時　至同二時三十分）

前橋市外ヨリ種畜場間（自午前十一時四十分　至午後二時三十分）

左記第二圖ノ通（點線道路）

第二章　衛　生

第一節　事務の大要

陸軍特別大演習竝地方行幸に際し、本市は畏くも　聖駕の御駐蹕を仰ぎ、加之、皇族各宮殿下を始め奉り、內外朝野の貴顯及多數將兵の來橋等に關聯して、衛生施設の極めて重大なるを思念し、各機關と協議の上之が計畫を樹立して、係員には市吏員中より係長以下十人を任命し、一般衛生事務は衛生係、清掃事務は掃除部之を擔任し、警察官署の協力と各區役員・各衛生組合役員・市醫師會員・藥劑師會員・齒科醫師會員・看護婦會員・產婆會員・在鄉軍人會員・青年會員等の援助竝一般市民の理解ある應援とに俟ち、別記縣訓令甲第九號昭和九年陸軍特別大演習衛生事務處理規程に準據し、清潔法、豫防注射、健康診斷、水質檢査、乳劑撒布、狂犬病豫防其の他諸般の事業を實施せり。各係員各團體員は此の樞要なる事業施行に渾身の赤誠を披瀝して、終始不斷に最善の努力を致し、所管事務一切を圓滑且完全に果遂して、所期の目的を達成することを得たり。

尙、腸チブス豫防注射、水質檢査、救護班の事務に關し、醫師會・藥劑師會・看護婦會等より出場したる人員左の如し。

會名	第一回豫防注射	第二回豫防注射	水質檢査	救護班	延人員
前橋市醫師會	二九八人	四八人	一人	六〇人	四〇六人
前橋市藥劑師會	一	一	一	一	二四二
梁瀨看護婦會	一五六	三〇	一	三七	二二三
絲井看護婦會	一八四	一八	一	二〇	二二二
大島看護婦會	一三二	一八	一	二〇	一七〇
新井看護婦會	一〇〇	六	一	一〇	一一六
蓮看護婦會	一一〇	一二	一	一〇	一三二
田尻看護婦會	九六	一二	一	一〇	一一八
永井看護婦會	一	一	一	一〇	一〇
篠田看護婦會	一	一	一	一〇	一〇
前橋市產婆會	一	一	一	二二	二二
帝國在鄉軍人會前橋聯合分會救護隊	一	一	一	一三五	一三五
合計	一、〇七六	一四四	二四二	三四四	一、八〇六

訓令甲第九號（衛）

知事官房
內務部
學務部
警察部
警察署
市役所
町村役場

昭和九年陸軍特別大演習衛生事務處理規程左ノ通定ム

昭和九年六月五日　群馬縣知事　金澤正雄

陸軍特別大演習衛生事務處理規程（抜萃）

第一章　總則

第一條　行幸及大演習ニ關スル衛生事務ハ別ニ定ムルモノノ外本令

ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第二條　衛生係員ハ其ノ主管事務ニシテ急速ヲ要スルモノアルトキハ便宜ノ方法ニ依リ衛生救護係長ニ即報指揮ヲ受ケ處理シ時機ヲ失セサル樣注意スヘシ

第三條　警察官吏、衛生官吏其ノ他ノ衛生係員ニシテ其ノ主管事務ニ付取締ヲ爲ストキハ懇切丁寧ヲ旨トスヘシ

第二章　行幸ニ關スル事項

第一節　御料品ニ關スル事項

第四條　御料品ノ製造又ハ取扱ニ付テハ概ネ左ノ事項ヲ遵守セシムヘシ

一　作業ニ從事スル者竝ニ其ノ家族及同居者ハ豫メ健康診斷及排泄物檢査ヲ受ケ且傳染病患者又ハ死者アル場所ニ交通セサルコト

二　作業ニ從事スルトキハ豫メ指爪ヲ短剪シ石鹼ヲ以テ肘部以下ヲ清洗シ、酒精ヲ以テ消毒シタル後清潔ナル白衣及白帽ヲ用ヒ且「マスク」ヲ使用シ更ニ酒精ヲ以テ手指ヲ消毒シ著手スルコト

三　御料品ノ貯藏又ハ運搬用具ハ清鮮ナルモノヲ用ヒ豫メ消毒スルコト

四　御料飲食品ノ製造又ハ取扱ノ場所及之ニ關係アル場所ニハ係員以外ノ者又ハ之ニ關係ナキ獸畜類ヲ入ラシメサルコト

第五條　御料品ヲ上納スル者ハ衛生救護係長ノ指揮ニ從ハシムヘシ

第二節　御料水ニ關スル事項

第六條　御料水ハ試驗ノ上選定スヘシ

前項ノ外豫備御料水トシテ井戸二箇以上選定シ置クヘシ

第七條　御料水ノ選定試驗及取扱等ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一　御料水ハ二回以上理化學的及細菌學的檢査ヲ行フコト

二　御料水ノ器具ハ最清潔無臭ナルモノヲ用ヒ酒精ヲ以テ消毒ヲ行フコト

三　御料水ヲ運搬スルニハ警察官吏又ハ衛生官吏監守スルコト

第八條　御料水ニ充ツル井戸ハ決定後直ニ監督者ヲ附シ汚染セサル樣設備スヘシ

第七節　御料野菜果實等ニ關スル事項

第二十三條　栽培ニハ屎尿及從來施肥ニ使用シタル肥料杓及汲桶等ハ使用セシムヘカラス

第二十四條　土壤ハ下水汚物等ノ浸漬セサル位置ヲ選ヒ其ノ清潔（石灰窒素石灰等ヲ以テ）ヲ圖リ灌漑用水ハ下水汚水等ヲ使用セシムヘカラス

第八節　宿舍ニ關スル事項

第二十五條　皇族、貴賓及供奉員ノ宿舍（以下單ニ宿舍ト稱ス）ニ關スル衛生上ノ心得ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第二十六條　警察署長ハ前條ノ心得書ヲ豫メ宿舍主ニ配布シ其ノ徹底ヲ期スヘシ

第二十七條　警察官吏、衛生官吏其ノ他ノ係員ハ時々宿舍ニ就キ衛生上ノ指導取締ヲ爲スヘシ

第九節　清潔方法及消毒方法ニ關スル事項

第二十八條　大本營、非常御立退所、野外統監部、御休憩所、御講評場、觀兵式場、賜饌場、地方行幸地及御昇降驛等ノ消毒ヲ委託セラレタルトキハ衛生係ハ大正二年宮內次官及內務次官ノ通牒ニ基キ之ヲ行フヘシ

第二十九條　天覽ニ供シ又ハ獻納スヘキ物品ハ總テ衛生係員ノ清潔方法又ハ消毒方法ノ施行ヲ受クヘシ

第三十條　御昇降驛ノ消毒ニ付テハ鐵道關係者ト打合セノ上施行スヘシ

第三十一條　御料品運搬ノ用ニ供スル自動車、人力車及荷車等ハ衛生係員ノ清潔方法及消毒方法ノ施行ヲ受クヘシ

第三十二條　大本營、非常御立退所、野外統監部、御休憩所、御講評場、觀兵式場、賜饌場、地方行幸地及御昇降驛等ノ附近三三〇米突以內竝ニ御道筋ノ民家ニ對シテハ豫メ清潔方法ヲ行ハシメ路上ニハ適度ノ撒水ヲ爲サシメ厠圊、庖厨、下水溝渠、肥料置場及汚物溜ハ嚴重ナル掃除ヲ行ハシメ厠圊ニ對シテハ特ニ行幸前三日迄ニ屎尿ヲ撤出セシメ甚ダシク不體裁ノモノニ對シテハ適當ナル設備ヲ命ジ御還幸ノ日迄常ニ惡臭發散防止ノ方法ヲ講ゼシメ清潔ヲ保タシムヘシ

第三十三條　警察署長ハ大本營又ハ行在所所在地內ニ於テ午前六時ヨリ午後五時迄ノ間ハ屎尿其ノ他ノ汚物ヲ汲ミ取リ又ハ運搬セサル樣一般ニ周知セシメ之ヲ遵守セシムヘシ

第十節　健康診斷及排泄物檢査ニ關スル事項

第三十四條　行幸前二十日目ヨリ御還幸ノ日迄左ニ揭クル者ハ隨時衛生技術員ノ健康診斷及排泄物檢査ヲ受ケ又ハ受ケシムヘシ

一　非常御立退所、野外統監部及賜饌場等ノ用務ニ從事スル者竝ニ其ノ家族及同居者

二　御料水及御料飲食品等ノ調製及取扱ニ從事スル者竝ニ其ノ家族及同居者

三　天覽品、獻上品、其ノ他容器ノ製作及取扱ニ從事スル者竝ニ其ノ家族及同居者

四　御用商人、御用飲食物調進者、御用人夫竝ニ其ノ家族及同居者

五　宿舍主竝ニ其ノ家族及同居者

六　御昇降驛ニ於ケル驛員以外ノ驛出入者

七　御警衛ニ從事スル警察官吏

八　侍從文武官御差遣箇所ノ長及其ノ關係者

九　其ノ他必要ト認メタル者

第三十五條　第四條及前條ノ規定ニ依リ健康診斷及排泄物ノ檢査ヲ受ケタル健康者ニシテ必要ト認ムル者ニ對シテハ健康ノ證ヲ交付スヘシ

第十一節　檢病的戶口調査ニ關スル事項

第三十六條　大本營、非常御立退所、野外統監部、御休憩所、御講評場、觀兵式場、賜饌場、地方行幸地、御昇降驛及御料水、御料乳搾取場竝ニ御料品ノ調進所等ノ所在地三三〇米突以內附近及御道筋ノ住民ニ對シ所轄警察署長ハ警務部長ノ指示ニ從ヒ檢病的戶口調査ヲ勵行スヘシ

第三十八條　警察署長及市町村長ハ第三十六條ニ掲クル場所ニ出入スル者又ハ宿舍主ニ對シテハ宮内傳染病豫防令及同施行規則周知ノ方法ヲ執リ之ヲ遵守セシムヘシ

第四十一條　市町村長ハ警察署長ト協議ノ上左ニ掲クル事項ヲ實施スヘシ

一　清潔方法石油乳劑撒布及豫防注射ヲ勵行スルコト

二　蠅ノ發生防止及驅除ノ方法ヲ講セシムルコト

三　飲料水ノ改良及水質檢査ヲ實施スルコト

四　溝渠、便所、下水、汚物溜、肥料置場又ハ厩舍等ノ掃除又ハ浚渫ニ努メシメ破損ノ箇所ハ修理セシムルコト

五　各戸ニ就キ住民ノ健康狀態ヲ視察シ傳染病ノ疑アル患者又ハ死者ヲ發見シタルトキハ直ニ醫師ノ診斷ヲ受ケシメ結果ヲ所轄警察署長ニ通報スルコト

六　傳染病患家ノ家族及其ノ附近ノ者ニ對シテハ特ニ健康狀態ニ注意スルコト

七　腸「チフス」「パラチフス」又ハ赤痢(疫痢ヲ含ム)ニ罹リ全治シタル者及病原體保有者ニシテ其ノ菌消失シタル者ニ對シテハ全治又ハ消失シタル後一箇月間上圖ノ都度便池ニ蝦製石灰末ヲ撒布セシメ且手指其ノ他ヲ消毒セシムルコト

八　市町村長ハ前各號ノ事項ヲ勵行スル爲吏員、衛生組合員又ハ傳染病豫防委員其ノ他ニ對シ受持區域ヲ分擔シ巡視セシムルコト

第四十二條　市町村長ハ傳染病發生シタルトキハ患者ノ家族、同居者竝ニ其ノ附近及流行區域内ノ住民其ノ他必要ト認ムル者ニ對シ病毒ノ潜伏期間中反復健康診斷及細菌檢査ヲ行フヘシ

第四十三條　警察署長、市町村長ハ宮内傳染病豫防令第一條第一項第一類及第二類ニ掲クル傳染病ノ發生ニ注意シ苟モ蔓延ノ兆アリト認メタルトキハ警務部長ニ報告スヘシ

第三章　大演習ニ關スル事項

第一節　軍隊宿舍、宿屋、料理店、飲食店及ヒ飲食物ニ關スル事項

第四十四條　演習關係地域内ノ宿屋、料理店及飲食店等ニ關スル衛生上ノ心得ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第四十五條　警察署長ハ前條ニ規定スル心得書ヲ豫メ宿屋、料理店及飲食店等ニ配布シ其ノ徹底ヲ期スヘシ

第四十六條　警察官吏、衛生官吏及衛生職員ハ時々前條ノ營業者ニ對シ衛生上ノ指導取締ヲ爲スヘシ

第四十七條　市町村長ハ豫メ係員ヲシテ軍隊宿舍ヲ巡視セシメ別ニ定ムル軍隊宿舍主心得ヲ勵行セシムヘシ

第四十八條　市町村長ハ昭和九年六月以降傳染病患者又ハ病原體保有者アリタル家ニ對シ演習期間中其ノ門戸等見易キ箇所ニ「何々患者アリタリ」又ハ「何々病原體保有者アリタリ」ト標示シ軍隊ノ宿舍ニ充當セサル樣注意スヘシ

第四十九條　飲食物及飲食物用器具等ノ取締ハ各關係法規ニ從ヒ嚴重ニ之ヲ行フヘシ

第五十條　市町村ニ於ケル飲料水ハ水質檢査ノ成績ニ基キ其ノ良否

ヲ識別シ得ラルル樣標識セシムヘシ

第五十一條　屠場及牛乳營業取締ニ付テハ衛生技術員及警察官吏ハ各關係法規ニ從ヒ當業者ヲ指導督勵シ特ニ牛乳搾取所ノ臨檢ハ毎月二回以上之ヲ行フヘシ

第二節　傳染病豫防ニ關スル事項

第五十二條　市町村長ハ其ノ住民ニ對シ成ルヘク九月末日迄ニ腸「チフス」及「パラチフス」豫防注射ヲ施行スヘシ

御料品ノ製造、取扱、栽培、採取又ハ捕獲等ニ從事スル者及其ノ家族竝ニ同居者ニ對シテハ特ニ勵行スヘシ

第五十三條　警察署長及市町村長ハ下痢嘔吐又ハ發熱其ノ他傳染病豫防上注意ヲ要スヘキ患者ヲ發見シタルトキハ確診ニ至ルマテ之ヲ特定ノ場所又ハ患家ノ一室ニ隔離シ且寢具其ノ他患者ノ使用スル物品ハ健康者ト區別シ患者ノ排泄物ハ之ヲ嚴重消毒スヘシ

第五十四條　市町村長ハ昭和九年六月一日以降傳染病患者又ハ病原體保有者アリタル家及其ノ附近ノ飲料水ニ對シテハ第五十條ニ依ルノ外「クロール石灰」等ノ消毒ヲ反復施行スヘシ

第五十五條　傳染病院及隔離病舍ハ必要ニ應シ直ニ使用シ得ラルル樣修理ヲ加ヘ且收容ニ必要ナル藥品及器具等ヲ準備シ置クヘシ

第五十八條　市町村長ハ昭和九年六月一日以降傳染病患者發生シ又ハ現ニ患者若ハ病原體保有者アルトキハ市町村ノ入口其ノ他見易キ場所ニ病名、發生患者數、現在患者數、最終發生月日及患者ノ現在セル位置等ヲ標示スヘシ

第五十九條　市町村長ハ傳染病患者ヲ收容又ハ隔離中ノ病院病舍其ノ他ノ場所ニ對シ其ノ門戸等見易キ箇所ニ病名及患者數ヲ標示スヘシ

第六十條　市町村長ハ其ノ市町村内ニ於ケル本年ノ傳染病患者統計表ヲ作成シ置キ軍隊其ノ他ヨリ要求アリタルトキハ之ヲ交付スヘシ

第三節　救護ニ關スル事項

第六十一條　救護所又ハ救護班ハ固定及移動ノ二種トシ日本赤十字社群馬支部及郡市醫師會其ノ他ノ團體ト協力シ演習陪觀者、演習係員及拜觀者其ノ他ノ傷病者ヲ救護スヘシ

第六十二條　御講評場、觀兵式場及御賜饌場其ノ他必要アル場所ニハ救護所又ハ救護班ヲ附近適當ノ地ニ移動スヘシ

第六十三條　救護所又ハ救護班ニハ白布其ノ他適當ナルモノニ「何々救護所」又ハ「何々救護班」ト記セル標識ヲ掲ゲ夜間ハ同一文字ヲ記セル大提燈ヲ掲揚スヘシ但シ演習上妨害トナル場合ハ點火スヘカラス

第六十四條　救護所又ハ救護班ニハ日誌ヲ備ヘ傷病者ノ住所、氏名、年齢及傷病名其ノ他必要ナル事項ヲ記載スヘシ

第六十五條　被救護者重症ナルトキハ應急手當ヲ爲シ速ニ演習取締警察官吏又ハ救護所所在地ノ市町村長ト協議シ親族知人其ノ他引取人ニ引渡ス等適宜ノ措置ヲ爲スヘシ

被救護患者ニシテ傳染病患者ナルトキハ直ニ所轄市町村長ニ之ヲ引渡スヘシ

第四節　炭疽及狂犬病豫防ニ關スル事項

第六十八條　市町村吏員ニ於テ炭疽又ハ狂犬病若ハ其ノ疑アルモノヲ發見シ又ハ屆出ヲ受ケタルトキハ直ニ警察官吏又ハ家畜防疫委員ニ通報スヘシ

第六十九條　市町村長ハ昭和九年九月一日以降其ノ市町村内ニ前條ニ掲クル病畜アリタルトキハ市町村ノ入口其ノ他適當ノ場所ニ其ノ旨標示スヘシ

第二節　各種會議

衛生に關する諸般の事務を處理する爲、各機關と數次の會合協議を重ねたるが、其の大要を開催期日順に敍すれば左記の如し。

一、小學校長會議

二月十九日午前十時より市役所内に於て開催す、市長・助役・主務課長・市醫・市立各小學校長出席し、左記事項につき協議せり。

一、市立各小學校兒童に對し「腸チブス」「パラチブス」豫防注射施行の件
　本件は各小學校に於て父兄の同意を求め、三月一日より二十七日迄の間に全兒童一萬一千三十九人に對し、市醫及市立前橋病院醫長をして實施せしむることに決定せり。

二、縣下衛生主任會議

三月二十六日午前十時より群馬會館に縣主催を以て縣下市町村衛生主任會議を開催せらる。本市よりは豊島書記出席し、左記指示及注意事項に關し協議の上歸廳せり。

一、傳染病豫防に關する件
一、病原體保有者檢索に關する件
一、檢病調査に關する件
一、衛生思想の普及宣傳に關する件
一、飲料水改良に關する件
一、汚物掃除に關する件
一、傳染病院整備に關する件
一、御料品に關する衛生上の施設に關する件
一、豫防注射の普及に關する件
一、痘瘡豫防に關する件
一、經口ワクチン内服奬勵に關する件
一、清潔法施行に關する件
一、野犬掃蕩に關する件
一、癩患者取締に關する件

三、醫師及看護婦會長會議

三月二十七日午後一時より市役所に於て開催す。廳外より山下前橋市醫師會長・湯山・糸井・大島・蓮・新井・田尻の各看護婦會長等出席す、江原市長より「腸チブス」「パラチブス」の豫防撲滅を期し、全市民に對する豫防注射實施に際し、醫

師延人員三百五十人、助手、看護婦延人員七百八十四人の無料奉仕を懇請したるに、各會長は人員の多數と三箇月に亙る實施期間には、相當困難なる事情の存せしにも拘らず、之が無料奉仕を快諾せられたり。

四、衛生委員會

四月十九日午後二時より市役所内に於て開催し、大演習擧行に際し最も重要なる衛生施設に關し、本市に於て計畫せる左記事項を協議し之が實施を期したり。

一、「腸チブス」「パラチブス」豫防注射施行に關する件
一、痘瘡豫防警戒に關する件
一、石油乳劑撒布に關する件
一、赤痢、疫痢豫防經口ワクチン服用に關する件
一、傳染病患者早期發見に關する件
一、諸病患者早期診斷に關する件
一、井水檢査に關する件
一、腸寄生蟲驅除藥服用に關する件
一、講演會及活動寫眞會開催に關する件
一、トラホーム患者治療に關する件
一、癩患者取締に關する件
一、野犬掃蕩に關する件
一、檢便施行に關する件
一、衛生警備隊編成に關する件
一、救護班設置に關する件
一、清潔法施行に關する件

五、區長會議

四月二十日午後二時より市役所内に於て開催せり。會議事項左の如し。

一、「腸チブス」「パラチブス」豫防注射施行に關する件
「腸チブス」「パラチブス」の豫防撲滅を期し、四月下旬より六月下旬迄の間に於て全市民に豫防注射を施行す、依て之が周知徹底を期されたく、尙、罹病の爲注射を施行すること能はざるものに對しては「內服ワクチン」を服用せしめられ度。
一、痘瘡豫防警戒に關する件
種痘脫漏者の皆無を期し本年定期種痘後未種痘者を調査し、住所氏名を報告せられ度。尙、滿洲方面よりの歸來者に對しては特に注意警戒を加へ、疑しき者は直に報告せられ度。
一、石油乳劑撒布に關する件
傳染病媒介の最も恐るべき蠅の撲滅を期し、五月より十月迄毎月三回便所、下水、塵芥箱等に石油乳劑の撒布を實施せられ度。
一、赤痢、疫痢、豫防「ワクチン」服用に關する件

赤痢、疫痢豫防の爲六、七月中に、數へ三歳以上七歳未滿の幼兒及患者發生附近の住民に「經口ワクチン」を服用せしむ、但し藥物は市より無料交付の豫定。

一、傳染病患者早期發見に關する件

患者を早期に發見するは傳染病豫防上最も重要なる事項につき、各衛生組合役員は健康調査を行ひ、常に區民の健康狀態に留意して患者の早期發見に努め、疑はしきものは直に內報相成度。

一、諸病患者早期診斷に關する件

健康調査の際發見したる傳染病以外の患者に對しては、家族に諭示して早期の診斷治療を督勵相成度、各衛生組合役員は受持區域を定め、五月一日より一週二回以上の健康調査を實施せられ度。

一、井水檢査に關する件

飲料水の良否は公衆保健に重大なる關係を有する爲、縣に於て水質檢査を施行する豫定の趣につき、實施に際し井水蒐集に關しては特に配意相成度、檢査の結果は各井戸に對し「適」「不適」を標示する見込なり。

一、腸寄生蟲驅除藥服用に關する件

小學校兒童に對しては、學校に於て二回服用せしむる豫定なるも、他の者に對しても服用方督勵相成度。

一、講演會及活動寫眞會開催に關する件

一般市民の衛生思想普及向上の一助として、講演會及活動寫眞會開會の豫定につき、實施の際は可成多數參集方勸誘相煩度。

一、トラホーム治療督勵に關する件

一般患者は勿論、特に接客業の罹病者に對しては、極力治療方督勵相成度。

一、癩患者取締に關する件

浮浪癩患者に類するものの徘徊するを發見したるときは、直に警察署に通報相成度。

一、野犬掃蕩に關する件

狂犬病豫防の爲、野犬掃蕩と豫防注射を執行する豫定なるも、之が方法に關しては、追て縣より指示ある筈につき、實施の際は盡力相煩度。

一、御料品其の他取扱上の衛生に關する件

御料品、御用品、天覽品、獻上品の納入者、製作者、從業員の健康診斷、糞便檢査及其の家族竝附近一般の衛生狀態に關しては、其の都度指示ある筈に付特に注意を拂ひ遺憾なきを期せられ度。

一、健康診斷及糞便檢査に關する件

料理店、飲食店、旅館、其の他飲食物取扱業者及其の家族從業員に對し、健康診斷及糞便檢査施行の筈につき、之が材料蒐集に盡力相成度。

一、衛生警備隊組織に關する件

大演習開始期日一箇月以前より全市に亙り、徹底的檢病調査の必要上警備隊を組織せむとす、之が規程は追て定む。

一、救護班設置に關する件

大演習竝地方行幸期間中市內數箇所に救護班を設置し一般奉拜者等の罹病者を救護せむとす、之が規程は追て定む。

一、清潔法施行に關する件

臨時清潔法の施行を命ぜられたるにつき左記の通施行す。

第一回　四月下旬より五月上旬に亙り例年の方法に依り嚴密に之を施行す。

第二回　七月中梅雨期終了後全市を四區に分ち四日間に實施す。

第三回　九月下旬に於て第二回に準じ之を實施す。

一、塵芥箱完備に關する件

毎戸に設備を要する塵芥箱に關しては、常に受持巡視をして「設備」又は「修理」を警告し居るも、未だ完備せざるものあり、右に對しては之が完備方につき特に注意せられ度。

一、便所の清掃保持に關する件

毎戸の便所は汲取回數を增加せしめ時々、石灰末若は石油乳劑を撒布し、旅館、料理店、飲食店、諸興行場等は特に嚴重に實施せしめられ度。

一、溝渠、河川、空地の清掃に關する件

從來溝渠、河川、空地等に汚物塵芥を投棄する惡弊あり、此の際之が打破に努め且つ各種團體と協力して、前記箇所の清掃に盡力せられ度。

一、屋敷廻及道路上の清掃に關する件

屋敷廻及道路上等人家に接せざる箇所の清掃に留意し、一箇月一回日を定めて之を實施相成度。

六、衞生委員會

六月十五日午前十一時より市役所に於て開會し、大演習竝地方行幸の爲要する衞生關係豫算を附議し、原案通決定せり。

（第一篇第三章第六節參照）

七、衞生組合長會議

六月二十七日午後一時より市役所に於て開催し、左記協議事項の實施を決定せり。

一、第二回「腸チブス」「パラチブス」豫防注射施行に關する件

一、檢病的戸口調査に關する件

一、三歲以上七歲迄の幼兒に對する赤痢、疫痢、豫防「ワクチン」服用方に關する件

一、「腸チブス」「パラチブス」赤痢患者の全治者取扱に關する件

全治後一箇月間上圍の都度便池に生石灰末の撒布及手洗に消毒藥を使用せしむること

八、區長會議

九月三日午前十一時より臨江閣別館に於て開催し、左記事項を協議せり。

一、患者の早期發見に關する件

一、活動寫眞會及講演會開催に關する件

一、衞生警備隊に關する件

一、痲疹及流行性感冒屆出に關する件

一、汚物掃除に關する件

九、衞生組合長會議

九月二十九日午後一時より臨江閣別館に於て開催す。縣衞生課長、前橋警察署長等も臨席し左記事項を協議決定せり。

一、衛生警備隊組織に關する件
一、井戸標幟に關する件
一、宿舍主衛生上の心得に關する件

一〇、醫師、看護婦、産婆、救護隊長會議

十月三十一日午後一時より市役所に於て開催し、廳外より山下醫師會長・湯山・糸井・大島・田尻・新井・蓮・永井・篠田の各看護婦會長・吉野産婆會長・岡部聯合分會救護隊長等出席、左記事項を協議したり。

一、救護班の編成に關する件
一、救護班の服務規程に關する件
一、藥品器具に關する件

右協議の結果、各會は必要なる人員を派遣奉仕することとし、救護所の設備一切及救護器具は市に於て準備し、其の他の藥品は醫師に於て携行することに決定せり。

第三節　清潔法の施行

清潔法は從來春秋二回若は春期一回實施し來りたるも、本年度は大演習擧行に關聯し、四月乃至五月に一回、七月中及九月中に各一回計三回施行し、極力清潔維持に力を注ぎ、傳染病の根本的豫防撲滅を期され度旨、三月十五日衛第三百八十一號を以て本縣警察部長より通牒あり。依て本市に於ては右通牒に基き本年度は特に三回施行のことに決定し、一般市民に對しては可及的檢査當日に於て施行し、不在或は掃除不十分等の爲再施行を命ぜらるることなき樣豫め注意を喚起したるが、其の實施の概況は左記の如し。

第一回

第一回は四月十八日より五月三日に亙り、左の方法に依り特に嚴密に施行せり。之が告示竝各區長各衛生組合長宛通牒及施行成績等別記の如し。

施行方法

一、家屋は戸障子を開放し光線の射入、通風、換氣を良好ならしむること
二、寢具其の他の衣類は適當に乾燥し疊、敷物の類は表裏各二時間以上日光に曝し清掃すること
三、炊事場、井戸流しの清潔に努め殊に便所は汲取りを十分にし且つ便器を洗滌し其の他破損の箇所は修繕を施すこと
四、床下等常に濕潤する場所には生石灰末又は乾燥せる土砂の類を撒布することに努むること
五、自然に塵芥溜となる所等は斷然之を改め清潔上に注意を拂ふこと
六、溝渠、下水、溝等には十分注意をなし汚物等あるときは直ちに流通を計ること

前橋市告示第二九號

本年度春季清潔方法施行日割左記ノ通定メラレタリ

昭和九年四月四日

前橋市長　江原桂三郎

記

施行月日	施行區域
四月十八日	岩神町、柳町、向町
四月十九日	田中町、片貝町、中川町、新町
四月二十一日	清王寺町、國領町、才川町
四月二十二日	曲輪町、南曲輪町、石川町、堀川町
四月二十三日	六供、天川原、高田町、天川町
四月二十四日	紅雲町、前代田(35)(36)、市之坪、宗甫分
四月二十五日	榎町、横山町、桑町、紺屋町
四月二十六日	萱町、芳町、大塚町、百軒町
四月二十七日	北曲輪町、神明町、堅町
五月一日	萩町、琴平町、小柳町、細ケ澤町
五月二日	立川町、榮町、一毛町、諏訪町
五月三日	田町、連雀町、本町、相生町

掃第一九號

昭和九年四月四日

各區長 各衞生組合長殿

前橋市長

清潔方法施行通知ニ關スル件

本年度春季清潔方法施行日割ハ別紙ノ通確定ノ旨前橋警察署長ヨリ通知有之候ニ就テハ大正十二年八月群馬縣令第三十九號清潔方法及消毒方法ノ規定ニ基キ土地物件ノ乾燥ハ勿論井戸流下水溝竝ニ便所等ニシテ不潔又ハ破損ヲナシ苟モ衞生上有害ト認メラルル箇所ニ對シテハ此際修繕ヲ加ヘラレ萬遺算ナキ樣御配慮相煩度此段及御依頼候也

追テ本年度ハ陸軍特別大演習ノ爲メ特ニ三回實施スル旨縣ヨリ通達ニ接シ候ニ就テハ市内ノ清掃上最善ヲ期シ度候間此點御了承願度尚爲參考縣ヨリノ通牒寫添付候間御精讀相成度申添候

別紙（清潔方法施行日割、縣通牒寫）省略

昭和九年春季清潔方法施行成績表

町名＼區分	戸數 檢査濟	戸數 檢査未濟	戸數 事故延期	戸數 計	空家數	改修ニ付注意シタル戸數	畜舍ニ對シ清潔上ノ注意
岩神町	八九八		一二二	一、一三〇	八一	四八	三
國領町	七一七		一一〇	一、一三〇	八一	四八	三
才川町	九一七	一八	一一	一五	七四三	五三	二三	一
神明町	四一〇	一二	一一	一二	四三四	四六	七	一

向町	三八七	七九	四一	五〇七	三九	二	—
琴平町	二二四	四	六	二三四	一三	四	—
萩町	五一五	一四	三一	五六〇	二一	一七	二
諏訪町	三三二	一九	一四	三六五	二五	七	—
榮町	三五七	一五	二一	三九三	二九	二	一
一毛町	七八七	五七	四四	八八八	九九	二七	三
小柳町	二二七	二四	四	二五五	二四	一二	一
清王寺町	八九七	二六	一七	九四〇	六八	四五	二
竪町	一六〇	一	一	一六二	一三	三	—
萱町	一七八	二九	三	二一〇	一八	三〇	—
細ヶ澤町	一七八	一三	五	一九六	一四	五	—
榎町	二〇八	一六	三	二二七	一六	二〇	—
立川町	二八〇	一四	二	二九六	一九	二五	—
北曲輪町	三二六	八	七	三四一	二七	二八	—
曲輪町	四一三	三五	二〇	四六八	三五	二五	一

南曲輪町	三〇二	四六	一二	三六〇	二一	一三	—
石川町	一六二	二一	六	一八九	一七	二	—
堀川町	二九八	三六	一八	三五二	二七	四	—
連雀町	一三六	八	一	一四五	二三	二	—
田町	一八九	九	二	二〇〇	二四	二二	—
相生町	一二一	一四	四	一三九	一四	六	—
紅雲町	五六三	一五六	一八	七三七	八四	二五	二
前代田(35)	一六五	一三	六	一八四	五	二	—
前代田(36)	三七一	一	八〇	四五一	二四	一九	二
市之坪	四七	一〇	二	五九	二	二	一
宗甫分	七六	一	四二	一一八	二	五	二
六供	一六〇	三一	九	二〇〇	二	三	五
本町	一七二	七	一〇	一八九	二一	七	—
田中町	五六二	六三	二六	六五一	五一	三八	一
片貝町	二一七	二八	二〇	二六五	二三	四	—

天川原	二四五	一〇	九	二六四	一四	九	二
中川町	一七〇	二五	七	二〇二	一二	一〇	一
新町	二一一	三七	一四	二六三	二九	七	一
天川町	三一二	一五	一五	三四二	一四	七	二
高田町	二七〇	一三	一四	二九七	二六	五	一
百軒町	四五四	七四	二〇	五四八	三四	一二	一
大塚町	一〇八	一二	四	一二四	八	五	一
芳町	六一三	二九	一九	六六一	二一	四	一
紺屋町	二二二	一四	四	二四〇	一〇	四	一
桑町	八六	—	三	八九	三	二	一
横山町	一一三	一一	二	一二六	一〇	三	一
計	一四、七五七	一、一九九	七三四	一六、六九〇	一、二〇四	五六五	三六

備考　検査未済、事故延期ノ多キハ病者竝ニ天候ノ關係ニ因ル

参考

本年度清潔方法施行時總戸數	前年度清潔方法施行時總戸數	増	減
一七、八九四	一七、七四三	一五一	—

第二回

施行期日は梅雨期終了直後の豫定なりしも、天候不良の爲八月上旬實施せり、之が方法は全市を四區に分ち、各區の衛生組合員及各種團體員等の協力に俟ち、僅かに四日間の短期日を以て終了せしが、全市一齊の塵芥排泄と平常廢棄の塵芥とを合せ其の量の激增を豫想し、特に人夫を臨時增員し施行當日は勿論其の前後に於て極力搬出に努め、辛うじて圓滑に處理することを得たり。而して之が實施方法及其の成績は略〻第一回と同樣なりしも、一般清掃思想の普及徹底を期する爲、各區長各衛生組合長を經て市内毎戸に左記印刷物を配布せり。

臨時清潔方法施行竝ニ一般清掃ニ就テ　（原文全振假名）

今秋縣下ニ於テ陸軍特別大演習ガ擧行セラレ
畏クモ　聖駕ヲ迎ヘ奉リマスコトハ本市トシテ洵ニ光榮ノ極デアリマス尙貴イ方々ヤ軍隊モオ迎ヘシ且又他都市ヨリ多數ノ人士ガ參リマスノハ申ス迄モアリマセン就テハ吾々市民トシテ衛生ニ重キヲ置キ先ヅ市内ヲ清掃シ最モ潔カナ明ルイ市ト致シマスノガ義務カト存ジマス而シテ一面市内ノ清掃保持ノ良否ハ延テ其ノ市民衛生思想ノ如何ヲ現實ニ表ハスコトニナリマス此ノ意味ヨリシテ一人ノ不心得ハ全市民ノ體面ニ及ボシ甚ダ迷惑トナル譯デス故ニ此際協力一致シテ左記事項ヲ完全ニ行ヒ而シテ清掃ノ上ニ萬遺憾ノナイコトヲ切望致シマス

左　記

一、臨時清潔方法施行ニ就テ

臨時清潔施行ノ際ハ檢査當日（割當日當日）實施シ不在又ハ掃除不充分ノタメ再施行ヲ命セラルルコトナキ樣注意ヲ要シ特ニ寢具、衣類、疊等ハ日光ニ晒シ炊事場、井戸流シハ完全ニシ便器ハ洗淨セラレ度シ

二、塵芥處分竝ニ關係地區域等ノ掃除ニ就テ

イ、塵芥ハ塵芥箱以外ニハ必ス棄テサルコト若シモ棄ツレハ處分アリ特ニ注意セラレ度シ

ロ、屋敷廻リ路傍、空地等ノ掃除ヲ行ヒ且ツ下水溝ノ泥土ケヲナスコト

ハ、溝渠、下水、河川、空地等ノ塵芥、汚物等ヲ投棄スル惡弊ハ此際斷然改メラレ度シ

ニ、道路ノ上ハ相互ノ公德心ヨリ其ノ隣接家屋間ニ於テ掃除スルコトニ努メラレタシ

三、便所ノ清潔保持ニ就テ

便所ハ不潔勝トナル場所故時々消毒藥等ヲ撒布シ不體裁ナル箇所ハ改修ヲナシ特ニ汲取リ人ト協議シ汲取リヲ充分ニナシ常ニ惡臭ノ發散防止ニ努メ清潔ヲ保タシメラレ度シ

四、塵芥箱完備ニ就テ

毎戸ニ備付ヲ要スル塵芥箱カ不完全ナルトキハ日光ノ直射ヲ受ケ腐敗ヲ早カラシメ爲メニ惡臭ヲ發シ且ツ種々ナル病原菌ヲ生セシムルニヨリ是等ノモノハ直チニ改修ヲ加ヘラレ度ク尙未タ備付ヲナササルモノハ此際至急ニ設備セラレ度シ

昭和九年七月臨時清潔方法施行日割　（第二回）

施行月日	施行區域
七月十八日	曲輪町、北曲輪町、南曲輪町、石川町、堀川町、田町、紅雲町、前代田35 36、市之坪、宗甫分、六供、天川原、天川町
七月二十一日	岩神町、國領町、才川町、向町、琴平町、萩町、神明町、竪町
七月二十四日	諏訪町、榮町、一毛町、小柳町、清王寺町、萱町、細ヶ澤町、榎町、立川町
七月二十七日	本町、田中町、片貝町、連雀町、中川町、新町、高田町、百軒町、大塚町、芳町、紺屋町、桑町、横山町、相生町

（備考　實際ノ施行月日ハ八月上旬ニ變更）

昭和九年七月　　日

前橋市役所
前橋警察署

第三回

期日は九月中の豫定なりしも、天候と時期との關係上主として十月上旬に實施せり。前回同樣全市を四區域に分ち、各方面の協力に依り四日間を以て終了したるが、施行方法竝其の成績及臨時人夫の增員等大體第二回に於けると同じ。尙、前記清潔方法施行の外市內の清潔を保持する爲、市民竝各種團體と協力提携して實施せし事項の大要左記の如し。

一、御道筋の清掃に關する件

御道筋の清掃に就ては特に注意を拂ひ、先づ道路に面して設備しある塵芥箱にして外觀を損するものは適當なる位置に移し、塵芥は時期を論ぜず前日一齊に蒐集搬出せり。尙、群衆用としては特に適所に假移動洗面所を設備したり。

二、道路上の掃除及撒水に關する件

道路上は隣接家屋間相互の德義心により其の關係箇所を清掃して適宜撒水を行ひ、民家に接せざる箇所は各區の團體

等に於て豫め分擔を定めて之を施行せり。

三、特種清掃に關する件

八月中旬及十月下旬の兩回全市民の協力に依り、各區毎に左記方法に依り主として屋外の大掃除を實施せり。

1. 河川、溝渠、惡水路等に散在せる塵芥、瓦礫、汚物等流水を妨ぐべき物件の除去
2. 屋敷廻り及排水溝の泥上げ竝除草
3. 路傍、空地等に散在せる雜芥の掃除及除草

四、一般塵芥處理に關する件

塵芥の蒐集運搬等に就ては、豫め市民に對し左記事項を確守する樣注意を喚起し、七月中旬より十一月中旬迄の間、臨時人夫を增員して採取回數の增加を計り、以て之が處理に支障なきことを得たり。

1. 市民は如何なる場合と雖、河川、溝渠、下水溝、空地等に塵芥又は汚物を投棄するが如き弊風は、公德心に訴へて之を改め、必ず一定の容器に收め蒐集を容易ならしむること
2. 各戸備付の塵芥箱中往々にして不完全なるものあり、不體裁なるのみならず、日光の直射に依り腐敗を早からしめ、爲に惡臭を發散し各種の病原菌を生ぜしむる虞あり、依て必ず改修せざる可らず。又之が備付を怠るものは速に設備することを要す。若し再三注意を與ふるも肯せざるときは制裁を加ふるに至るべし。

五、腐敗物處理に關する件

魚腸其の他各種の腐敗物は左記に依りて處理し、猥に投棄し又は蓋なき箱等に投込み置かざる樣注意せり。

1. 旅館、料理店、魚商、飲食店等の如き營業者にして、魚腸其の他腐敗し易きものを生ずる向は、惡臭を防止すべき完全なる蓋を有する樽又は之に類する容器に收め、屎尿と同樣に處分すること。
2. 營業者にあらざる民家にして、少量のものは便壺に入れ、防臭劑又は生石灰末等を撒布すること。

六、便所清掃竝屎尿處分に關する件

便所は常に汲取を十分に行ひ、屎尿は便壺外に溢出せざる樣努め、破損箇所は速に改修を加へ且つ時々防臭劑を撒布し、特に十一月九日より同月十八日迄は汲取を行はざるも差支へなき樣、豫め汲取人と協議處理すべき旨を一般市民に周知せしめ、特に左記に對しては一層の注意を喚起せり。

1. 旅館、料理店、飲食店等にて客用に供するもの
2. 諸興行場、遊技場、活動寫眞館及公衆用に供するもの
3. 街路に面せる私有地內設置の便所

尙、市直轄に係る學校・市營住宅・公設便所等の糞尿汲取直接責任者に對しては、左記通牒を發して之が萬全を期したり。

掃第六二號

昭和九年十月二十七日

糞尿汲取直接責任者宛

前橋市長

糞尿汲取方ニ關スル件通知

今回特別大演習擧行ニ際シ市內一般清掃ニ付テハ周到ナル注意ヲ拂ハレ居ルコトト存シ候モ特ニ此際便所ノ清潔保持上各其ノ責任箇所ノ糞尿汲取リ回數ヲ增シ萬一ニモ汚水カ便壺外ニ溢出スルカ如キコトナキ樣十分御留意相成度此段及通

知候也

追テ十一月九日ヨリ十八日迄ハ午後五時以後午前六時迄ノ間ニ於テ汲取リ搬出スル樣申添候

第四節　腸チブス豫防注射

「腸チブス」「パラチブス」の豫防注射に關しては之が完璧を期し、前橋市醫師會・各看護婦會・各區及各衞生組合役員・各學校職員・各工場主等の甚大なる援助に俟ち、學校、一般、工場に區分して徹底的に實施せり。之が方法は、小學校及中等學校の兒童・生徒は各學校醫其の學校に於て施行し、一般市民は各區毎に集合せしめ前橋市醫師會員之を擔任し、工場從業員に對しては其の工場に市醫及市立前橋病院長を派遣して施行したり。斯くて六月二十三日を以て市内を一巡し大部分の終了を告げたるも、施行當時都合に依り未施行の者に對しては、七月二日より七日迄の間市内十二箇所に於て之を施行し、尙且つ病氣其の他の事由により未施行の者に對しては、内服「ワクチン」の服用を勸誘し、實費徵收の上服藥せしめたるが、其の人員三千六百三十八人を算せり。

先之、各家庭に對しては左記「腸チブス豫防注射施行ニ就テ」と題する印刷物及豫防注射券を配布し、右豫防注射券には各家庭に於て家族全部の氏名、年齡等を記入當日持參せしめ、注射施行後市吏員之に認印して後日の參考に保管せしめたり。而して本注射に從事したる職員延人員（學校を除く）は醫師四百六人、看護婦九百六人、市吏員三百三十四人を要し、之が成績表及從事醫師の住所氏名等は別記の如し。

腸チブス豫防注射施行ニ就テ　（原文總振假名）

今秋陸軍特別大演習ヵ擧行サレ　畏クモ

聖駕ヲ迎ヘ奉リマスノハ本市トシテ實ニ千載一遇ノ光榮トスル處デアリマス、從テ凡ユル事項ニ就テ細心ノ注意ト懸命ノ努力トヲ拂ハネバナリマセンガ其ノ中デモ衞生ニ關スル事柄ハ最モ重要ナルモノデアリマス。就テハ我々市民ハ先ヅ第一ニ健康デ、市内ヲ清掃シ清淨ナ心持ノヨイ市トシテ　聖駕ヲ奉迎シ高貴ノ方々ヤ軍隊ヲオ迎ヘ致シ度イト思ヒマス傳染病患者ノ少ナイ事清潔ノ保持サレテ居ル事ハ、其市民ノ衞生思想ノ向上ヲ如實ニ表スモノデアリマスノデ、今カラ種々ノ衞生諸事項ヲ實施シ、赤誠ヲ披瀝シテ之ノ光榮アル秋ヲ迎ヘル事ハ、吾々市民ノ義務ト思ヒマス。本市ハ遺憾ナガラ各種ノ傳染病中特ニ腸チブス患者ガ多イノデスガ、此ノ度ハ一人ノ發生者モナイヤウ撲滅ヲ期シタイト思イマス。其ニハ清潔ニ注意スルコトハ固ヨリデスガ、豫防注射ヲシテ皆樣ノ身體ヲ免疫ニスル事ガ一番ヨイ方法デアリマスノデ數ヘ年五歲以上ノ方全部ニ施行スル事ニナリマシタ。一人ノ心得違ハ市民全體ノ迷惑、延テハ大演習ニ迄關係ヲ及ボシマスノデ、一致協力シテ本病ヲ撲滅シ、本市ノ面目、皆樣ノ健康ノ爲ニ注射サレンコトヲ切望致シマス。此ノ重要事項實施ノ爲ニ前橋醫師會員、看護婦會員諸氏ハ日常業務ヲ棄テテ無料デ獻身的援助ヲサレマス。

注射ノ注意

一、豫防注射ノ日割場所ハ近日區長ヨリ通知致シマス。

二、別紙注射券ニ家族全員（使用人モ含ム）ノ氏名ヲ記入持參シテ下サイ。

三、注射券ハ後日調査致シマスカラ紛失セヌ樣保存スルコト。

四、注射ハ二回シナケレハ效力カアリマセン、一回シテ多少ノ反應（發熱）又ハ局部ノ痛ミカアリマシテモ必ス二回シテ下サイ。

五、左記ノ者ハ注射ヲ見合セマス。

心臟病、腎臟病、脚氣、肺結核、有熱者（三十七度以上）、妊婦、胸腺淋巴體質

右ノ者ハ後日内服ワクチン（實費約十六七錢）ヲ服用スルコトニナリマスカラ區長ニ申込ミ下サイ。

六、注射後一晝夜間ハ激動飲酒及入浴ハ避ケテ下サイ。

七、注射當日ハ男女共兩腕ヲ出スニ便宜ノ服裝デ御出下サイ。

昭和九年四月

前橋市役所
前橋警察署

腸チブス
パラチブス 豫防注射券

前橋市　町　番地

氏名	歳	第一回注射月日	檢印	第二回注射月日	檢印
	歳	月　日		月　日	
	歳	月　日		月　日	
	歳	月　日		月　日	
	歳	月　日		月　日	
	歳	月　日		月　日	
	歳	月　日		月　日	
	歳	月　日		月　日	

後日調査ヲナスニ付本券紛失セザル樣保存セラレタシ

前橋市役所
前橋警察署

各町別腸チブス、パラチブス豫防注射成績表

町名	一般	工場	計	町名	一般	工場	計
曲輪町	七七八		七七八	榎町	五六七		五六七
南曲輪町 石川町	八六九		八六九	紺屋町	六一九		六一九
堀川町	七一九		七一九	桑町	三四二		三四二
田町	三五二	五一	四〇三	横山町	三七一		三七一
連雀町	三三七		三三七	立川町	七六五		七六五
本町	四七八		四七八	竪町	六二〇		六二〇
相生町	二九七		二九七	北曲輪町	六七五		六七五
田中町	一、一九五	四四	一、二三九	神明町	七八一	二一二	九九三
片貝町	四五二	一〇五	五五七	向町	八八〇	七六三	一、六四三
中川町	四四一		四四一	細ヶ澤町	五〇二	五九	五六一
新町	三九〇	一五二	五四二	小柳町	五三二	一八四	七一六
天川町	五八五	二二	六〇七	一毛町	一、三五三	一、一五七	二、五一〇
百軒町 大塚町	八九三	一一一	一、〇〇四	榮町	七五〇	四三〇	一、一八〇
芳町	八九〇	五九	九四九	諏訪町	七五六	五五	八一一
萱町	五二六	八二	六〇八	清王寺町	一、三五七	三九七	一、七五四

才川町	一、三七五	一、二二〇	二、五九五	六市之供坪	六〇四		六〇四	計	五三、九四六	七、三九八	六一、三四四
國領町	八五四	六八九	一、五三四	天川原	三〇四		三〇四	其他	一二、三六五		一二、三六五
萩町	六九三	一、〇二七	一、七二〇	高田町	四九五		四九五	中等學校	二、九八五		二、九八五
岩神町 柳町	二、〇一二	四八三	二、四九五	各小學校	九、〇六九		九、〇六九				
琴平町	五二四	九六	六三〇								
紅雲町	一、一四九		一、一四九								
前代田	一、二〇七		一、二〇七								
宗甫分	二四七		二四七								

備考

腸チブス豫防注射ニ關スル調

一、注射人員　六一、三四四人

一、服藥人員　三、六三八人

合計　六四、九八二人

全人口九萬四千二百七人ニ對スル百分比　六九・〇〇

一、全人口中注射ヲ施行セサリシ者　二一、九二〇人

內譯

疾病ノ爲　九、四二〇人

五歲以下ノ幼兒　一〇、〇〇〇人

姙產婦　二、五〇〇人

一、注射スヘキモノ七萬二千二百八十七人ニ對スル百分比　八九・〇〇

豫防注射奉仕出場醫師住所氏名（イロハ順）

國領町　池田眞喜治　堀川町　神田宗一

錦織醫院　今野董一　神明町　横地長三郎

曲輪町　六木久雄　北曲輪町　田中久

横山町　羽生田俊次　清王寺町　高柳郁三

曲輪町　橋爪與四郎　堀川町　田中敏男

田中町　錦織正雄　萱町　高平儀一

神明町　德江交次　田中町　田口節朗

萱町　豊田宗作　相生町　津久井省己

萱町　岡田濟美　北曲輪町　津久井惣治郎

堀川町　太田一學　萱町　長澤博

北曲輪町　太原均　小柳町　長崎正平

本町　大澤溯平　芳町　中島了介

萱町　大屋精一　田中町　中島周作

桑原病院　太田武兵衛　紺屋町　長井宏

國領町	長岡秀子	細ヶ澤町	小林武
竪町	上原八九十	才川町	小池元三郎
本町	生方鉚	諏訪町	赤城良作
榮町	野村孝太郎	細ヶ澤町	青木與雄
紅雲町	桑原政榮	同	青木シゲ
立川町	矢部莊造	堀川町	新井慶三郎
萱町	山下理作	横山町	櫻井定吉
一毛町	山下義夫	松山病院	佐野重雄
神明町	山田貫一	南曲輪町	坂本茂
北曲輪町	八木隆輔	關口外科醫院	佐藤利彌
中川町	松井好夫	神明町	北川光雄
北曲輪町	松山信六	神明町	由利澄子
紺屋町	眞中スズ	本町	柴田克己
厩橋病院	前田忠重	向町	平形善壽
細ヶ澤町	藤井安司	榎町	關口格知
小柳町	小松陸三郎	北曲輪町	關口林五郎

右の外、日本赤十字社群馬支部病院より、醫員延人員五十八人の奉仕出場ありたり。

第五節　赤痢・疫痢・痘瘡豫防

一、赤痢、疫痢豫防

赤痢、疫痢の豫防に關しては注射を施行せずして、專ら內服「ワクチン」の服用を奬勵したり。特に三歳以上七歳以下の幼兒に對しては、五月二日各區長各衛生組合長に依頼狀を發送し、其の實數を調査報告せしめ、最も流行期たる夏期に有效ならしむる目的を以て、六月二十三日を期し、全市一齊に左記の如く一萬百二十三人の幼兒に服用せしめたり。次で同月三十日には、前年中及本年五月末日迄に發生したる患家及其の附近住民、百二戸五百十七人に對し、豫防經口「ワクチン」を交付服藥せしめ、更に六月一日以降は患者發生の都度、患家及其の附近住民に服用せしめて之が豫防に努めたり。右使用の「ワクチン」は總て縣警察部衛生課より無料交付を受けたるものなり。

疫痢豫防ワクチン服用者調

町名	幼兒數	町名	幼兒數	町名	幼兒數	町名	幼兒數
曲輪町	二三九	南曲輪町 石川町	三三八	堀川町	一〇六	田町	九〇
連雀町	六八	本町	一〇五	相生町	六九	田中町	三三一
片貝町	一四一	中川町	一〇六	新町	一四〇	天川町	一七二
百軒町 大塚町	三七八	芳町	三四五	萱町	一〇三	榎町	一〇〇
紺屋町	九二	桑町	五八	横山町	五三	立川町	一二五
竪町	一〇二	北曲輪町	一六〇	神明町	二四〇	向町	三八〇

細ヶ澤町	九〇	小柳町	一五七	一毛町	五九〇	榮町	二四九
諏訪町	二〇五	清王寺町	六九九	才川町	七九〇	國領町	四九二
萩町	三六六	岩神町	七七九	琴平町	一六三	紅雲町	四五四
35前代田	一三五	36前代田	二五一	市之坪	三八	宗甫分	一三四
六供	一四二	天川原	一六五	高田町	一八三	合計	一〇、一二三

二、痘瘡豫防

痘瘡豫防の爲未種痘者の皆無を期し、本年定期種痘終了後、各區長各衛生組合長に未種痘者、特に鮮人の調査を依頼し、七月八日市役所樓上に於て三百五人に對し、臨時種痘を施行したり。次で同月十日各區長各衛生組合長に對し、滿洲方面よりの歸來者を調査せしむる等、特に痘瘡豫防に留意せり。

第六節　健康診斷及患者の早期發見

一、健康診斷

大演習並地方行幸に際し、廳中全員は此の光榮ある事務に直接從事する爲、其の健康狀況を知悉し且つ適宜の措置を講ぜしむる必要を認め、五月十日健康診斷を行ふと共に「腸チブス」及「パラチブス」の豫防注射を施行し、次で七月二日赤痢豫防「ワクチン」を服用せしめ、以て傳染病の豫防を期したるが、上水道水源地勤務者及其の家族に對しては、右上水道が御料用水たる關係上特に其の必要を痛感し、前記廳員に於けると同樣の豫防を講じたる外、更に八月十日再び健康診斷を施行し且つ糞便檢査を行ひたり。

斯くて大演習の期日切迫に伴ひ、大本營を中心として三町以内の住民に對しては、特に傳染病豫防の萬全を期する爲、縣に於て關係區長の援助を求め、左表の如く健康診斷及糞便檢査を施行せり。尚、獻上品天覽品の謹製者本市在住の百十八人に對しても、其の係員より依頼の都度市醫を派遣し、健康診斷及糞便檢査を實施せり。

健康診斷及糞便蒐集表

町名	戸數	健康診斷期日	糞便蒐集期日
曲輪町	四五〇	自十月二十三日至二十六日	自十月二十四日至二十八日
南曲輪町 石川町	五五〇	自十月二十七日至二十八日	自十月二十九日至三十一日
北曲輪町	三一六	自十月二十九日至三十日	自十一月二日至三日

二、患者の早期發見及其の處置

患者の早期發見は防疫上極めて切要の事項なるを以て、各區の衛生組合役員其の他各機關の活動を促し、警察官署と協力して目的達成に努めたるが、其の實施したる事項の大樣は左記の如し。

一、五月一日より各區衛生組合役員をして、一週一回區内の檢病調査を實施し、患者の早期發見に努めたるが、本年は氣候不順の關係上、相當傳染病流行の徵候ありしを以て、特に各組合役員を督勵し、疑しき者を發見したるときは即時内報せしめ、市より醫師を派遣して診斷せしめたり。

一、傳染病患者の續發を防止する爲、六月一日より患者發生の都度、市より醫師看護婦を派遣し、患家の家族並附近住民の健康診斷及糞便檢査を施行し、以て患者の早期發見に努め、又患家及病原體保有者ありたる家並其の附近の井戸

に對しては「クロール石灰」消毒を反復施行したり。

一、六月一日以降「腸チブス」「パラチブス」赤痢に罹り全治したる者、病原體保有者にして其の菌消失したる者に對しては、全治若は消失したる時より一箇月間、上圃の都度便池に生石灰末を撒布し且手洗に消毒藥を使用せしむることとし、之が勵行實査の爲、市吏員をして隨時患家を巡察せしめたり。

一、防疫上保菌者檢索の爲、縣に於ては前二箇年患者發生の患家竝旅館、料理店、飲食店、飲食物取扱業者、接客業者及其の家族、從業員に對し、六月十日より糞便檢査を施行したり。依て本市は各區長各衛生組合役員をして之が材料蒐集を援助せしめたり。

一、傳染病患者の發生したる場合は、夜間と雖も直に前橋病院に收容し、又從來「ヂフテリヤ」患者は自宅治療を許可したるも、本年は之を收容し、消毒を嚴重に施行して萬全を期したり。

第七節　水質檢査の實施

保健衛生に重大關係を有する飲料水の改善に就ては、曩に上水道を完備して之が萬全を期したるも、尙、井水を使用するもの相當多數を算する實狀に鑑み、大演習擧行に際し特に水質檢査實施の必要を痛感し、群馬縣藥劑師會、各區衛生組合役員等の援助に依り、縣細菌檢査所に於て全市六千四百四十五箇の井水檢査を施行したるが、其の經過結果の大要左記の如し。

一、井戸原簿の作成

三月二十日各區長各衛生組合長に對し、部内に於ける井戸數及其の所有者住所氏名の調査方を依頼し、四月一日全市の調査を完了したるを以て、市に於て之が原簿を作成し各區長宛發送せり。

一、材料の蒐集及檢査

四月二十一日材料送付用新蓋付空瓶六千四百四十五箇を市内當業者より損料にて借入し各區長に發送せり。各區長は定められたる日割に依り、井戸原簿に基き役員立會の上各井水を採取し、名票紙を附著して檢査所に送付したり。但し「ポンプ」井戸に在りては、管内の井水全部を排出したる後採取したるものにして、五月二日より縣藥劑師會に於て之が檢査を開始し、市藥劑師會員十人、市吏員一人、助手三人は毎日檢査所に出張し、同月二十六日全部の檢査を終了せり。之が費用として市は一箇につき金五錢を負擔せり。

右檢査の結果飲料不適と決定したる千二百三十四箇の井戸使用者に對しては、左記通牒を發して適宜の措置を講ぜしめ且つ別記警察部長の示達に基き、該井戸入口の見易き箇所に制規の標幟を掲示せしめ、軍隊宿泊及通過に際し飲料として適不適の甄別に資したり。尙、檢査成績表、檢査に從事したる藥劑師の住所氏名等別記の如し。

演發第一四一號

昭和九年七月二日

飲料不適井戸使用者　宛

前橋市長

貴下使用ニ係ル井戸ニ對シ豫テ縣ニ於テ水質檢査ノ結果飲料不適ト決定セラレ候處本年ハ大演習ノ關係モ有之且ツ保健及防疫上ヨリ飲料水ニ使用スルハ不可ト被認候ニ付夫々適當ニ措置相成度此段及通知候也

演衛第四二號

昭和九年六月二十九日

各市町村長殿

群馬縣警察部長

飲料水ノ改善竝ニ良否標識ニ關スル件

飲料水水質檢査ニ付テハ各位ノ盡力ニ依リ著々進捗中ニ有之候處陸軍特別大演習衛生事務處理規程第五十條ノ水質良否ノ標識ハ別記樣式ノ木札ヲ井戸ノ見易箇所ニ掲示（釘附）セラレ度尙檢査ノ結果不適ノモノニ對シテハ所轄警察署ト協力左記各項ニ依リ措置セラレ候樣致度

記

一、飲食店、料理店、宿屋其ノ他飲食物製造販賣業者ノ營業上使用スルモノニアリテハ勿論其ノ他ニ付テモ成ルヘク水道水ヲ使用セシムル樣奬勵スルコト但シ濾過ノ上使用差支ナキモノハ（「濾過適」ナル成績ノモノ）完全ナル濾過ヲ實行セシムルコト

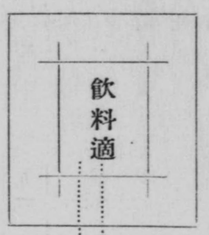
二、井戸側等破損ノ爲汚水雨水ノ流入スルモノハ修理セシムルコト

三、曾テ傳染病發生シタル家ノ井戸又ハ其ノ附近ノ井戸ニシテ汚染ノ疑ヒアルモノハ「クロール」消毒ヲ行ハシムルコト

四、改善竝標識掲出ハ本年水質檢査施行ノ分ノミニ限ラス最近檢査施行セル井水ニ付テモ實施セラレタキコト

（別記樣式）

方四寸　厚四分



水質檢査成績表

町名	檢査數	適數	不適數	町名	檢査數	適數	不適數
曲輪町	四二	一二	三〇	中川町	九八	九五	三
南曲輪町 石川町	一四五	六五	七九	新町	一四七	一四一	六
堀川町	六六	一二	五四	細ヶ澤町	一〇二	一〇一	一
田町	五四	一	五三	小柳町	九八	八八	一〇
連雀町	五二	二七	二五	一毛町	二八七	二三六	五一
本町	八二	三七	四五	榮町	一五八	一四五	一三
相生町	四一	一七	二四	諏訪町	一三五	一二四	一一
田中町	一九五	四六	一四九	清王寺町	四四九	四二一	二八
片貝町	七七	四三	三四	才川町	三七五	三六四	一一

國領町	二六九	二六五	四	竪町	七九	六七	一二	萩原町	六、四四五	五、二一一	一、二三四
萩町	二八四	二七〇	一四	北曲輪町	六四	四八	一六	高田町	一九五	九三	一〇二
岩神町	四八五	四七〇	一五	神明町	一三二	一二九	三	天川原	一二一	七四	四七
琴平町	八四	七七	七	向町	一五九	一五五	四	六供	一三九	五七	八二
天川町	一七四	一七三	一	紅雲町	二八二	一九七	八五	宗甫分	八四	五五	二九
百軒町 大塚町	三八九	三六三	二六	35前代田	四九	九	四〇	市之坪	三四	二三	一一
芳町	一九六	一七七	一九	36前代田	一四〇	八〇	六〇				
萱町	九七	九三	四								
榎町	一一二	一〇八	四								
紺屋町	八八	七九	九								
桑町	三七	三六	一								
横山町	五八	四九	九								
立川町	九一	八八	三								

水質檢査ニ從事シタル藥劑師名

桑町	鈴木愛三	琴平町	中島秀男		
小柳町	三川常吉	立川町	神岡清		
清王寺町	飯野昇	中川町	綿貫健太郎		

横山町	矢端保太郎	岩神町	鈴木福三郎		
曲輪町	井上博	立川町	小谷大樹		
日赤支部病院	新井政雄	諏訪町	成田鷲雄		
諏訪町	沼壽長	日赤支部病院	川島祐一		
連雀町	戸塚輝雄	日赤支部病院	安達鋪吉		
本町	川合嘉吉	横山町	井出俊夫		
前代田	加藤恒雄	横山町	井出武夫		
竪町	倉島万吉	曲輪町	品川忠治		
細ヶ澤町	奈良貞吉				

第八節　蠅捕週間の實施

傳染病豫防の爲、別節所掲の如く石油乳劑の撒布に依り、蠅の發生防止を講じたるも、更に一層之が徹底を期する爲、七月五日より十一日迄蠅捕週間を實施し、市民をして特に蠅の撲滅に努めしめたり。其の關係文書左の如し。

陸軍特別大演習衛生救護係長

昭和九年七月二日

前橋市長殿

蠅捕週間實施ニ關スル件

今般衛生協會ト協同ニテ蠅捕週間ヲ實施スルコトトナリ別紙ノ通所轄警察署長ニ指示相成候條協力之カ實績ヲ擧ケラレ候樣致度此段及依賴候也

警備及衛生

（別紙）

演衛第四五號

昭和九年七月二日

各警察署長殿

群馬縣警察部長

蠅捕週間實施ニ關スル件

追々暑氣ニ向ヒ傳染病發生ノ期トナリタルヲ以テ各種豫防措置ヲ講シ之カ發生ヲ未然ニ防止スヘク其ノ一助トシテ左記ニ依リ蠅捕週間ヲ實施致候條市町村及衛生組合等ヲ督勵シ石油乳劑ノ撒布蠅捕器ノ備付其ノ他ノ方法ニ依リ蠅驅除ニ努メ所期ノ目的達成ニ努力セラルヘシ尚週間後ニ於テモ繼續之カ實施ニ留意セラルヘシ

追テ右期間中多量捕獲者ニハ群馬縣衛生協會ヨリ賞金交付セラレ候ニ付別途送付スヘキヲ以テ該當者嚴選ノ上賞金交付ノ上結果別表ニ依リ報告セラルヘシ

記

一、期　間

七月五日ヨリ十一日迄七日間

二、方　法

1. 週間中ハ極力蠅ノ捕獲ヲ爲サシメ警察署巡査派出所巡査駐在所ニ提出セシメ最多ノ者ヨリ一等金五圓、二等金三圓、三等金二圓ヲ各署毎ニ選定賞金ヲ交付スルモノトス

2. 捕獲シタル蠅ハ七月十二日午前中提出セシムルコト

3. 提出シタル蠅ハ持參人ノ面前ニ於テ計量シ其ノ數量及住所職業氏名ヲ同日中ニ所轄署長ニ進達スルコト

但シキログラム單位トスルコト

4. 捕獲成績ハ各署毎ニ第三位迄ハ順位數量、捕獲方法住所職業氏名ヲ其ノ他ハ合計數量及捕獲人員ヲ記載シ七月十五日迄ニ報告スルコト

5. 成績ノ審査ハ個人ノ捕獲シタルモノニ限リ多數共同シテ捕獲シ代表者名ヲ以テ提出シタルカ如キハ賞金交付ノ爲メニスル等級ニ入レサルコト

6. 縣下ヲ通シテ最多數ヲ捕獲シタル者三名ニ特ニ左ノ賞金ヲ交付ス

特等　金拾圓　　二等　金五圓　　三等　金貳圓

7. 同數量ノ捕獲者ハ抽籤ニ依リ決ス

8. 週間實施宣傳印刷物ハ別途送付スヘキニ付適宜ノ方法ニ依リ至急之カ配布ヲ爲シ宣傳ニ努ムルコト

昭和九年第一回蠅捕週間成績表

捕獲數量	順位	住所	職業	氏名

署名

年　月　日報

演發第一三九號

昭和九年七月三日

各區長　各衛生組合長殿

警備及衛生

前橋市長

蠅捕週間實施ニ關スル件

傳染病媒介ノ最モ恐ルヘキ蠅ノ撲滅ヲ期シ來ル七月五日ヨリ十一日迄七日間縣下一齊ニ蠅捕週間實施ノ趣其ノ筋ヨリ申越有之候ニ付別紙印刷物每戸へ配布之カ目的達成ヲ期セラレ度此段及依頼候

（別紙）

七月五日より七月十一日まで　蠅捕週間を實施す

病毒を媒介する蠅を驅除せよ

今秋の大演習に備へる爲傳染病の病毒を媒介する恐るべき蠅を退治する目的で左の通り各警察署每に賞金を附して蠅捕週間を實施します成るべく澤山捕獲して十二日の午前中に警察署、派出所、駐在所へ差出して下さい各警察署每に左の賞金を交付します

一等　五圓　　二等　三圓　　三等　二圓

更に特賞として全縣下の最多數捕獲者三名には二重に特賞を交付します

特一等　十圓　　特二等　五圓　　特三等　三圓

昭和九年七月

群馬縣衛生課

右捕獲週間に於ける前橋警察署管内の成績は左の如し。

蠅捕獲全數量　八五五瓦

受賞者中本市在住者

四等　本町　落合善吉　　捕獲量　三一三瓦

第九節　石油乳劑の撒布

傳染病媒介の最も恐るべき蠅の撲滅は、防疫上の要諦にして、本市は從來每年一回夏季に於て「蠅撲滅デー」を施行し、各戸の便所、下水、塵芥箱等に石油乳劑を撒布し、引續き每戸に於て自發的に之が實施を督勵し來りたるが、本年は特に回數を增加し、五月より十月迄每月三日・十三日・二十三日の三回通計十八回と定め、四月二十一日各區長及衛生組合長宛之が實施に關する依頼狀を發送せり。各區に於ては、每回町内役員・在郷軍人會員・青年會員等の援助と、警察官及本市掃除巡視の指導監督とに依り、全市一齊に之を施行したるが、其の所要乳劑は市に於て斡旋し、前橋市實業藥劑師會製造品を購入配布し、之が代金及撒布に要したる費用は各區の負擔と定め、市よりは一回一戸につき金壹錢の割合を以て補助金を交付したり。之が撒布狀況及補助金額左表の如し。

各區別石油乳劑撒布狀況及補助金調

町名	五月	六月	七月	八月	九月	十月	計	戸數	延戸數	補助金
曲輪町	二	三	二	三	二	三	一五	四五〇	六、七五〇	六七、五〇
南曲輪町	三	三	一	三	三	三	一六	五五〇	八、八〇〇	八八、〇〇
石川町										
堀川町	二	三	一	三	三	三	一五	三五一	五、二六五	五二、六五
田町	三	三	三	三	三	三	一八	二〇八	三、七四四	三七、四四
連雀町	一	三	三	三	三	三	一六	一五三	二、四四八	二四、四八

本町	三	三	二	三	三	三	一七	一八九	三、二一三	三二、一三
相生町	三	三	三	三	三	三	一八	一四一	二、五三八	二五、三八
田中町	三	三	三	三	三	三	一八	六五七	一一、八二六	一一八、二六
片貝町	三	三	三	三	三	三	一八	二五七	四、六二六	四六、二六
中川町	三	三	三	三	三	三	一八	一九九	三、五八二	三五、八二
新町	三	三	三	三	三	三	一八	二六七	四、八〇六	四八、〇六
天川町	三	三	三	三	三	三	一八	三三七	六、〇六六	六〇、六六
百軒町 大塚町	三	三	二	三	三	三	一七	六五八	一一、一八六	一一一、八六
芳町	三	三	三	三	三	三	一八	六五六	一一、八〇八	一一八、〇八
萱町	三	三	三	三	三	三	一八	一九六	三、五二八	三五、二八
榎町	三	二	三	三	三	三	一七	二一七	三、六八九	三六、八九
紺屋町	三	三	三	三	三	三	一八	二三七	四、二六六	四二、六六
桑町	三	三	二	三	三	三	一七	八七	一、四七九	一四、七九
横山町	三	三	二	三	三	三	一七	一一八	二、〇〇六	二〇、〇六
立川町	三	三	一	三	三	三	一六	三〇三	四、八四八	四八、四八
竪町	三	三	三	三	三	三	一八	一六〇	二、八八〇	二八、八〇
北曲輪町	三	三	二	三	三	三	一七	三一六	五、三七二	五三、七二

神明町	二	三	二	三	三	三	一六	四四七	七、一五二	七一、五二
向町	三	三	三	三	三	三	一八	五六七	一〇、二〇六	一〇二、〇六
細ヶ澤町	三	三	三	三	三	三	一八	一九二	三、四五六	三四、五六
小柳町	三	三	一	三	三	三	一六	二六一	四、一七六	四一、七六
一毛町	二	二	二	三	三	三	一五	八七六	一三、一四〇	一三一、四〇
榮町	三	三	二	三	三	三	一七	四二一	七、一五七	七一、五七
諏訪町	三	三	三	三	三	三	一八	三七二	六、六九六	六六、九六
清王寺町	三	三	三	三	三	三	一八	九四七	一七、〇四六	一七〇、四六
才川町	二	三	三	三	三	三	一七	一、〇一九	一七、三二三	一七三、二三
國領町	二	三	三	三	三	三	一七	七一四	一二、一三八	一二一、三八
萩町	三	三	三	三	三	三	一八	五四七	九、八四六	九八、四六
岩神町	三	三	三	三	三	三	一八	一、一六二	二〇、九一六	二〇九、一六
琴平町	三	三	三	三	三	三	一八	二三九	四、三〇二	四三、〇二
紅雲町	二	一	二	三	三	三	一四	七三二	一〇、二四八	一〇二、四八
35前代田	｜	一	二	三	三	三	一二	一五八	一、八九六	一八、九六
36前代田	｜	三	三	三	三	三	一五	四五一	六、七六五	六七、六五
市之坪	二	三	三	三	三	三	一七	六〇	一、〇二〇	一〇、二〇

宗甫分	二	二	二	三	三	三	一五	一一八	一、七七〇	一七、七〇
六供	三	三	三	三	三	三	一八	一九七	三、五四六	三五、四六
天川原	三	三	三	三	三	三	一八	二六二	四、七一六	四七、一六
高田町	三	三	三	三	三	三	一八	三〇四	五、四七二	五四、七二
計	一一二	一二二	一一〇	一二八	一二八	一二九	七二九	一六、七五三	二八三、七一三	二八三七、一三

第十節　患家及炭疽の標示

一、患家の標示

軍隊宿營及通過に際し傳染病の豫防に資する爲、六月一日以降發生したる患家又は現に病原體保有者ありたる家に對しては、陸軍特別大演習衛生事務處理規程及別記警察部長名通牒に基き、各區長各衛生組合長宛左記通牒を發し、十月二十五日より十一月十八日迄衆目に觸るる場所に之が標識を貼付し、又、市の主要道路入口には患家の位置を示したる圖面及患家一覽表を掲示せり。

演發第三九九號

昭和九年十月二十四日

各區長各衛生組合長宛

患家標識ニ關スル件

前橋市長

陸軍特別大演習ノ爲本年六月以降傳染病患者ノ發生シタル患家ニ對シ標示ノ必要有之候ニ付別紙標識　枚送付候間左記ニ依リ貼付相成度

追テ標示ノ件ハ特ニ陸軍ヨリ依頼有之候モノニツキ爲念附記致候

記

一、期間十一月五日ヨリ十一月十八日迄

二、六月一日以降八月三十一日迄ニ發生シタルモノハ白色

三、九月一日以降發生シタルモノハ赤色

尚、六月一日以降傳染病ノ發生シタル患家ニ對シテハ演習關係ノ宿舍ニ充當セサル樣御配慮相成度

別紙標識（省略）

演衛第一〇一號ノ二

昭和九年十月十一日

各市町村長殿（除、利根郡、吾妻郡）

警察部長

演習地ニ於ケル傳染病患者及井戸標示ニ關スル件

本月三日附演衛第一〇一號ヲ以テ通牒致置候陸軍特別大演習衛生事務處理規程ニ依ル標記ノ標示ハ今般陸軍ヨリ特ニ依頼有之候條左記ノ通標示期間、形式及標示場所變更標示相成候樣致度

記

一、標示期間　十月二十日ヨリ十一月十八日迄

一、規程第四十八條ニ依ル傳染病患者又ハ病原體保有者アリタル家ノ標示

六月一日以降八月三十一日迄ハ　白紙半紙半截

九月一日以降發生ノ分ハ　赤紙半紙半截

病名	患者數
發病月日	

一、規程第五十八條ニ依ル傳染病患者又ハ病原體保有者アリタル市町村村落大字又ハ字ノ入口及出口ニ表示ノコト

一、飲用水ニシテ飲用不適ノモノト雖馬ノ飲用ニ差支ナキモノハ馬適ナル標示ヲ便宜ノ方法ニ依リ爲スコト

一、古井戸溜池等ニシテ危險ト思ハルルモノハ適宜ノ方法ニ依リ之ヲ標示スルコト

二、炭疽の標示

大演習期間中は軍馬の出入多數なるべきを豫想し、炭疽豫防の爲、昭和三年以降該病の發生したる箇所には標示を要する旨、別記の如く警察部長より通牒ありたるを以て、管内該當者六人に對し左記文書を發して標識を樹立し、附近に於ける馬匹の繫留、採草、川入等を避けしめたり。

演發第三九八號

昭和九年十月二十四日

炭疽發生畜類所有者宛

前橋市長

炭疽發生地標示ニ關スル件

陸軍特別大演習ニ際シ多數軍馬ノ出入アルモノト被認候ニ就テハ發生地及其ノ近傍ニ於テ給水、採草、川入、又ハ繫留等ヲ避ケシムル爲其ノ筋ヨリノ通牒ニ依リ來ル十一月五日ヨリ貴宅地内ニ標識ヲ樹立可致候條御承知置相成度

追テ標識ハ不日送付可致候

演衛第一〇〇號ノ三

昭和九年十月十一日

前橋市長殿

群馬縣警察部長

炭疽發生地標示ニ關スル件

昭和三年以降其管内ニ於テ發生セル標記ノ件別紙調査表ノ通ニ有之候處來月中旬擧行ノ陸軍特別大演習ノ實施ニ際シテハ相當軍馬ノ出入アルモノト被認候ニ付テハ發生地及其ノ近傍ニ於テ給水、採草、川入レ又ハ馬匹ノ繫留等ヲ避ケシムルタメ來月五日迄ニ左記標札ヲ其ノ宅地出入口ニ立テ以テ之カ豫防上遺憾ナキヲ期セラルル樣致度此段及通牒候也

記

發生場所

病名
畜類
種類
性
毛色
年齢
決定月日
所有者
保管者 住所氏名

2.7尺
1.8尺

第十一節　狂犬病の豫防

狂犬病豫防に關しては、八月一日より五日間前橋警察署に於ける豫防注射施行に際し、各區長をして畜犬所有者に周知せしめ、其の目的達成に資したりしが、更に十月十五日前橋警察署長より左記通牒に接したるを以て、同月十八日各區長各衛生組合長宛別記通知を發送し、警察署及各區役員と協力して狂犬病の豫防と野犬の掃蕩とに努めたり。

第二七四二號

昭和九年十月十五日

前橋市長殿

前橋警察署長

狂犬病豫防ニ關スル件

標記ノ件ニ關シテハ今夏五日間之ヲ實施シ各位ノ御盡力ニヨリ其ノ成績頗ル良好ナリシモ本年ハ特別大演習ニ際シ、畏クモ聖輦ヲ奉迎スルノ秋ナルヲ以テ本病豫防上ノ責任重且大ナルモノ有之更ニ左記計畫ニヨリ野犬ノ絶無ヲ計リ所期ノ目的ヲ達成致度ヲ以テ衛生組合、獵友會、其ノ他諸團體ヲ御督勵ノ上之ヲ施行上一段ノ努力ヲ致サレ度此段及通牒候也

記

野犬掃蕩實施計畫（省略）

演發第三六六號

昭和九年十月十八日

各區長各衛生組合長殿

前橋市長

狂犬病豫防ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ之カ目的達成ヲ期シ左記ニ依リ野犬掃蕩及豫防注射實施ノ趣ニ付區內一般ニ周知方御取計相成度

記

一、畜犬繫留ノ强制

自十月十九日　至十月二十三日ノ五日間

二、無屆畜犬ノ屆出

自十月十九日　至十月二十日ノ二日間　無屆畜犬ノ屆出ヲ督勵相成度

三、野犬掃蕩

自十月二十一日　至十月二十三日ノ三日間　無屆畜犬ハ警察署ニ於テ買上ヲ爲スニ依リ提供セシメラレ度

四、豫防注射

自十月二十日正午　至午後四時　畜犬ニシテ豫防注射ヲ施行セサルモノハ漏レナク實施セシメラレ度

畜犬繫留に關しては、左記群馬縣令第三十七號に基き、十一月七日各區長宛別記通知を發して、各畜犬所有者又は保管者に周知せしめ、其の趣旨の徹底に努めたり。

群馬縣令第三十七號（衞）

狂犬病豫防ノ爲家畜傳染病豫防法第十六條第一項ニ依リ左記ノ通畜犬ノ繫留ヲ命ス

但シ口網ヲ附シ牽行スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

昭和九年十一月二日

群馬縣知事　金澤正雄

一　昭和九年自十一月十日　至同月十八日九日間

一　群馬縣一圓

演發第五〇二號

昭和九年十一月六日

各區長殿

前橋市長

畜犬繫留ニ關スル件

狂犬病豫防ノ爲左記期間畜犬ノ繫留ヲ命セラレ候條貴區內畜主ニ周知方御取計相成度

但シ口網ヲ附シ牽行スルモノハ差支無之

記

繫留期間　自十一月十日　至同月十八日ノ九日間

第十二節　衞生警備隊

大本營竝行在所所在地として特に完全なる衞生狀態の保持を期する爲、本市は左記規程に依り市長を隊長に、助役を副隊長に、各衞生組合長を分隊長とし、各衞生組合役員及其の他の團體員七百七十六人を隊員とする、前橋市衞生警備隊を組織し、十月二十五日より十一月十八日に至る二十五日間、隊員は每日擔任各戸を訪問して、市民の健康狀態を視察し、罹病者は速に醫師の診斷を受けしめ、傳染病患者の早期發見竝健康增進に努め、併せて市內の淸潔保持に任じたるが、隊員の異常なる精勵に依り、所期の目的を達成することを得たり。先之、此の任務の重大に鑑み調査第一日たる十月二十五

日、全隊員は、臨江閣別館に參集して「任務無事遂行祈願祭」を擧行し、式後警備隊長竝警察部長よりの隊員に對する訓示に次ぎ、縣警察部長名の囑託狀を交付せられたり。其の隊員氏名別記の如し。

前橋市衞生警備隊規程

第一條　本隊ハ前橋市衞生警備隊ト稱ス

第二條　本隊ハ陸軍特別大演習竝ニ地方行幸ニ際シ完全ナル衞生狀態ヲ持續セシメ兼テ衞生警察補助機關トシテ衞生事務ヲ處理スルヲ以テ目的トス

第三條　本隊ハ各區衞生組合幹部及其他ノ團體員ヲ隊員トシテ編成ス

第四條　本隊ハ各區衞生組合ノ區域ニ區分シ每區ニ分隊ヲ置ク

第五條　本隊ニ隊長、副隊長各一名ヲ置キ隊長ハ市長ヲ副隊長ハ助役ヲ以テ之ニ充ツ

隊長ハ本隊事務ヲ總理ス

副隊長ハ隊長ヲ補佐シ隊長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第六條　分隊ニ分隊長副分隊長各一名ヲ置キ分隊長ハ衞生組合長副分隊長ハ副組合長ヲ以テ之ニ充ツ

分隊長ハ隊長ノ命ヲ受ケ分隊ノ事務ヲ掌理シ隊員ヲ指揮監督シテ本隊ノ事業遂行ニ萬遺憾ナキヲ期スヘシ

副分隊長ハ分隊長ヲ補佐シ分隊長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第七條　本隊ノ本部ハ前橋市役所內ニ分隊事務所ハ各區事務所又ハ分隊長宅ニ置ク

第八條　本隊ハ第二條ノ目的ヲ達成スル爲左ノ事業ヲ行フ

一、道路、橋梁、堤塘、河川、溝渠、空地等ノ淸掃又ハ撒水　但シ民家ニ責任者アルモノハ其ノ督勵

二、市民ノ檢病戶口調査

三、淸潔狀態ノ視察及其ノ督勵

四、救護班ノ援助

五、其ノ他必要ト認ムル事項

第九條　分隊長ハ隊員ヲシテ受持區域ヲ定メ十月二十日迄ニ各戶ニ付第一號樣式ニ依リ檢病戶口調査原簿ヲ作成スヘシ但二十名以上寄宿スル工場ニ對シテハ工場主ヲシテ原簿ヲ作成提出セシムヘシ

隊員ノ受持區域ハ一人ニ付五十戶以內トス

分隊ハ隊員ノ受持區域ニ第一班ヨリ逐次班號ヲ附シ報告蒐集其ノ他ノ便ニ資スヘシ

第十條　隊員ハ十月二十五日ヨリ十一月十八日迄每日受持區域各戶ニ付健康狀態ヲ調査シ發見シタル事項ヲ漏ナク調査原簿ニ記入シ第二號表ヲ作成シ午後四時迄ニ分隊長ニ報告シ分隊長ハ隊員ヨリノ報告ヲ取纏メ午後五時迄ニ隊長ニ報告スルモノトス

分隊長ハ警備期日終了後調査原簿ヲ取纏メ本部ニ送付スヘシ

第十一條　隊員前條ノ調査ニ際シ左記傳染病容疑者ヲ發見シタルトキハ直ニ醫師ノ診察ヲ受ケシムルト共ニ本部及分隊長ニ其要項ヲ即報スヘシ

コレラ、ペスト、腸チフス、パラチフス、發疹チフス、赤痢、(疫痢ヲ含ム)、痘瘡、猩紅熱、ヂフテリア、流行性腦脊髓膜炎、流行性感冒、麻疹

貧困者ニシテ醫師ノ診察ヲ受クルニ困難ト認メタル場合又ハ診療ヲ拒ムモノニ對シテハ本部ヨリ醫師ヲ派遣ス

第十二條　隊員ハ第十一條ノ調査ノ際各戶及其ノ他ノ不潔筒所ヲ發見シタルトキハ淸掃ヲ督勵シ常ニ淸潔ヲ保持セシムヘシ

第十三條　隊員ハ其ノ保員ヲ標示スル爲別紙雛形ノ腕章ヲ附スヘシ

第十四條　本隊ノ事業ニ要スル第一號第二號用紙ハ本部ニ於テ負擔シ其ノ他ノ費用ハ分隊ノ負擔トス

第十五條　隊員中特ニ功勞顯著ナル者ニ對シテハ表彰スルコトアルヘシ

分隊長ハ常ニ隊員ノ行動ヲ注視シ本條該當者ニ對シテハ其事實ヲ詳記シタル申請書ヲ提出スヘシ

（第一號樣式）

（第　　班檢病調査票）

檢第　號	町　番地	職業	世帶主	年齡
家族氏名	年齡	チフス豫防注射	赤痢疫痢內服ワクチン	保菌者檢索	摘要
計					

（第二號樣式）

檢病戸口調査表

町分隊第　班員　氏　名㊞

調査月日	住所	世帶主	患者名	年齢	病名	醫師診斷月日	摘要
月　日　午　時　分開始 午　時　分終了							
月　日　午後　時　分報告							

前橋市衛生警備隊員名簿

備警隊長	江原桂三郎	本部員	豐島元
副隊長	堀康雄	同	高橋歌松
本部員	中元信太郎	同	野口峰造
同	狩野壽平	同	龜岡勇
本部員	佐藤登喜雄	本部員	江原壽之
同	笠原昌奄	同	倉持正二
同	飯島八重司	同	和田孝士郎
同	渥美紀久壽	同	澤登次郎

立川町衛生警備隊

分隊長	矢部莊造	同	牧口吾平
副分隊長	高橋勝五郎	同	岩田佐久治
隊員	横倉武吉	同	加納政男
同	佐竹本次郎	同	佐藤代次郎
同	三海金太郎	同	篠田作次
同	川上七郎	同	岩佐善太郎
同	宮川條太郎	同	矢部初造

曲輪町衛生警備隊

分隊長	熊倉菊藏	同	岩佐多一郎
副分隊長	生方豐平	同	岩佐伊勢松
隊員	石井四郎	同	戸所市次郎
同	中村三郎	同	大竹新造
同	籾山喜代治	同	松井善藏
同	長谷川金四郎	同	有賀市雄
同	吉田義治	同	風戸鶴吉
同	森本孝助	同	川村幸太郎
同	高橋松五郎	同	中島傳吉
同	齋藤喜久壽	同	波戸場信次郎
同	中島龜太郎	同	田中勝美

天川原衛生警備隊

分隊長	川上七郎	同	平林佐嘉藏
副分隊長	宮川條太郎	同	西清
隊員	加納政男	同	中村義次
同	佐藤代次郎	同	井上鶴吉
同	篠田作次	同	內藤竹次郎
同	岩佐善太郎	同	本田宮內
同	矢部初造	同	新井金一郎
同	岩佐多一郎	同	倉部清一
同	岩佐伊勢松	同	小澤靜次郎
同	戸所市次郎	同	原島與都藏
同	大竹新造	同	宮澤平馬
同	松井善藏	同	中村仙太郎
同	有賀市雄	同	庭野宗次郎
同	風戸鶴吉	同	飯塚卯吉
同	川村幸太郎	同	鈴木友吉
同	中島傳吉	同	鈴木豐保
同	田島卯八	同	片山藤一郎
		同	賀川安太郎
		同	櫻井欣衞
		同	山崎鐵城
		同	田島卯八

向町衛生警備隊

隊員　木村次雄

萱町衛生警備隊

分隊長　宮内德次郎
隊員　丸山德太郎
同　大日向知治
同　茂田井米三郎
同　木部末男
同　相川敬
同　高橋亮助
同　田中春吉
同　白井伊十郎
同　新保光一
同　田邊藤作
同　境野七藏
同　瀧澤吉造
同　木部庄作
同　江口照正

天川町衛生警備隊

分隊長　前田清宗
副分隊長　福島善一郎
隊員　桑原喜太郎
同　坂本由三
同　神林清次郎
同　船戸丞之助
同　船戸森十郎
同　細野作次
同　前田義治
同　大島政治
同　大島文次郎
同　大島安平
同　堀越万造
同　大井忠治
同　大島縫造
同　下田光之助
同　丸山仙吉

岩神町、衛生警備隊

分隊長　渡邊仁平次
副分隊長　岩崎平太郎
隊員　永井勇吉
同　野口定吉
同　鹿野良隆
同　竹内寅吉
同　大森金太郎
同　大熊嘉源次
同　和歌浦源八
同　大關善太郎
同　阿坂文之助
同　小山仲造
同　栗林初太郎
同　龜井丹次
同　大嶋力曹
同　富澤虎吉
同　松本春吉
同　石井六太郎
同　栗原高重郎
同　關口初次郎
同　船津佐七
同　六本木伊勢松
同　金子熊吉
同　水野十海
同　佐藤留吉
同　渡邊亮雄
同　小林榮吉
同　富塚善助
同　大熊六太郎
同　田村隆之助

隊員　柄澤伊兵衛
同　多賀谷眞鄉
同　牧野泰造
同　高橋清太郎
同　井上大五郎
同　須賀芳藏
同　國下文太郎
同　根津郡治

細ヶ澤町衛生警備隊

分隊長　中島政五郎
隊員　藤井中二郎
同　金谷太一郎
同　稻垣英次郎

榮町衛生警備隊

分隊長　海津忠作
副分隊長　鄉原健三
隊員　村上孝太郎
同　太田德次郎
同　荒川秀之助
同　稻田誠三郎
同　鈴木金三郎
同　高野民右衛門
同　佐々木辰男
同　間井田三與造
同　山田定吉
同　佐藤孫治
同　井上幸造
同　山本富重
同　松浦助作
同　木村喜代松

萩町衛生警備隊

分隊長　久保田喜代太郎
副分隊長　金子文雄
隊員　岩淵寅藏
同　住谷聖次
同　小村三千二
同　佐藤增藏
同　松田卯作
同　町田伊重郎
同　片野重吉
同　高田喜作
同　丸山久治
同　長澤彦三郎
同　小口健市
同　中島機造
同　眞柄定吉
同　鈴木秋造

南曲輪町、石川町衛生警備隊

分隊長　江原專七郎
副分隊長　高山藤四郎
隊員　池野富貴次郎
同　早川豐我鯉
同　高田利八郎
同　片平僞作
同　佐藤大八郎
同　飯塚條七郎
同　宮下八十治
同　小板橋一雄
同　小野光五郎
同　町田多吉
同　横田九英
同　小倉長作
同　原口玉吉
同　青柳粂藏
同　長藤善四郎

清王寺町衛生警備隊

分隊長　藤井鹿太郎
副分隊長　春山德太郎
隊員　春山常吉
同　井上忠太郎
同　春山安五郎
同　杉本文彌
同　山賀忠太郎
同　西澤錠治
同　武藤多傳治
同　武藤重雄
同　大島晉三
同　町田勝造
同　小暮雄三郎
同　井田秀雄
同　栗原團次
同　田村岩吉
同　金井小平
同　須賀利德
同　近藤友吉
同　小野昇
同　田島安太郎
同　町田雅雄

中川町衛生警備隊

分隊長　尾淵一男
副分隊長　福田良作
隊員　宗像宰象
同　大磯鑢次
同　金子政一
同　須關莊三
同　福田岩次郎
同　竹花甲子太郎
同　龜井政司
同　藤田榮次郎
同　金子惣十郎
同　坂本長治
同　坂本光市
同　村田森造
同　平井與子三
同　岡幸三郎
同　奈良譽志太郎
同　竹部繁
同　長谷川峻治
同　渡邊喜芳
同　金子米吉

分隊長　佐藤重太郎
副分隊長　長谷川安榮
隊員　西尾彦衛
同　大崎喜太郎
同　須永初太郎
同　島村新之助
同　長島榮次郎
同　山本啓治
同　吉田乙次郎
同　龜井榮造

宗甫分衛生警備隊

分隊長　林齋造
副分隊長　信澤勝四郎
隊員　林治次
同　田村錠太郎
同　西村鹿之助
同　齋藤傳重
同　河島峯三郎
同　多賀谷常次郎
同　林千治
同　栗原千吉

新町衛生警備隊

分隊長　北爪善吉
副分隊長　多加谷勝四郎
隊員　原田金吾
同　根岸柳次郎
同　布施作治
同　下田定三郎
同　金井源藏
同　松井浪太郎
同　宮澤李太郎
同　福田喜三郎
同　堤貢
同　河部源吉
同　竹越益米
同　小黑長司
同　高橋幾太郎
同　青柳幸次郎
同　長谷川末吉
同　野崎芳太郎
同　山田芳太郎
同　笛木勇吉
同　下田力操
同　大島巳之吉
同　高橋李太郎
同　高橋道郎

六供衛生警備隊

分隊長　草間軍次
副分隊長　野村森之助
隊員　下田長吉
同　中西治三郎
同　粕川源太郎
同　三森安平
同　柴山秀雄
同　牛島信平治
同　小林甚平
同　齋藤末吉
同　渡邊善作
同　角田藤吉
同　金井傳六
同　荒木村治
同　高橋彌重郎
同　小倉彌市
同　岡本彌平
同　山田治三郎
同　細野鐵五郎
同　齋藤市郎
同　野口喜代重

連雀町衛生警備隊

分隊長　廣幡櫻橋
副分隊長　細野仙太郎
隊員　大類吉松
同　川久保菊一
同　入澤四方作
同　須藤寅吉
同　唐澤富一郎
同　岩崎清治
同　細川保次

北曲輪町衛生警備隊

分隊長　伊藤善藏
副分隊長　都丸長平
隊員　鯨井政吉
同　野口嘉一郎
同　伊藤一郎
同　鈴木泰三
同　小口德穗
同　神谷湛

隊員　神谷茂
同　長井文彌
同　中澤幸平
同　喜多山錠吉
同　大澤廣一
同　熊木信司
同　佐山一郎
同　津久井惣次郎
同　高橋銀之助
同　倉橋新松
同　野中松太郎
同　三浦護衛
同　黒岩二郎

横山町衛生警備隊

分隊長　櫻井定吉
副分隊長　井出武雄
隊員　杉本德太郎
同　寶生榮吉
同　石川勘藏

諏訪町衛生警備隊

分隊長　藤野長次郎
副分隊長　丸山嘉一
隊員　吉田太久次
同　新井丑五郎
同　菊池豊重
同　井上喜一
同　成田清太郎
同　大澤式造
同　大賀豊吉
同　西田俊雄

桑町衛生警備隊

分隊長　横山喜八
副分隊長　鈴木半兵衛
隊員　田中吉藏
同　荒木良三
同　杉村泰助
同　絲井芳太郎
同　畑田政太郎

百軒町、大塚町衛生警備隊

分隊長　栢野豊作
副分隊長　新井保
隊員　松村可成
同　後閑清松
同　渡邊文司
同　小林竹次郎
同　增田耕作
同　森川喜三郎
同　平山仙吉
同　關口幸作
同　中島銀平
同　富岡茂朔
同　鈴木國五郎
同　坂井壬午
同　吉田清三郎
同　渡邊千代松
同　岡田錦造
同　萩原富士太郎
同　中野菊次郎
同　澤邊房吉
同　土田卯吉
同　大崎荒三郎
同　岡田喜重郎
同　星野銀造
同　石島芳造
同　上坂菊次郎

隊員　岡田鳥治
同　關杉太郎
同　長橋貞治
同　村越角藏
同　三宅喜一郎
同　吉田繁八
同　井口友三
同　關根由尾
同　伊丹藤造
同　宮內孝太郎
同　竹井次男
同　後閑末次
同　原德太郎
同　設樂吉次
同　新井松造
同　力丸政一
同　根岸龍司
同　大津政一

堅町衛生警備隊

分隊長　關敬太郎
副分隊長　深町牧太
隊員　荒牧賢二
同　織茂儀十郎
同　養田雄三郎
同　高野三次郎
同　齋藤庄五郎
同　葉住鐵三郎
同　荒井甚八
同　島田一陽
同　植村幸三郎
同　曾田眞吉

小柳町衛生警備隊

分隊長　茂木馬吉
副分隊長　天笠才吉
隊員　南波可一
同　野田鶴吉
同　三宅茂八郎
同　齋田晴好
同　小見三治
同　橋爪嘉一
同　田村茂平
同　遠山甲午
同　太田又次郎
同　北爪波藏
隊員　細野清市

本町衛生警備隊

分隊長　川合嘉吉
副分隊長　平井常吉
隊員　小野田昇一
同　野崎武治
同　廣島孫一
同　中村利雄
同　高橋鼎

一毛町衛生警備隊

分隊長　關根道之助
副分隊長　藤卷登
同　田村喜平
隊員　田澤義之助
同　吉田信一郎
同　白井政二
同　中里延治
同　山本與之吉
同　成戸定平
同　石原鄉次郎
同　布川勘助

隊員　小林磯太郎
同　富岡國三
同　今井春三
同　横田萬吉
同　岡村仁太郎
同　吉田伸次郎

高田町衛生警備隊

分隊長　齋藤朋太郎
副分隊長　梅津幸次郎
隊員　越中正夫
同　坂本清治
同　佐藤銑太郎
同　大崎多喜彦
同　駒井榮吉
同　中島彦太郎
同　高木源治
同　加藤岩雄
同　青木民作
同　福島好司
同　岸七藏
同　大原栗
同　田村利雄

隊員　須田十九馬
同　高橋重太郎
同　宮本欽二
同　樫澤貞治
同　田鳥吉藏
同　笛木銀次郎
同　松川松男
同　井上鍋太郎
同　片貝惣吉
同　眞下榮一
同　碓井三男
同　井之河富次
同　芳賀德太郎
同　横地農夫助
同　角山廣市
同　茂木勝三郎

才川町衛生警備隊

分隊長　近藤久三郎
副分隊長　大林峰太郎
隊員　近藤清十郎
同　樋口善藏
同　平石桂次郎

隊員　中里善太郎
同　吉川勇
同　稻葉榮造
同　青木次男
同　諸橋卯一
同　小倉門藏
同　新保善吉
同　細井才次郎
同　渡邊仙吉
同　海野倉治
同　小竹政之助
同　西脇吉作
同　奥村留吉
同　正田金平
同　大野幸太郎
同　鈴木藤作
同　平形氾二
同　安田平三郎
同　有本常美
同　渡邊清吉
同　伊藤伊藏
同　吉井鑑
同　川上重五郎

隊員　加藤喜助
同　阿部與作
同　名塚作治郎
同　小澤由平
同　石見與吉
同　若井勝之
同　須永要次郎
同　野城藤太郎

榎町衛生警備隊

分隊長　忍田馬吉
副分隊長　周東九平
隊員　西村留吉
同　高柳武助
同　日比野庫吉
同　高山建四郎
同　倉橋芳造
同　後藤兼吉
同　出川文次郎
同　塙竹三郎

紺屋町衛生警備隊

分隊長　日比野鐵彌太

副分隊長　木部重兵衛
隊員　小西辰治
同　梅澤德次郎
同　平野嘉久
同　大塚金太郎
同　松本蝶次郎
同　益田與作

堀川町衛生警備隊

分隊長　中岡染次
副分隊長　上野光藏
隊員　橋本藤三郎
同　石原力三郎
同　葉賀健治
同　西方與一
同　田中岩吉
同　龜倉梅吉
同　川隅吉三郎
同　鈴木龜吉
同　佐野元市
同　神部定次郎
同　大岩光雄
同　久家政吉

隊員　西方豊太

田町衛生警備隊

分隊長　横田駒吉
副分隊長　神田政吉
隊員　小池唐藏
同　上野貫一
同　大野亦男
同　小見山千代松

芳町衛生警備隊

分隊長　久保村喜次
副分隊長　田村重太郎
隊員　阿久澤佐七
同　治田正二
同　田中廉造
同　新井雄次郎
同　中村政五郎
同　江角保敎
同　渡邊芳三
同　本間善平
同　吉岡金藏
同　平山勝造

隊員　桑子榮作
同　長島吉藏

神明町衛生警備隊

分隊長　岩崎德太郎
副分隊長　木島十次郎
隊員　野村極
同　藤井順吉
同　中田朋多郎
同　中澤兵作
同　宮内勳三郎
同　渡邊吉之
同　小林周次郎
同　西澤彌五郎
同　木原勝太郎
同　磯田與次郎
同　大澤勝平
同　沼田淺吉
同　内山惣松
同　山田國貞
同　高橋庄吉
同　新井金次
同　河井善五郎

隊員　相川伸吉

36前代田衛生警備隊

分隊長　根岸辰造
副分隊長　大島政治郎
隊員　廣井蜜五郎
同　松澤信一
同　新井新三郎
同　近藤彌藤治
同　市川友三郎
同　根岸利忠太
同　中島龍太郎
同　三川藤三郎
同　岸善八
同　阿部三次郎
同　西脇常吉

琴平町衛生警備隊

分隊長　小野里龜澄
副分隊長　横田勝次郎
隊員　大木敬次郎
同　江口照門
同　柊久吉

隊員　上岡正次
同　鈴木馨
同　小野里光明
同　辻川友太郎
同　室橋元雄
同　淺田憲
同　武尾留八

相生町衛生警備隊

分隊長　津久井省己
副分隊長　津久井誠一郎
隊員　松井久太郎
同　齋藤義虎
同　高橋伊三郎
同　堀口實
同　菊田猪吉
同　桑山仙助
同　平岩恒吉
同　稻村善太郎
同　眞貝定光
同　佐藤代五郎
同　永井良三
同　平石上

隊員　田村久次郎
同　太田正之
同　高野松太郎
同　井上市郎
同　蓮見嘉市
同　泰永多兵衛
同　堀越森治
同　橋本兵四郎

35前代田衛生警備隊

分隊長　齋藤福太郎
副分隊長　小池福太郎
隊員　佐藤元吉
同　小林猛
同　中島辰三郎
同　今井巳之吉
同　監持熊次郎
同　小林正雄
同　平松浦次郎
同　小川文造
同　小池太吉
同　中島龜吉

田中町衛生警備隊

分隊長　伊東保乃齊
副分隊長　池畠龍象
隊員　島倉藤平
同　三宅市太郎
同　松野喜三
同　山田泰造
同　千木良四郎
同　下山龜一郎
同　岡田四ッ治
同　佐山重一郎
同　日高忠造
同　野村富士雄
同　櫻井宗太郎
同　鈴木清一郎
同　川合晴世
同　中島親之助
同　加藤榮太郎
同　小飯塚德太
同　内藤俊次
同　山田美弘
同　吉原新太郎
同　落合專二

隊員　中山三郎
同　大塚光司
同　山田幸一郎
同　大澤忠太郎
同　赤野八百藏
同　中島藤次郎
同　角田愛作
同　林巳之吉
同　渡邊万次郎
同　永田鍬次郎
同　荒川銀太郎
同　小熊子之吉
同　千田數馬
同　山田達雄
同　高津德太郎
同　宮川幸次郎
同　齋藤武平
同　村山金治
同　木村國次郎
同　山崎貞太郎
同　山田藤吉
同　田代至
同　樺澤義政

隊員	飯塚藤吉	中嶋四九三
同	井之瀬力太郎	金井彦三郎
同	大澤一正	福田廣吉
同		坪松勘造
同		飯野半之助
同		飯野二三郎
同		平松麻太郎

紅雲町衛生警備隊

分隊長	布施源治	蜂巣忠次郎
副分隊長	田邊巳之吉	岡田金次郎
同	元田幸太郎	岡田銹象
同	柳澤質	鈴木又造
隊員	前田讓	島田忠太郎
同	森田宇喜次郎	木暮寅吉
同	新井孝八	松村眞鬼多
同	阿部十治郎	榮崎久榮
同	岸榮治	松村勝利
同	富澤秀之輔	井上公治
同	長尾藤一郎	齋藤勘三郎
同	横澤傳次郎	藤井金次郎
同	磯田源三郎	居城四郎
同	大塚庄三郎	豊島幸三郎
同	金内六郎	中野松美
同	高橋晉吉	藍澤豊次
同	田野初太郎	原島兵太郎
同	入澤直七	山崎吉太郎
同		笠原丑藏
同		小林竹次郎
同		櫻井金太郎
同		棚橋佐平太
同		和田倉吉
同		結城由松
同		善如寺三十郎
同		小泉源七
同		小野坂勝太郎
同		船引龜壽
同		高橋甚藏
同		杉本熊太郎
同		本田新次郎
同		石崎銑之助
同		島田政司
同		池田利忠
同		野瀨清太郎
同		町田力造
同		廣瀨仙治

國領町衛生警備隊

分隊長	石村保之	片貝町衛生警備隊
隊員	藍澤一	分隊長
同	田中英勝	副分隊長
同	瀧澤幸太郎	隊員
同	角田雄二	同
同	木村松太郎	同
同	中澤正治	同
同	關多傳治	同
同	野口幸一郎	同
同	大矢吉太	同
同	高山玄次郎	同

隊員	丸山政吉	高木寅雄
同	佐野正三	宮澤正二郎
同	山縣規矩男	高橋乾德
同	辻忠右衛門	手嶋市作
同	内山德太郎	小林長太郎
同	黑崎初太郎	大崎豊吉
同	伊藤豊	岡田林次郎
同	吉澤榮次	栗原悅太郎

市之坪衛生警備隊

分隊長	大澤賢次	中林益一郎
隊員	喜橋與四郎	前田濱五郎
同		桑原保治

第十三節　救護班の開設

陸軍特別大演習竝地方行幸に際し奉拜者其の他の傷病者救護の爲、醫師會・齒科醫師會・產婆會・看護婦會・在鄕軍人會等の援助を得て、左記前橋市救護班內規に依り、固定救護班六班（十一月十五日地方行幸當日は十二班）を編成し、十一月十日より十八日迄每日午前七時より午後四時に至るの間、別記「救護所開設日割及勤務表」に依り救護事務に從事したるが其の奉仕出動延人員は、醫師六十人、齒科醫師三十六人、助手百六十五人、救護員百五十人にして、傷病者の救護人員は合計七十四人なり。右の外市醫及助手二人を以て移動救護班を編成し、常に市役所內に待機して敷島・中川・城南・桃井の各小學校に分宿せる警察官及警備軍人の傷病救護に從事したり。

前橋市救護班內規

一、昭和九年陸軍特別大演習ニ際シ拜觀者其ノ他ノ傷病者救護ノ目的ヲ以テ救護班ヲ編成ス

二、救護班ノ編成

1. 救護班ハ醫師一名助手及救護員若干名ヲ以テ一班ヲ編成ス
2. 班員中醫師ハ市醫師會、助手ハ看護婦會及產婆會、救護員ハ在鄉軍人聯合分會ヨリ派遣ヲ受クルモノトス
3. 各班ニ班長ヲ置キ當該救護班ノ醫師ヲ以テ之ニ充ツ

三、救護班員ノ服務

1. 班長ハ所屬班員ヲ統率シ救護上遺憾ナキヲ期スルコト
2. 班長ハ助手又ハ救護員中ヨリ事務員一名ヲ兼務セシメ置キ所定ノ日誌ニ場所開閉日時出場班員ノ氏名傷病者ノ住所氏名傷病名其ノ他必要事項ヲ記載セシムル外救護器具材料腕章ノ整理保管ニ任セシムルモノトス
3. 救護員ハ班ノ附近ヲ巡視シ傷病者ヲ發見シタルトキハ速ニ救護所ニ搬入セシムルコト
4. 救護班ニ於ケル傷病者ハ應急ノ手當ニ止メ若シ重症者ナルトキハ班長ハ取締警察官又ハ市衛生係ト協議ノ上適當ナル處置ヲ爲スコト

重症患者ニシテ引取人ナキトキ又ハ傳染病患者ヲ發見シタルトキハ速ニ市衛生係ニ報告シ處置セシムルコト

5. 班員ハ服務中所定ノ腕章ヲ左腕ニ附著シ任務終了後事務員ニ返還スルモノトス
6. 班員ハ救護所開始一時間前ニ現場ニ到著スルモノトス

四、救護所ノ場所竝開閉時間ハ別ニ之ヲ定ム

救護所開設日割及勤務割表

開設月日	場所	醫師名	助手數	救護員數
十一月十日	大本營前子供公園	德江交次	三	三
同	曲輪町勝山工場跡	六本木久雄	三	三
同	前橋市水道部內	橋爪與四郎	二	—
同	本町　田村松造方	豊田宗作	三	三
同	前橋警察署內	今野董一	三	三
同	群馬縣醫師會館內	池田眞喜治	三	三
十一月十一日	大本營前子供公園	小原澤精	三	三
同	曲輪町勝山工場跡	太田一學	三	三
同	前橋市水道部內	太原均	二	—
同	本町　田村松造方	岡田濟美	三	三
同	前橋警察署內	錦織正雄	三	三
同	群馬縣醫師會館內	稻葉東	三	三
十一月十二日	大本營前子供公園	太田武兵衞	三	三
同	曲輪町勝山工場跡	狩野壽平	三	三
同	前橋市水道部內	大澤瀨平	二	—
同	本町　田村松造方	大屋精一	三	三
同	前橋警察署內	神田宗一	三	三
同	群馬縣醫師會館內	神岡邦夫	三	三
十一月十三日	大本營前子供公園	狩野眞七	三	三
同	曲輪町勝山工場跡	横地長三郎	三	三

開設月日	場所	醫師名	助手數	救護員數
十一月十三日	前橋市水道部內	田中久	二	—
同	本町　田村松造方	高柳郁三	三	三
同	前橋警察署內	田中敏男	三	三
同	群馬縣醫師會館內	高平儀一	三	三
十一月十四日	大本營前子供公園	長崎正平	三	三
同	曲輪町勝山工場跡	平形善壽	三	三
同	前橋市水道部內	津久井惣治郎	二	—
同	本町　田村松造方	長澤博	三	三
同	前橋警察署內	津久井省三	三	三
同	群馬縣醫師會館內	田口節朗	三	三
十一月十五日	大本營前子供公園	關口林五郎	三	—
同	紅雲町郡是乾燥場	中島周作	三	—
同	前代田　厩劍會館	矢部莊造	二	二
同	農事試驗場試作地	關口格知	二	二
同	高田町中島房太郎方	山下義夫	二	二
同	前橋中學校庭	松井好鉚方生	四	二
同	向町　井上半平方	山田貫一	三	—
同	清王寺町ユニオン內	中島了介	二	二
同	師範學校記念館	野村孝太郎	四	四
同	才川町淺香製材所內	長岡秀子	二	二

十一月十五日　曲輪町勝山工場跡　上原八九十　二
十一月十六日　大本營前子供公園　長井宏　三
同　曲輪町勝山工場跡　藤井安司　三
同　前橋市水道部内　八木隆輔　二
同　本町　田村松造方　眞中もゝ　三
同　前橋警察署内　松山信六　三
同　群馬縣醫師會館内　前田忠重　三
十一月十七日　大本營前子供公園　小松陸三郎　三
同　曲輪町勝山工場跡　小林武　三
同　前橋市水道部内　小池元三郎　二

尙、十月十六日演衞第九七號を以て、警察部長より示されたる救護班服務規程案の全文左の如し。

救護班服務規程案

一、救護員ノ心得

今回本縣下ニ於テ行ハセラルル陸軍特別大演習ニハ畏クモ大元帥陛下親シク御統監アラセ給ヒ皇族方ヲ始メ奉リ文武大官ノ陪觀セラルルモノ亦多數ニ上リ空前ノ盛觀ヲ呈シ此ノ千載一遇トモ申スヘキ場合ニ於テ救護員トシテ救護ニ從事スルハ誠ニ名譽此ノ上モ無ク從テ其ノ責任モ亦決シテ輕カラサルニ付服裝及姿勢ヲ愼重ニシ傷病者ヲ救護スルニ當リテハ懇切ヲ旨トシ苟モ粗暴ノ言動所爲アルヘカラサルハ勿論救護員タルノ本分ヲ盡サルルコトヲ希望ス

二、救護班ノ統率

救護班ハ陸軍特別大演習衞生事務處理規程第三節ニ據ルノ外衞生救護係長ノ指揮ヲ受ケ左記要領ニ依リ服務スルコト

イ、救護班長（班長ハ醫師トシ醫師二名以上ノ場合ハ年長者トス）ハ所屬救護員ヲ統率シ救護上遺憾ナキヲ期スルコト

ロ、救護員ニ事故ヲ生シ補充ヲ必要トスル場合ハ電報又電話ヲ以テ衞生救護係長ニ指揮ヲ受クルコト

三、救護班ノ編成

救護班ハ移動ト固定ノ二種トシ縣及赤十字社群馬支部ニ於テ開設セル救護所ハ主トシテ移動ト爲シ郡市醫師會ノ開設スルヲ固定ト爲シ其ノ班ノ要員醫師一名、看護婦（資格ナキ見習員ヲ以テスルモ差支ナシ）二名事務員二名人夫一名トス但シ時宜ニ依リ增減スルコトアルヘシ

四、救護班ノ行動

イ、救護班ハ毎日警衞警備隊ノ行動ニ先立チ救護所ヲ開始シ演習行動又ハ一般民衆ノ離散スルヲ待テ閉鎖スヘシ

ロ、救護班ハ指定地ニ到著セハ救護所最寄ニ電話ノ有無ヲ調査シ豫メ借用方ヲ依頼シ置キ非常急報ニ備フルコト若シ電話使用ノ途ナキトキハ最寄郵便局ニ就キ電信ニテ救護班本部（衞生課）ト連絡ヲ圖リ機敏ニ處置スルコト

ハ、夜間歩哨線ヲ行進シ誰何セラレタルトキハ縣救護班タルコトヲ告ケ通過スルコト

ニ、救護班ニ於ケル傷病者ハ應急ノ手當ニ止ルコト

五、救護所ノ開設

イ、救護班指定地ニ到著セハ直ニ最寄町村區長、町村吏員ノ援助ヲ求メ速ニ救護所ヲ開設スルコトニ努ムルコト

ロ、救護班ハ可成學校、寺院、民家ヲ救護所ニ利用スルコト但シ天幕ヲ用ヒテ救護所ト爲ストキハ衆目ニ觸レ易ク且出入ニ便利ナル位置ヲ選フコト

ハ、救護班長ハ救護所開設ト同時ニ所定ノ日誌ニ（記載例ニ依リ）開設日時場所等ヲ記入捺印スヘシ

ニ、救護班ハ救護所開設ト同時ニ最寄地方醫師ニ交渉シ置キ救護上遺憾ナカラシムル樣計畫シ置クコト

ホ、救護日誌ハ十一月二十五日迄ニ衞生救護係（衞生課）ヘ送付報告スルコト

六、救護所ノ標示

救護所ノ位置ヲ演習陪觀者演習關係員一般拜觀者軍人其ノ他ノ傷病者ニ汎ク知ラシムル爲所定ノ印刷物ヲ警衞隊及團體長等ニ配付スルハ勿論左ノ方法ニ依リ周知ニ努ムルコト晝間ハ看板及標旗夜間ハ高張提燈

七、救護員ノ服裝及携帶品

救護員ハ統一上一定ノ服裝ヲ爲ササルヘカラサル趣ニ付テハ全員（人夫ヲ除ク）白衣ヲ著用シ所定ノ腕章ヲ左腕ニ附スルコト、白衣ノ下ハ隨意ナルモ成ル可ク洋服ヲ用フルヲ便トス

八、救護材料

左記材料ヲ常ニ準備シ置クコト

一、救護所　標示
一、天幕
一、高張提燈（夜間開設ノ班）
一、擔架
一、毛布
一、枕
一、卓子
一、輕便椅子
一、バケツ
一、湯沸

十一月十七日　本町　田村松造方　赤城良作　三
同　前橋警察署内　青木與雄　三
同　群馬縣醫師會館内　新井慶三郎　三
十一月十八日　大本營前子供公園　由利澄子　三
同　曲輪町勝山工場跡　坂本茂　三
同　前橋市水道部内　北川光雄　二
同　本町　田村松造方　柴田克己　三
同　前橋警察署内　佐藤利彌　三
同　群馬縣醫師會館内　櫻井定吉　三

一、コップ
一、洗面器
一、藥品及醫療器具
九、救護材料ノ運搬及取扱
救護材料ノ運搬ニ當リテハ危險ナル行爲ヲ慣ミ捷路ヲ選ヒテ指定時刻ニ遲レサル樣注意スルコト
救護材料ノ取扱ハ兎角粗雜ニ流レ破損遺失シ易キヲ以テ救護上支障ナキ樣充分注意スルコト

（樣式）

救護所開設場所
同　同　日時
同　閉鎖日時
救護班長氏名
同　書記

傷病處置	一般奉拜者 男	一般奉拜者 女	軍人	住所	氏名	年齡

第十篇　雜　纂

第一章　各種團體の活動

第一節　在鄉軍人會前橋市聯合分會

今次の陸軍特別大演習竝地方行幸に際し、本市聯合分會は左記「在鄉軍人活動要領」「御警衛及交通制限援助要領」に基き、各般の事項に互り特に統制を保ち、不眠不休、克く奉公の至誠を致されたるが、其の屯所位置・御警衛實施表・聯合分會役員表等別記の如し。

在鄉軍人會活動要領

一、特別大演習ノ場合

1. 演習地トナリタル場合
イ、演習部隊ヨリ演習資材ノ準備要求、道案内、落伍者及患者ノ收容等ヲ援助スルコト
ロ、戰車、裝甲自動車、貨物自動車等ノ驀進シ來ル時其危險豫防ニ援助スルコト
ハ、砲兵ノ陣地進入ノ時及砲擊時ノ危險豫防ニ援助スルコト
ニ、其他ノ兵種ノ攻擊前進及退却等ノ場合其戰線附近ニ於ケル見物人ノ整理ニ援助スルコト
ホ、空陸ノ連絡ノ爲メ信號設備作業無線電信及電話ノ通信所附近ノ見物人整理ニ援助スルコト
ヘ、電話線及電信線ノ破壞又ハ盜線豫防ニ援助スルコト
之カ爲メ各分會毎ニ一地ニ事務所ヲ設置シ大體ノ擔任業務ヲ定メ置キ援助スルコト

2. 軍隊ノ通過スル場合
イ、沿道ニ於ケル湯茶、飲馬水ノ補給ヲ容易ナラシムル如ク盡力スルコト

ロ、落伍者及患者ノ收容ニ援助スルコト
ハ、沿道ニ於ケル見物人ノ整理ニ援助スルコト
之カ爲其市町村入口附近ニ事務所ヲ設ケ擔任業務ヲ定メ置クコト

3. 軍隊ノ宿營地トナリタル場合
イ、諸給與品ノ整備交付分配ヲ援助スルコト
ロ、軍隊ノ宿營割ニ援助スルコト特ニ村落露營ノ場合等ニ於テ然リ之カ爲豫メ疊數等ヲ記入セル要圖ヲ調製シ置クヲ可トス
ハ、軍隊ノ宿舍ニ著クニ方リ宿舍及廐、砲廠、銃廠等ノ案内ニ援助スルコト
ニ、遲レテ著セル者ノ案内ニ從事スルコト
ホ、他村落、陣地等ニ連絡スル者ノ案内ニ從事スルコト
之カ爲其市町村内要點附近ニ一個若クハ數ケ所ノ事務所ヲ設ケ援助スルコト

二、地方行幸ノ場合

1. 天皇陛下御臨幸及御還御ノ場合
イ、停車場、御道筋及御臨幸地附近ノ奉迎送人ノ整理ニ援助スルコト
ロ、右援助員ハ臨幸約二時間前ヨリ服務スルモノトス
ハ、還御ノ場合ニ於テモ同樣トス
之カ爲豫メ擔任業務ヲ定メ置キ從事セシムルコト

2. 一般御親閲ノ場合
イ、停車場及御道筋ノ整理
豫メ擔任業務ヲ定メ置キ奉迎人ノ整理ヲ爲スコト

三、服務者ノ服裝

本活動ニ服務スル者ノ服裝ハ成ル可ク軍服ニシテ卷脚絆又ハ革脚絆靴若シクハ地下足袋ヲ穿ツモノトス已ムヲ得サル場合ニ於テハ青年服、若クハ外被等ヲ用フ又服務者ハ必ス會員徽章ヲ佩用シ幅約三寸ノ白布ニ「某分會」ト記シタル標幟ヲ右上膊ニ附スルモノトス

御警衛及交通制限援助要領

一、援助ノ目的

在鄕軍人會員ノ御警衛及交通制限援助ニ服務スルハ固ヨリ軍人ノ本分ニ鑑ミ至誠奉公ノ發露ヨリ只管 聖上ノ御安泰ヲ祈念シ奉ル爲不慮ノ事件ニ對シ警察官憲ヲ臨機援助スルニ在リ

二、御警衛及交通制限ノ責任

御警衛及交通制限等ニ關スル法規上ノ責任ハ憲兵及警察官憲ニ在ルモノトス

三、支部長ノ指導ト援助員ノ服務方針

1. 支部長ハ會員ノ之等援助ニ關シ統轄指導スルモノトス
2. 援助員ノ服務ハ所謂第二線ニ於テ一地ニ屯シ待機ノ姿勢ニ在リテ事故發生ノ虞アル場合又ハ事故發生ノ場合其地ニ在ル責任官憲(私服憲兵及警察官憲ヲ含ム)ノ依囑アル時之ニ應シ發動シ援助スルヲ本則トスルヲ以テ右事件止ミタル場合ハ速カニ舊位置ニ復スルモノトス、故ニ豫メ一地ニ立哨之ニ服スルカ如キコトアルヘカラス

五、服務員ノ選定要領

服務員ノ選定ニハ特ニ注意ヲ拂ヒ些ノ遺漏ナキヲ期スヘシ之カ爲左ノ諸點ニ著意スルヲ要ス

1. 品行方正、志操堅實ナルコト
2. 身體健全ナルコト
3. 本人ハ勿論血族近親中ニモ精神病者又ハ思想上注意ヲ要スヘキモノナキコト
4. 成ル可ク既教育兵タルコト若シ所要人員ヲ充足シ能ハサル場合ハ青訓終了未教育者ヲ充ツルコトヲ得
5. 地元現住者ヲ以テ充テ出稼キシアリタル等ノ爲其人物、性行等ヲ承知シアラサルモノハ之ヲ充テサルコト
6. 豫行演習等ニ出場スルモ生計上支障ナキモノナルコト
7. 分會員中消防隊員ニシテ既ニ警察官憲ノ補助員トシテ依囑セラレアルモノハ之ヲ省クモノトス

六、服務者ノ服裝

1. 服裝ハ正規ノ軍服ヲ著用シ卷脚絆又ハ革脚絆、靴若シクハ地下足袋ヲ穿チ勳章、記章、會員徽章等ヲ佩用シ所定ノ腕章(第一篇第三章第三節參照)ヲ左上膊ニ纏フモノトス
水筒及辨當ハ成ル可ク携行スルモノトス
2. 准士官以上ノ服裝ハ隊伍ニ列セサル軍裝トシ他ハ一般ノモノニ準ス
3. 腕章ハ支部ヨリ支給ス用濟後速カニ返納スルモノトス

七、援助員屯所標幟ト服務要領

1. 御警衛及交通制限援助員ノ屯所ニハ銃前哨ヲ立テ憲兵警察官憲ノ依囑アル場合直チニ之ニ應シ得ル姿勢ニアルモノトス
右屯所ニハ「御警衛援助員屯所」「交通制限援助員屯所」ノ標幟ヲ掲クルモノトス
2. 屯所ニ在ル援助員ノ服務ハ小哨及下士哨ノ動作ニ準據スルモノトス
3. 屯所ニ於テ若シモ左記各項ニ該當スル者ヲ發見又ハ豫知セハ速ニ最寄警察官憲ニ通告スルモノトス
イ、擧動不審ノ者
ロ、兇器爆發物ヲ携行スル者
ハ、不穩ノ言動ヲ爲ス者
ニ、不穩文書ノ撒布又ハ宣傳ヲ爲スモノ
ホ、不敬ニ亙ル言動ヲ爲スモノ

御警衛及交通整理屯所位置

場所	屯所位置	電話番號	氏名	摘要
利根川鐵橋東	紅雲町二三四	一、一〇二呼出	田中ハナ	御警衛

御警衛實施表

月日／區分	配置時期	配置場所	配置人員	受持分會名	大本營御發輦	前橋驛御發車	前橋驛御著車	大本營御著輦	其ノ他	集合
十一月十日	御著輦時	停車場附近	長以下一〇名	三			後三、三五			後二、三〇
		大本營附近	同	八				後三、四三		同
		利根川鐵橋兩側	長以下一〇名(五名宛)	一						後二、〇〇
十一月十一日	御發輦時	利根川鐵橋西	石倉一九六	一、四八九呼出	梅山鹿造					御警衛
		大本營	曲輪町三七	一、〇八六呼出	橋本鉄四郎					同
		裁判所	曲輪町	一、七七二	公證人高橋武濟役場					同
		師範學校	清王寺町二〇一	六一六呼出	清王寺町事務所					同
		停車場	田中町七五	二五三	丸大菅原運送部					同
		中學校	天川原	五五四呼出	天川原事務所					同
		八間道路十字路	諏訪町一四	三〇九呼出	角田慶助交通整理					同
		廐屋前	桑町	四六	羽生田眼科院					同
		電車通十字路	連雀町	七三〇	都丸自轉車店					同
		新町東端石山線伊勢崎線十字路	新町四五	一、二七四呼出	宮澤杢太郎					同
		蠶業試驗場	前代田	四〇一呼出	前代田事務所					御警衛

十一月十一日	御發輦時	大本營附近	長以下一〇名	一	六、一五					五、〇〇
		停車場附近	同	三		六、二二				五、〇〇
	御著輦時	同	同	二			後〇、三五			二、三〇
		大本營附近	同	五				後〇、四二		同
十一月十二日	御發輦時	大本營附近	長以下一〇名	二	二、五〇					一〇、四〇
		停車場附近	同	六		二、五七				同
		利根川鐵橋兩側	長以下一〇名(五名宛)	四						同
	御著輦時	同	同	三						後二、二〇
		停車場附近	長以下一〇名	七			後三、三三			同
		大本營附近	同	救一小				後三、四〇		後二、三〇
十一月十三日	御發輦時	大本營附近	長以下一〇名	三	六、五〇					五、三〇
		停車場附近	同	五		六、五七				五、四〇
		利根川鐵橋兩側	長以下一〇名(五名宛)	四						同
	御著輦時	同	同	一						後二、三〇
		停車場附近	長以下一〇名	二			後四、一一			後二、四〇
		大本營附近	同	救二小				後四、一八		後二、五〇
		大本營附近	長以下一〇名	七	九、〇〇					七、四〇

十一月十四日	御發輦時	停車場附近	長以下一〇名	五		九、〇七		
	御著輦時	利根川鐵橋兩側	長以下一〇名(五名宛)	四				
		同	同	六				
		停車場附近	長以下一〇名	救一小		後一、五三		
		大本營附近	同	八			後二、〇〇	同
	御發輦時	大本營附近	長以下一〇名	八	八、四〇			七、三〇
十一月十五日	御畫餐後ノ御發輦時	同	同	六				
	御畫餐ノ爲御著輦時	同	同	三				
	裁判所臨御中	裁判所附近	同	二			八、四三	七、三〇
	中學校臨御中	中學校附近	同	四			九、一〇	七、三〇
	蠶業試驗場臨御中	蠶業試驗場附近	同				一〇、〇三	同
	師範學校臨御中	師範學校附近	同	七			一〇、五三	九、一〇
	御著輦時	大本營附近	同	一		後四、三七		後一、一〇
十一月十六日	御發輦時	大本營附近	長以下一〇名	八	八、五五			七、四〇
	停車場附近	同	同	六		九、〇二		八、〇〇
	同	同	同	五		後四、一七		後三、〇〇
	御著輦時	大本營附近	同	七			後四、二四	同

十一月十七日	御發輦時	大本營附近	長以下一〇名	七	九、五五			八、三〇
		停車場附近	同	六		一〇、〇三		九、〇〇
	御著輦時	同	同	四				二、三〇
		停車場附近	長以下一〇名	五		後三、四二		同
		大本營附近	同	救二小			後三、四九	同
十一月十八日	御發輦時	大本營附近	長以下一〇名	七	九、〇〇			八、〇〇
		停車場附近	同	一	九、〇八			八、〇〇
		利根川鐵橋兩側	長以下一〇名(五名宛)	八				

備考
一、本表中救ヲ附シアル場所ニハ救護隊ノ服務トス
一、後ハ午後ノ時間ヲ示ス

帝國在鄉軍人會前橋市聯合分會役員表

職名	官等	氏名	職名	官等	氏名
聯合分會長	歩兵大佐	渡邊洸	同理事	輜重兵少尉	羽生田均次郎
同副長	海軍大佐	江原敢治	同同	騎兵大尉	野村敬德
同同	歩兵中尉	齋藤誠次	同同	歩兵上等兵	茂木馬吉
同常務理事	輜重兵特務曹長(市兵事主任)	福田林造	同同	海軍兵曹長	石井作郎
同會計主務課長	同同	中元信太郎	同監事	歩兵大尉	井上大五郎

聯合會監事	歩兵少尉	田村吉之助
同	砲兵少尉	栗原喜代司
評議員（第一分會長）	歩兵少尉	岩崎健一
同	歩兵伍長	佐久間榮治郎
同	三等主計	荒井仙吉
同	歩兵上等兵	安岡八郎
同	歩兵少尉	須藤好雄
同	歩兵少尉	都丸連
同	歩兵少尉	竹内金一郎
同	歩兵少尉	細野暉義
同	歩兵中尉	岩佐竹松
同	砲兵少尉	林益治
同	歩兵軍曹	荒木邦治
同	輜重兵特務兵	杉澄駒吉
同	歩兵中尉	前川彦三郎
同	齋藤誠次	丸山嘉一
同	歩兵軍曹	小池重松
同	歩兵少尉	鈴木万作
同	歩兵曹長	春山友武
同	歩兵少尉	豊島元
同	歩兵上等兵	小幕磯重郎
同	砲兵特務曹長	山崎善三郎
同	歩兵特務曹長	岡部彌平
同	歩兵少尉	井上鶴吉
同	一等看護兵	横川良助
同	歩兵中尉	新井慶三郎
同	海軍々醫少將	羽生田俊次
同	二等軍醫	安藤正義
同	歩兵中佐	青木國太郎
同	海軍大佐	岡部彌平
同	救護隊長	岩崎健一
同	歩兵少尉	鈴木万作
同	副長	
同	歩兵曹長	

第二節　青年團・青年訓練所

本市青年團員竝青年訓練所生徒は、或は軍隊宿舍係として、或は縣陪觀貴賓接待係補員（第七篇第三章第二節參照）として、又は市奉送迎係補員（第三篇第二章第五節參照）として能く寄託の任務を遂行したるが、其の實績は左表の如し。尙、女子青年團員は、別節記載の愛國婦人會と共同し、市内七箇所に設置せられたる接待所に於て勤務せり。

第一表　青年團員奉仕人員表（市奉送迎係補員）

奉仕場所 ＼ 團名	西部青年團	東部青年團	北部青年團	南部青年團	城東青年團	計
日次 ＼ 月日						
前橋市奉送迎場 十一月十一日	三	三	三	三	三	一五
十一日	三	三	三	三	三	一五
十二日	三	三	三	三	三	一五
十三日	三	三	三	三	三	一五
十四日	三	三	三	三	三	一五
十五日	三	三	三	三	三	一五
十六日	三	三	三	三	三	一五
十七日	御親閲					
十八日	三	三	三	三	三	一五
計	二四	二四	二四	二四	二四	一二〇

備考

一、毎日午前七時市役所ニ出張聯合團幹事ノ指揮ヲ受ケタリ

二、奉仕者ハ出張ノ際所屬團名及奉仕別ヲ報告シ必要以外ノ物品ハ携行ヲ禁セラレタリ

第二表　青年團員竝青年訓練所生徒奉仕人員表　（軍隊宿舍係）

團所別	日次	市役所假事務所	南曲輪町 影山工場	榎町 政淳寺	田中町 明治裁縫學校	城南小學校	新町 杉邊三代支宅	諏訪町 群馬銀行支店跡	小柳町 茂木馬吉宅	向町 共同組藺買入場	計
西部青年團 桃井青年訓練所	十一日		二								一二
	十二日			二	二						
	十三日		二								
	十四日		二		二						
東部青年團 中川青年訓練所	十一日			二			二				一二
	十二日						二				
	十三日			二							
	十四日							二			
北部青年團 敷島青年訓練所	十一日									二	一四
	十二日		二						二	二	
	十三日									二	
	十四日									二	
南部青年團 城南青年訓練所	十一日				二	二					一四
	十二日					二					
	十三日				二	二					
	十四日					二	二				
城東青年團 城東青年訓練所	十一日							二	二		一二
	十二日							二			
	十三日							二	二		
	十四日			二							
計		八	八	八	八	八	八	八	八	八	六四

備考

一、毎日午前九時市役所ニ出張聯合團幹事ノ指示ヲ受ケタリ

二、服裝　團服又ハ訓練服ヲ著用シ團員ハ腕章ヲ附セリ

三、奉仕者ハ市役所ニ出張所屬團名及奉仕種別ヲ聯合團幹事ニ報告セリ

第三表　青年訓練所生徒奉仕人員表　（縣陪觀貴賓接待係員補員）

種別 / 日次	縣又市 貴賓接待係補員 十日	十一日	十二日	十三日	十四日	計	統監部鳩班 十二日
桃井	一	二	二	一	二	八	一
中川	二	一	二	二	一	八	一
敷島	二	二	一	二	二	九	一
城南	一	二	二	一	二	八	一
城東	二	一	二	二	一	八	一
商工專修		二	一	二	二	九	
計	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	五〇	五

統監部鳩班奉仕者

備考　一、鳩班勤務者ハ當日晝食携行竝自轉車ヲ以テ午前五時三十分市役所ニ集合セリ

第四表　青年訓練所生徒奉仕人員表　（市奉送迎係補員）

場所 / 日次	十日	桃井	中川	敷島	城南	城東	商工專修	附記
	二	二	二	二	二	一	一	一、毎日午前七時市役

第五表　前橋市聯合青年團警備隊奉仕人員表

奉仕場所＼日次	十一日	十二日	十三日	十四日	十五日	十六日	十七日	十八日	計
前橋市役所									
十一日	二	二	二	二	二	二	二	二	一八
十二日	二	二	二	二	二	二	二	二	一八
十三日	二	二	二	二	二	二	二	二	一八
十四日	二	二	二	二	二	二	二	二	一八
十五日	一	一	一	一	一	一	一	一	九
十六日	一	一	一	一	一	一	一	一	九
合計	九〇人								

一、毎日午前七時市役所聯合團幹事ノ指示ヲ受ケタリ
二、奉仕者ハ市役所ニ到著後直ニ所屬訓練所名氏名奉仕種別ヲ聯合團幹事ニ報告セリ
三、服裝ハ訓練服卷脚絆トシ必要以外ノ物品ハ携行ヲ禁シタリ
十七日ハ御親閲拜受ノ爲二年生以下ヲ出張セシメタリ

第六表　前橋市聯合青年團幹事奉仕日割表

奉仕場所＼日次	十日	十一日	十二日	十三日	十四日	十五日	十六日	十七日	十八日	計
市役所	五	五	五	五	五	五	五	五	五	四五
市役所聯合團事務所	二	二	二	二	二	二	二	二	二	一八
市奉送迎係員補員								一五		一五
計	七	七	七	七	七	七	七	二二	七	七八

備考

一、毎日午前七時市役所ニ集合シ聯合團幹事ノ指揮ヲ受ケタリ
二、服裝ハ本團警備隊ノ正服トシ聯合青年團ノ腕章ヲ附セリ
三、隊員ハ市役所ニ出張ノ際直ニ奉仕種別ヲ本團幹事ニ報告セリ
四、十一月十七日ハ青年團及青訓生御親閲拜受ニ付市奉迎係員ノ補員トシテ奉仕セリ

第七表　女子青年團員奉仕人員表　（愛國婦人會ト共同接待所）

區分＼日次	氏名	補助員	附記
前橋市役所			
十日	信澤理事 後閑幹事	第五表ノ警備隊員 二	一、毎日午前七時市役所聯合團事務所ニ出張シ當日奉仕人員ノ服裝及携帶品並各人員ヲ點檢シ勤務割ヲナセリ 二、青年團員及訓練所生徒奉仕者ノ所屬團並氏名、奉仕場所等報告ヲ了シ所定ノ箇所ニ勤務セシメタリ 三、人員ニ不足ヲ生シ或ハ時刻迄ニ出場セサルトキハ所屬團長又ハ主事ニ通報シ所要人員ヲ出場セシメタリ 四、時々奉仕者ノ勤務場所ヲ巡視シ各係員ノ意見ヲ徵シタリ 五、奉仕日記及勤務表ノ整理ヲナセリ
十一日	小井田幹事 林幹事	同 二	一
十二日	大澤理事 信澤幹事	同 二	一
十三日	後閑幹事 井田幹事	同 二	二
十四日	小林幹事 大淵幹事	同 二	一
十五日	信澤理事	同 二	三
十六日	馬場幹事	同 二	四
十七日	警備隊長	同 二	五
十八日	馬場幹事	同 二	一

奉仕場所 ＼ 日次	桃井女子青年團				中川女子青年團				敷島女子青年團				城南女子青年團				城東女子青年團				計
團名	十一日	十二日	十三日	十四日	十一日	十二日	十三日	十四日	十一日	十二日	十三日	十四日	十一日	十二日	十三日	十四日	十一日	十二日	十三日	十四日	
新町赤十字病院入口					三	三	三	三													一二
城東小學校入口																	三	三	三	三	一二
國領町電車通り西側横地氏所有ノ空地								三			三						三	三	三	三	一二
岩神町水道入口角									三	三	三	三									一二
紅雲町通り西側（市川屋西側）	三	三	三	三																	一二
前代田農事試驗場東方		三		三									三	三							一二
田中町停車場通り東側中央自動車會社所有空地													三		三						一二
計	一八				一五				一八				一八				一五				八四

備考

一、毎日午前九時市役所ニ出張幹事ノ指示ニ依リ所定ノ箇所ニ於テ奉仕セリ

二、服裝ハ團服ヲ著用指定ノ標識ヲ附セリ

三、奉仕者ハ出張ノ際市役所ニ所屬團名ヲ報告セリ

第三節　愛國婦人會前橋市分會

愛國婦人會前橋市分會に於ては、縣支部と協力し市内七箇所に湯茶接待所を開設し、各役員の出動と女子青年團員との補助に依り、十一月十一日より十八日迄左記の方法に依り、軍隊及一般民衆に對し湯茶の接待を行ひたるが、其の接待所

位置竝擔當役員の氏名は別記の如し。

接待方法

一、接待係員は分會役員・支部評議員竝會員有志

二、接待に從事する人員は午前午後各三人宛交代のこと　外に女子青年團員三名宛の應援あり

三、時間は午前八時より正午まで　正午より午後五時までとす

四、服裝は質素を旨とし「エプロン」の類を用ふること

五、一箇所に人夫一名を配置す

接待所位置竝擔當役員

一　田中町停車場通東側（中央自動車會社所有空地）

鈴木ゑ滿　高橋こま　山田みち　北川淑子　野中かの　大島ウタ

田中八代枝　三井田テイ　松村さだ　石崎いく　井倉うめ　宮川ふづ

西川せい　矢部ちか　野村みつ　羽生田いま　猪熊ゑみ　色川たけ

書木いと　筒井てん　柴田とよ

二　新町日本赤十字社群馬支部病院入口

小池れい　深町ふじ　勝山ゑゝ　山本タケ　竹内ぜん　後藤ユキ

兼田みね　江原とよ　高橋ぐん　津久井ふさの　糸井なを

三　城東尋常小學校入口

鈴木もと　櫻井ふん　田村かつ　高柳よし　宮島きち　山下花子

關根イネ　吉野わか　河野ゑゑ　山下はる

四　國領町電車通西側（横地氏所有空地）

茂木ふげる　堀かずよ　松村靜枝　吉井ふげ　近藤エイ　小松ゑゑ

北川ゑみ　竹村せき

五　岩神町五間道路水源地入口

塚越とく　加藤トク　杉立ふ茂　岡部いと　木村もと　柊千代

六　紅雲町通西側（市川屋西側）

野口ちやう　福島ふげ　折原やい　中本富代　田中きやう　屋代なを

豊國花子　六本木はま

七　前代田群馬縣農事試驗場東方

平方さと　林ハツ　鹽入與志　前田ミツ　小林かつ　小林みね

第二章　大本營・行在所内裝飾奉仕

第一節　生華・盛花

御駐輦中大本營・行在所内各室に生華・盛花を配置し、以て　天覽に供し奉りたるが、其の奉仕願及本市内の奉仕者住所氏名は左記の如し。

活華盛花奉仕願

今秋當地ニ陸軍特別大演習擧行セラレ本縣廳内ニ大本營ヲ置カレ畏モ　聖上陛下ニハ統監ノ御任務ヲ以テ數日間御駐輦ノ趣拜聞致候ニ付テハ　聖上陛下ノ御旅情ヲ御慰ムルノ微意ヨリ大本營各室へ本市竝高崎市有志ノ挿セル活華盛花ヲ提出奉仕致度候間陳列方御取計相成度此段相願候也

昭和九年七月十六日

前橋市立川町七十番地

大日本華道會前橋支部長　增田浪五郎

群馬縣知事　金澤正雄殿

生華種類及奉仕者住所氏名

月日	種類	住所	氏名
十一月十日	萬年青	立川町	增田浪五郎
	五葉松	榎町	中山シヅエ
	五葉松	石川町	野村ふさ
	朝鮮槇	曲輪町	松岡たけよ
十一月十一日	本市内の奉仕者なし		
十一月十二日	老松	田中町	古平芳子
	萬年青	小柳町	青木定吉
	五葉松	琴平町	關龜太郎
	五葉松	清王寺町	小松虎三
	五葉松	小柳町	田村貞平
	南天	竪町	西川宗重郎
	神代杉に小菊	紅雲町	千輝ゑ美子
	松に菊	向町	小澤正枝
十一月十三日	五葉松	北曲輪町	忍足こと
	月桂樹	曲輪町	能條操
	萬年青	石川町	中島壽枝子
	深山松	清王寺町	駒宮はる
	萬年青	南曲輪町	北川たみ
	竹	紅雲町	中野藤太郎
十一月十四日	本市内の奉仕者なし		
十一月十五日	同		
十一月十六日	同		
十一月十七日	五葉松	神明町	高山新十郎
	竹に菊	堀川町	林小四郎
	五葉松	大塚町	齋藤善平
	松に菊	細ケ澤町	磯貝孝次郎
	萬年青	曲輪町	國峯はす

盛花種類及奉仕者住所氏名

十一月十三日

カラタスゲーエシタ	堀川町	狩野浩基	
パンダナス	小柳町	櫻井志ん	
ドラセナ	新町	江原泰子	
小谷	渡田町	神田きみ	
實著	南天新町	江原歌子	
ケンチヤ	紅雲町	長谷川いち	
玉しだ	石川町	永井たか	
松	竪町	石井みき	
玉しだ	曲輪町	大島かつ	
杉	岩神町	野口せく	
ひもろ杉	神明町	島田よね子	
鐵砲百合	諏訪町	古川きよ子	

十一月十七日

特別盛花種類及奉仕者住所氏名

十一月十日	君子蘭	立川町	增田浪五郎
十一月十一日	本市外の者奉仕す		
十一月十二日	ブバルジイヤ	田中町	古平芳子
十一月十四日	本市外の者奉仕す		
十一月十五日	スウキトビー	石川町	永井たか
十一月十六日	センセリユーム	小柳町	青木定吉

第二節　菊花

ばら	横山町	石川ふみ子	
カーネーション	相生町	津久井信子	
水仙	一毛町	關根美那子	
南天	才川町	塚田喜一	
アスパラカス	萱町	石川昌子	
杉	岩神町	久保田志ゞ子	
鐵砲百合	神明町	落合ヨシノ	
フエニツクス	立川町	增田ひで	
四季咲つゝじ	大塚町	下川アイ子	
千兩	高田町	澁澤かん	
杉	前代田	北爪萩松	

御駐輦中大本營・行在所内に盆養菊を陳列し、以て　天覽に供し奉りたるが、其の奉仕願及本市内の奉仕者住所氏名は左記の如し。

盆養菊奉仕願

今秋當地ニ陸軍特別大演習擧行セラレ本縣廳内ニ大本營ヲ置カレ畏モ　聖上陛下ニハ統監ノ御任務ヲ以テ數日間御駐輦ノ趣拜聞致シ候ニ付テハ　聖上陛下ノ御旅情ヲ御慰ムルノ微意ヨリ大本營各室ヘ本會會員ノ培養セル盆養菊花ヲ提出奉仕致度候間陳列方御取計相成度此段相願候也

追テ右菊鉢數ハ立菊八十鉢縣崖作二十鉢（内岩付十鉢、柱十鉢）ニテ多少ノ增減ハ差支無之候ニ付申添候

昭和九年七月六日

群馬縣知事　金澤正雄殿

上毛好菊會長　江原桂三郎

盆養菊奉仕者住所氏名

住所	氏名	前代田	西脇常吉
南曲輪町	羽鳥升平	同	阿部勝治
同	角田省三	同	大崎喜太郎
曲輪町	生方德三郎	同	若井源一郎
岩神町	永井多門	同	關秀次
向町	木村安三郎	岩神町	丸山政吉
神明町	沼田淺吉	前代田	風戸長十郎
前田好雄	前代田	前田好雄	前代田
竹鳥米作	同	平松浦次郎	中川町
品田清作	前代田	米山正方	岩神町
飯田一郎	片貝町	田矢辰藏	同

前代田　秋田熊造　清王寺町　石橋庄吉　紅雲町　鈴木勇次郎
同　小林正雄　百軒町　廐川重敏　萩町　田中松太郎
神明町　栗原忠太郎　同　久保園善次郎　岩神町　深田馬二
片貝町　後藤吉五郎　北曲輪町　大澤廣一　本町　勝山武
横山町　小沼友吉　高田町　田中豊　南曲輪町　須田俊彦
中川町　長島榮次郎

第三節　盆栽

御駐輦中の御旅情を御慰め奉らむとの微意より、大本營・行在所内に盆栽を陳列して　天覽に供し奉りたり。本市内の奉仕者住所氏名左記の如し。

盆栽奉仕者住所氏名

種類	住所	氏名			
錦松	岩神町	今井新太郎	小品棚一組十點	田中町	伊東保乃麿
同	同	同	五葉松	曲輪町	羽生田仁作
五葉松	同	同	黑松	中川町	長谷川安榮
同	同	同	五葉松	同	同
同	同	同	阜月	榎町	長谷川倉吉
同	同	花櫚	夷蝦松	同	同
同	同	田中町	五葉松	同	同
杓杞	同	伊東保乃麿	同	同	同
梨	同	同	阜月	清王寺町	戸田松治郎
阜月	清王寺町	戸田松治郎	五葉松	同	同
同	同	同	黑松	同	同
同	同	同	五葉松	同	同
同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同
同	同	同	夷蝦松	一毛町	富岡國三
同	同	同	同	同	同
五葉松	同	同	五葉松	同	同

五葉松	一毛町	富岡國三	夷蝦松	百軒町	軍司秀俊
同	同	同	五葉松	同	同
槇柏	同	同	同	同	同
夷蝦松	同	同	阜月	同	櫟
五葉松	神明町	横地長三郎	同	同	蔓擬
夷蝦松	同	同	錦松	向町	山崎鐵城
五葉松	清王寺町	角田善十郎	黑松	同	同
槇柏	同	同	五葉松	南曲輪町	前原寅七
黑松	芳町	中島只五郎	槇柏	同	夷蝦松
槇柏	同	同	五葉松	田中町	福田源四郎
五葉松	同	同	五葉松	同	同
黑松	堀川町	中吉敏郎	同	同	同
赤松	同	同	蘭	同	同

第三章　雜

第一節　校舍の使用

大演習竝地方行幸に關聯し、校舍の使用は前演習地の實際に徵し、略ゝ之を豫想し得たるを以て、各小學校に於ては、第一學期・第二學期の教授細目を變更し、學科進度を斟酌して、豫め其の對策を講じたり。期間中に於て、校舍の使用或は奉送迎等の爲、授業は廢したることありたるも、長期に亘る休業は行ふことなくして、好都合に取運びたり。而して各

學校別の校舍使用狀況は左記の如し。

學校名	使用ノ目的	使用部分	使用期間
久留万高等小學校	御警衛補助員休憩所	圖畫室	十一月十二日
	參謀總長宮殿下御招宴場	南校舍全部及校庭	十一月十四日
	參謀本部總務部長招宴場	南校舍全部及校庭	十一月十五日
桃井尋常小學校	大本營衛兵宿舍	教室十五校庭全部	自十一月五日至十一月十三日九日間
	行在所衛兵宿舍	教室十五校庭全部	自十一月十四日至十一月十八日五日間
	御紋菓奉置所	教室二	自十一月十一日至十一月十三日三日間
中川尋常小學校	御警衛警備警察官宿舍	講堂及教室二十五	自十一月八日至十一月十九日十二日間
敷島尋常小學校	群馬縣車輛本部	校庭全部	自十一月一日至十一月二十日二十日間
	參謀本部車輛係員事務室及宿舍	職員室一、唱歌室一	自十一月六日至十一月十五日十日間
	群馬縣車輛本部事務室	教室二	自十一月五日至十一月十六日十六日間
	御警衛警備警察官宿舍	教室七	自十一月六日至十一月十八日十三日間
	群馬縣車輛本部運轉者宿舍	教室十七	自十一月六日至十一月十八日十三日間
城南尋常小學校	御警衛警備警察官宿舍	校舍全部	自十一月八日至十一月十八日十一日間
	御警衛警備警察官檢閲場	校庭全部	十一月九日
城東尋常小學校	御警衛警備警察官宿舍	教室十九	自十一月十四日至十一月十七日四日間

第二節　大本營・行在所跡拜觀

大本營・行在所跡拜觀に關しては、別記十一月五日群馬縣告示第五百六十八號に基き、各團體長及各區長に對し、左記通牒を發送して其の部內に周知せしめ、市會議員・區長・奉迎委員（市會議員及區長以外の者）には、別途の通牒を以て二十日午前中市役所に參集を求め、團體員として拜觀方を取計ひ、又市吏員は十一月二日演大第三四號縣總務部長の通牒に依り、十九日午後一時より之を拜觀せしめたり。

演發第五二九號

昭和九年十一月九日

各消防區
軍人分會長
市立各學校長頭
青年團長
青年訓練所主事　宛

前橋市長

大本營・行在所跡拜觀ノ件

昭和九年陸軍特別大演習並地方行幸ニ際シ大本營又ハ行在所ニ御使用被爲在タル縣廳舍ヲ左記要領ニ依リ拜觀可差許旨其ノ筋ヨリ告示相成候條（「爲念及通知候也」……學校團體宛）貴部內ヘ周知方御取計相成度

記

拜觀要領　（省略）

群馬縣告示第五百六十八號（演大）

昭和九年陸軍特別大演習並地方行幸ニ際シ大本營又ハ行在所ニ御使用被爲在タル縣廳舍ヲ御還幸後拜觀方其ノ筋ノ承認ヲ得タリ拜觀要領左ノ如シ

昭和九年十一月五日　　群馬縣知事　金澤正雄

一　期日及時間

自昭和九年十一月二十日
至同年同　月二十二日三日間（自午前八時至午後四時）

月日	午前午後		
十一月二十日（第一日）	團體	（前橋市內）	一般
十一月二十一日（第二日）	團體	一般	
十一月二十二日（第三日）	團體	一般	

團體ハ學生、生徒、兒童、在鄕軍人、青年訓練所、青年團、消防組其ノ他責任アル引率者ヲ有シ統制アルモノニ限ル

小學校兒童ハ四年生以上トス

二　服　　裝

不敬ニ亙ラサル範圍ノモノトス

三　拜觀順序

縣廳正門ヲ入リ表玄關ヲ入口トシ一階南方ヨリ南端階段ヲ昇リ二階南方各室ノ拜觀ヲ終ヘ正面階段ヲ昇リ三階北方ヨリ北端階段ヲ降リ北方玄關ヲ出口トシ北門ヨリ退場スルモノトス

四　拜觀者心得

イ　拜觀中ハ靜肅ヲ旨トシ御座所、御統監室、御食堂等拜觀ノ際ハ脫帽ノコト

ロ　構內ニ於ケル喫煙ヲ嚴禁ス

ハ　履物ハ靴又ハ草履以外ノモノハ許サス

雨天等ノ場合ニシテ下駄或ハ雨具ヲ携帶スルトキハ必ス風呂敷ヲ持參シ之ヲ包ミ携行スヘシ以上ノ場合風呂敷持參ナキ者ハ入場ヲ禁スルコトアルヘシ尙草履ハ用意セス

ニ　拜觀者ハ場內外監視員及整理員ノ指揮ニ從フヘシ

第三節　天覽品の陳列

今次の陸軍特別大演習並地方行幸に際し、御駐輦中、大本營・行在所內に於て、畏くも　天覽の光榮を賜はりたる本市模型・學術成績品・產業上の謹製品（御買上品を除く）及御著輦當日本市長より捧呈したる上表書謄本等を臨江閣に陳列し十一月二十七日より二十九日に至る三日間の豫定を以て、一般市民の拜觀に供したるに、市民は固より他市町村よりの拜觀者も、意想外の多數を算し、豫定の期間內には、到底其の希望に添ふこと能はざる實情に鑑み、十二月一日正午まで期日を延長し、前後五日間に亙りて拜觀せしめたり。而して本件に關し、區長其の他各團體長等に發送したる通牒は、左記の如し。

尙、曩に御聖蹟に指定せられたる臨江閣內　明治天皇行在所も、此の機會に拜觀せしめ、御聖德を追念せしめたり。

勸發第一二九九號

昭和九年十一月二十四日

宛　　前橋市長

天覽ヲ賜リタル物產並成績品陳列會開催ニ關スル件

昭和九年陸軍特別大演習御擧行ニ際シ畏クモ　天覽ヲ賜リ候本市物產並學藝成績品ヲ市內一般ニ拜觀セシムヘク左記ニ依リ陳列會開催候條貴區內一般ニ周知ノ上多數拜觀相成候樣可然御取計相成度此段及通知候也

記

一、陳列會開催期日　自昭和九年十一月二十七日至同年十一月二十九日三日間　每日自午前九時至午後四時

一、陳列會場　柳町臨江閣及別館

一、入場料　無料

追テ入場ノ節履物整理ノ爲メ新聞紙又ハ風呂敷御所持ノコト

第四節　感謝狀及挨拶狀

一、感謝狀

陸軍特別大演習竝地方行幸に際し各種の團體が、警備・犒軍・防疫・救護・其の他各般の事項に渉り、終始一貫能く本市の事務遂行を援助せられたるは深く多とする所にして、本市は之に對し感謝の微意を表する爲、各種團體に夫々左記の通感謝狀を贈呈せり。

感謝狀（其ノ一）

前橋消防組
帝國在鄉軍人會前橋市聯合分會
前橋市聯合青年團
前橋市醫師會
前橋市藥劑師會
糸井看護婦會
梁瀨看護婦會
大島看護婦會
蓮看護婦會
新井看護婦會

感謝狀（其ノ二）

各通

田尻看護婦會

今般陸軍特別大演習竝地方行幸ニ際シ盡瘁セラレタル效績不尠依テ金一封ヲ贈呈シ茲ニ感謝ノ意ヲ表ス

昭和九年十二月四日

前橋市長　江原桂三郎

帝國在鄉軍人會前橋市第一分會
帝國在鄉軍人會前橋市第二分會
帝國在鄉軍人會前橋市第三分會
帝國在鄉軍人會前橋市第四分會
帝國在鄉軍人會前橋市第五分會
帝國在鄉軍人會前橋市第六分會
帝國在鄉軍人會前橋市第七分會
帝國在鄉軍人會前橋市第八分會
帝國在鄉軍人會前橋市聯合分會救護隊
前橋市東部青年團
前橋市西部青年團
前橋市南部青年團

各　通

今般陸軍特別大演習竝地方行幸ニ際シ盡瘁セラレタル效績不勘依テ茲ニ感謝ノ意ヲ表ス

昭和九年十二月四日　　前橋市長　江原桂三郎

前橋市北部青年團
前橋市城東青年團
前橋市聯合青年團警備隊
前橋市立商工專修學校
前橋建築業組合
前橋鐵工業組合
前橋鳶職組合
前橋製絲同業組合
前橋寫眞業組合
株式會社高島屋
前橋工業試驗場長　塚越萬平殿
關根道之助殿

感謝狀（其ノ三）

株式會社前橋印刷所
株式會社煥乎堂

各　通

今般陸軍特別大演習竝地方行幸ニ際シ盡瘁セラレタル效績不勘依テ木杯一箇ヲ贈呈シ茲ニ感謝ノ意ヲ表ス

昭和九年十二月四日　　前橋市長　江原桂三郎

蟻川元治殿
栗本小市殿

二、挨拶狀

本市に來宿せられたる、陸軍特別大演習陪觀貴賓竝宿營の聯隊長以上及其の宿舍主の外、事務遂行に關し特に配意を煩したる關係各市の市長助役等に對し、左記の通挨拶狀を發送せり。

挨拶狀（其の一）

謹啓晩秋の候益々御清祥奉慶賀候陳者今回當地方を中心として擧行の陸軍特別大演習に際し本市に御滯在の節は設備萬端不行屆にて誠に恐縮の至に不堪候何卒不悪御寛容被成下度先は以書中御挨拶申述度如斯御座候　敬具

昭和九年十一月二十日　　前橋市長　江原桂三郎

市內宿泊各陪觀貴賓
市內宿營各聯隊長以上　宛

挨拶狀（其の二）

謹啓晩秋の候益々御清穆奉慶賀候陳者今回の陸軍特別大演習に際しては　畏くも大本營を本市に置かせられ旬日に亙り

鳳輦を駐めさせ給ひしこと洵に本市の光榮にして欣快に堪へざる次第と御座候殊に宿泊の來賓接遇に關しては各位の多大なる御心勞に依り至れり盡せりの御待遇に接し貴賓何れも御滿悅退橋の趣誠に御同慶の至に不堪候御厚情に對し茲に深甚なる感謝の意を表し度不取敢以書中御挨拶迄如斯御座候　敬具

昭和九年十一月二十日

前橋市長　江　原　桂　三　郎

市內宿泊陪觀貴賓各宿舍主
市內宿營部隊聯隊長以上各宿舍主　宛

挨　拶　狀　（其の三）

謹啓晩秋の候益々御清榮奉慶賀候陳者今回當地方を中心として擧行の陸軍特別大演習竝地方行幸に關しては格別の御配慮を煩し候處御蔭を以て諸事滯りなく終了を告げ候段難有奉拜謝候茲に以書中御挨拶申述度如斯御座候　敬具

昭和九年十一月二十六日

前橋市長　江　原　桂　三　郎

高崎・桐生・足利・福井・水戸・各市長・各助役宛

第五節　慰勞招宴及記念品贈呈

今次の陸軍特別大演習竝地方行幸に際し、本市が諸般の事務を無事完全に遂行し得たるは、深く慶幸とする所にして、之れ偏に關係各員が、終始一貫克く至誠奉公の赤心を捧げ、和衷協同の精神を以て事に當りたるの賚に外ならず、乃て本市は之が感謝と慰勞の爲に、招待の筵席を催し、粗餐を供し且記念木杯及打菓子を贈呈せり。其の案內狀及日時・會場・人員等左記の如し。

謹啓晩秋の候益々御清榮奉慶賀候陳者今回陸軍特別大演習竝地方行幸に際しては多大の御配慮を辱うし御蔭を以て無事終了を告げ候段難有奉拜謝候就ては右御禮旁々粗餐差上度候間御多用中御迷惑とは存じ候へ共來る（日時場所）迄御來駕の榮を得度御案內申上候　敬具

昭和九年十一月　日

前橋市長　江　原　桂　三　郎

招　待　者　宛

奉迎委員	（市會議員及區長を除く）	十一月二十二日午後五時	臨江閣別館　一四〇人
奉迎委員	（市會議員及區長）	十一月二十三日午後五時	臨江閣別館　七五人
事務委員		十一月二十三日午後零時	臨江閣別館　九九人
縣官其他		十一月二十四日午後五時	嬉野　三八人

右の外、市立學校・幼稚園・青年訓練所等の關係者三百餘人に對しては、打菓子・名所繪葉書・鳥瞰圖等を贈呈して謝意を表し、市役所關係給仕・使丁・土木工夫・園丁・掃除夫・運轉手等六十二人に對しては、市廳舍樓上に於て慰勞會を開催し、赤飯折詰・肴折詰・酒二合壜詰・打菓子・名所繪葉書・鳥瞰圖等を贈り、其の勞を慰藉したり。

第六節　御駐輦中の氣象

群馬縣前橋測候所に於て觀測せし、御駐輦中の氣象は左記の如し。

御駐輦中の氣象

月日	觀測時	氣壓	氣溫	濕度	風向	風速	天氣
十一月十日	正午	七四六、七	一六、二	三九	南	二、三	晴
	午後六時	七四七、五	一〇、〇	五六	北北西	三、四	快晴
十一月十一日	正午	七四六、九	一三、五	四九	北北西	一、二	曇
	午後六時	七五一、六	六、四	六三	西北西	三、一	快晴
十一月十二日	正午	七五六、八	一一、〇	四六	北	一一、一	快晴
	午後六時	七五一、一	七、二	四九	北北西	五、八	晴
十一月十三日	正午	七五六、五	一一、七	五〇	南南東	二、五	曇
	午後六時	七五四、九	八、六	七九	—	〇、四	曇
十一月十四日	正午	七四五、九	一四、七	四六	北	七、二	晴
	午後六時	七五〇、二	八、四	五六	北北西	九、九	快晴
十一月十五日	正午	七四九、六	一二、八	四四	北	一、三	曇
	午後六時	七五四、一	六、〇	六三	北北西	五、五	快晴
十一月十六日	正午	七五八、一	一一、七	五二	北	三、八	晴
	午後六時	七五九、六	八、二	五四	北北西	六、四	快晴
十一月十七日	正午	七六〇、七	一二、九	五二	南南東	三、〇	快晴
	午後六時	七六〇、八	六、九	八一	北	二、三	快晴
十一月十八日	午前二時	七五九、八	四、八	七六	北西	三、七	快晴
	午前六時	七五九、〇	四、四	七六	北西	四、一	曇

第七節　交通機關の乘降客

大演習竝地方行幸期間及其の前後に於ける、本市に來往の人員は、異常の多數に達し、之が精確なる數字を知ること能はず、殊に自動車・自轉車・徒歩に依るものに在りては、全く不明なるも、省線前橋驛・上毛電鐵中央前橋驛・東武鐵道岩神停留所に於ける、十一月中の乘降客人員は左表の如し。

月日	前橋驛 乘客數	前橋驛 降客數	中央前橋驛 乘客數	中央前橋驛 降客數	岩神停留所 乘降客數
十一月一日	七八三人	八〇四人	五六八人	五三三人	一、三七九人
二日	八三九	八九四	三九七	四三八	一、三〇一
三日	一、四九四	一、五五〇	一、〇一七	一、〇一〇	一、六七六
四日	一、四八七	一、五〇七	五二四	五二二	一、六五八
五日	九六一	一、〇一二	八〇七	七八三	一、〇五八
六日	八〇七	一、〇三一	七〇四	六九二	七六四
七日	七六九	一、一八四	七〇八	七二一	一、〇〇四
八日	九五一	一、二八一	七九二	八三九	九五九
九日	九九三	二、七五二	四〇二	四〇二	一、八七七
一〇日	二、〇一五	二、一五五	五〇八	五四六	二、一二〇
他驛線臨定期同數延人員	(五、八一二)	(五、八一二)	—	—	—
一一日	一、三〇七	一、七六一	三六八	三四二	三、一四六
一二日	二、七〇六	二、六九七	八二一	八八七	二、二〇六
一三日	二、七六九	五、六五二	七四三	四九〇	二、六六九
一四日	四、三六五	四、四〇三	一、四七八	九九〇	一、九〇四

一五日	一〇、三六四	五、五〇七	二、三三九	二、九六四	五、七九一
一六日	四、八〇六	一、九五一	七三六	六四三	一、四七九
一七日	二、四三六	二、七五四	一、〇五五	九六〇	一、七四七
一八日	三、三七四	二、〇三三	七一四	六〇七	一、五一四
一九日	一、〇〇三	八六四	一、四四五	一、一九九	一、二一六
二〇日	一、五〇四	一、二四二	五九四	六六四	一、三一六
他郡役賣定期同數延人員	(一、七八二)	(一、七八二)	—	—	—
二一日	七、三四八	七、三七六	一、九一六	一、七六八	三、九〇五
二二日	七、〇四一	六、三二一	二、六四九	二、三八七	三、〇四〇
二三日	一、三三七	一、〇九三	五〇〇	四七六	一、三八一
二四日	九三八	八六一	四〇六	四一五	一、二二〇
二五日	一、〇五五	一、〇七七	五九四	五七四	一、四六四
二六日	五五五	八八〇	五〇〇	四八九	一、〇九八
二七日	八四六	八八二	四四一	四三四	一、三九二
二八日	八四三	八一六	一、四一九	一、四〇七	一、一三三
二九日	八八二	八八九	九〇八	九四七	一、二一七
三〇日	九三四	九八七	四二〇	四六一	一、一一三
他郡役賣定期同數延人員	(五、九三八)	(五、九三八)	—	—	—
合計	八一、一九〇	七七、七四九	二七、四七三	二五、五九〇	五三、七四七
一日平均	二、七〇六	二、五九二	九一六	八五三	一、七九一
昭和八年十一月中一日平均	一、四四六	一、四八六	五八二	五五四	一、三五五

第八節　前橋中學校の移轉新築

市内紅雲町所在の群馬縣立前橋中學校校舍は、明治三十年の建築にして既に三十有八年を經過し、腐朽漸く甚しく、改築の要は夙に之を認めたりしも、縣財政の關係上其の實現を見ざりしは、常に遺憾とせし所なるが、偶〻本縣を中心として陸軍特別大演習の行はせらるるに際會し、急速に改築の要に迫られ、本市竝同校同窓會より其の敷地一萬坪を寄附し、昭和九年三月九日縣參事會の議を經て、地を市内天川原地内古墳二子山西方に相し、本市の斡旋に依り、各地主の格別なる理解を得て、左記敷地の買收を行ひ、四月十一日地鎮祭を執行工事に著手、八月二十日校舍全部を竣工して移轉せり。越えて十一月十五日畏くも　聖上陛下の行幸を仰ぎ奉り、翌十二月二十八日　行幸記念碑落成式及新築落成式を擧行せり。之が建物の概況別記の如し。

敷地買收内譯

字	地番	地目	地積	外畦畔	地積計	單價	價格	住所氏名
天川原東下	二三ノ二	田	反 七二七	—	反 七二七	坪 二、三〇円	五四五、一〇	新町　江原桂三郎
計					七二七		五四五、一〇	
天川原東上	三二八	田	一二三	五	一二八	坪 二、三〇	一三三、四〇	高田町　北爪奈邊吉
	三二七ノ二	畑	九二三	一	九二三		六七三、九〇	
計					一、一二一		八〇七、三〇	